



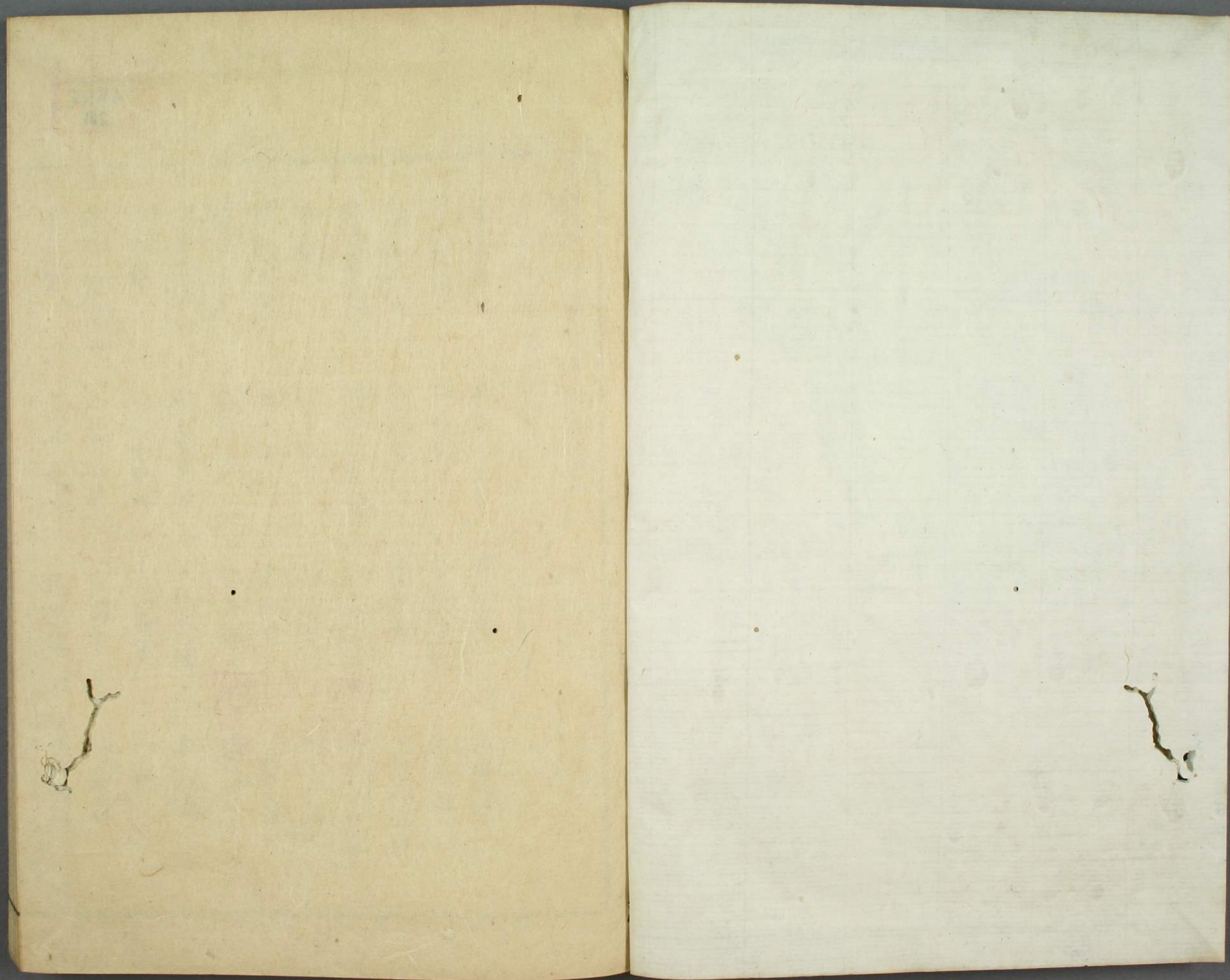
尾張名所圖會

後編

三

ル 4  
4597  
10





門ル  
號 4597  
卷 10

所圖會後編卷之三

目錄 春日井郡上



春日井郡解	大進物圖	山王權現社	家傳夢想丸	御園	淨念寺跡	獨活	阿原天神社	駿河塚	庄内川堤櫻樹	西方寺
清須	五條橋	正覺寺	琉球人休息の圖	中島宮	朝日橋	稚川菽	堀江觀音堂	中河原桃林	小田井城跡	小田井疊表
同総圖	牛頭天王社	清涼寺	小山田紀内の話	總見院	落合里	白木橋	土器野里	下河原笋	宝國寺	琵琶塚
同古城跡	花火圖	上畠神明社	御樹木屋敷	朝日殿宅址	宮重大根	同故事	新川橋	ニッ松	神明社	五ヶ所神

早稲田 大學 圖書館  
昭 35.1.28  
藏 書

願王寺	東雲寺	星大明神社	大聖院
法源寺	長善寺	東岸居士舊跡	新福寺
圓福寺	伊奴神社	稻生合戦	稻生堤
伏越松	觀音寺	丹羽長秀	多奈波太神社
越智氏城跡	林泉寺	綿神社	鍛冶屋敷
平手政秀宅址	小僧菴菽	安食氏旧居	聖徳寺
乘圓寺	成願寺	味鏡村	味鏡神社
天永寺	陰陽師元夫	大井神社	瑞應寺
蛇池	佐々内藏助城跡	洗堰	大野木堤
大乃伎神社	塙宗悦宅址	小高園天神社	高田寺
平田寺	黒池龍神社	松元院	十所社
山王社	菅天神社	法成寺廢址	徳重里
林證寺	志賀田天神社	仁昌寺	訓原神社

熊野社	推川鯉抱の事	日光寺	牟都志神社
常安寺	物部神社	春日井原	西行堂上橋
外山神社	妙藏寺	片山神社	龍徳寺
坂庭神社	多氣神社	尾張神社	栗田地神社
栗崎氏保童圓	連理木	木津川	小木里
宇津宮社	船津社	賢林寺	正眼寺
小牧驛	小牧山	同城址	神明社
玉林寺	西源寺	八幡社	實々天神社
龍音寺	岩崎山	丹羽氏家傳妙劑	二重堀岩跡
田縣神社	主惠郷	小松寺	大泉寺
白山社	非多天神社	児權現社	

春日井郡上

當郡の愛智郡の北に並ひ國の中央より民の方一長く美濃三河の國界にまゝり郡中の村里田畠豐饒なりて東に三河の賀茂郡に隣り南に愛智郡とまゝり西に海東中島の二郡に接し北にまゝり丹波郡と隣り其より東のまゝり美濃の可兒郡土岐郡小豆郡とまゝり春日部春日部ともいふと應永以前の頃より今のまゝ春日井の文字と用ひたり  
三代實録の貞觀十九年の祀延喜民部式和名抄益囊抄等には春日部と記し延喜神名式拾芥抄梅華元冬藏元來國內の大郡なり  
三國傳記等に春日部と記し其小田郡なり  
まゝり山田郡の廢れ後其村里多く當郡に屬す今にまゝり廣大なる郡と好む

清須 當郡中西南のまゝり南の中央あり中昔より武家守護の居城の地として清須府とすをまゝり清須府の後、駿倉とのまゝり東海道より美濃路へ通し宿守うけ旅

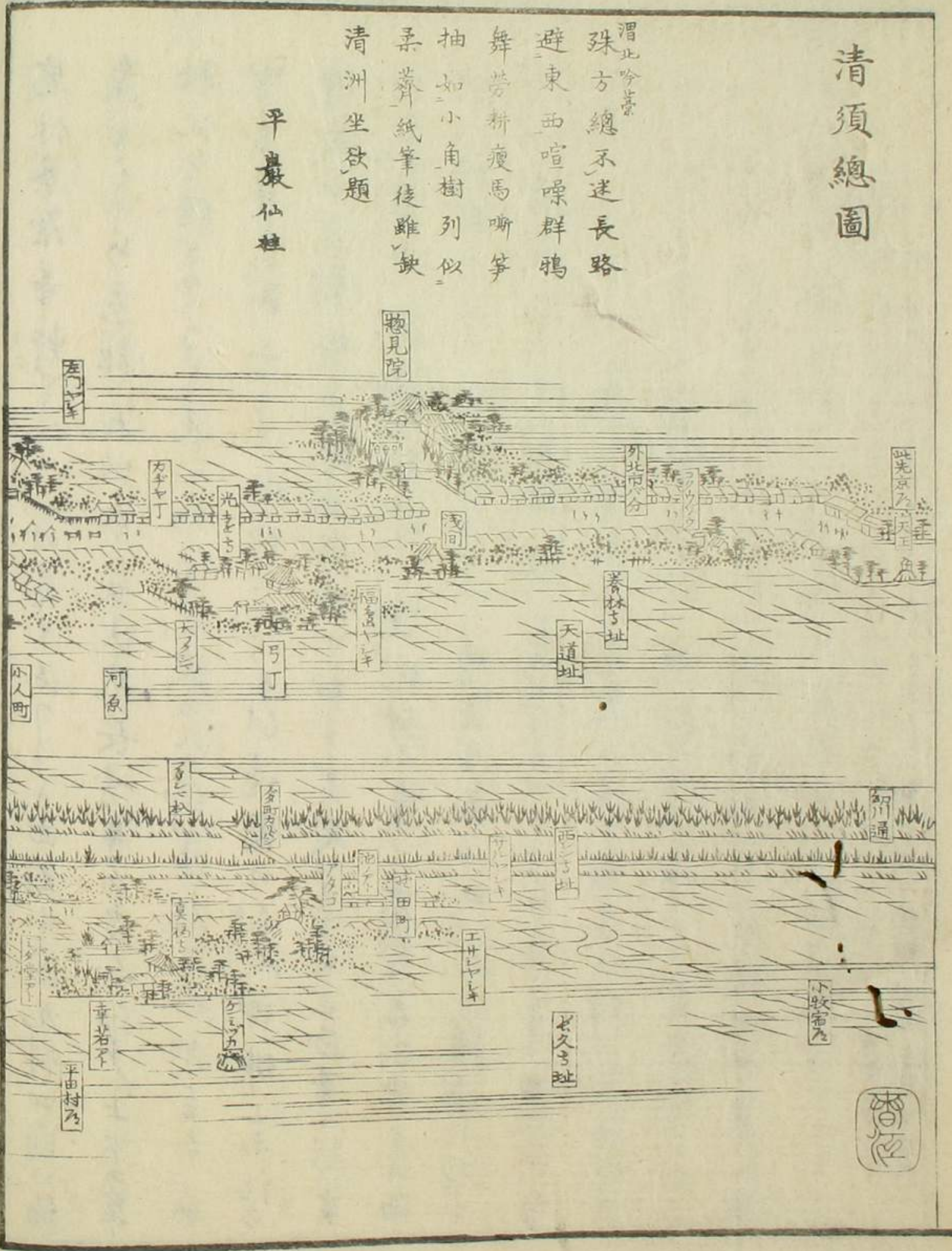
宿休茶屋等軒とす此町並より西國中國九州四國の諸侯とすり京都大坂奈良伏見長崎等の友人江戸上下の輩此地を經ざらば又勅使院使の公卿諸親王御門主などのいも尊き御方も此地と過るは諸國の名人神佛と承治の貴賤あり朝鮮琉球の聘使の御も足とすりまゝり其小繁華の一都會とす境地狭く當郡及び中島海東の三郡小豆郡十二村合して町並も數十町あり清須とす号の神鳳抄の清須御厨とす古今六帖の藻の奇に藻より今をあらはす地名といひけるまゝり思はれ今をあらはすまゝり此清須のまゝり思ひけるや徹書記の清須小豆をまゝり

魁草 郡の所にいふまゝり

清須總圖

渭北吟  
 殊方總不迷長路  
 避東西喧噪群鴉  
 舞勞耕瘦馬嘶笳  
 抽如小角樹列似  
 柔莖紙筆徒雖缺  
 清洲坐飲題

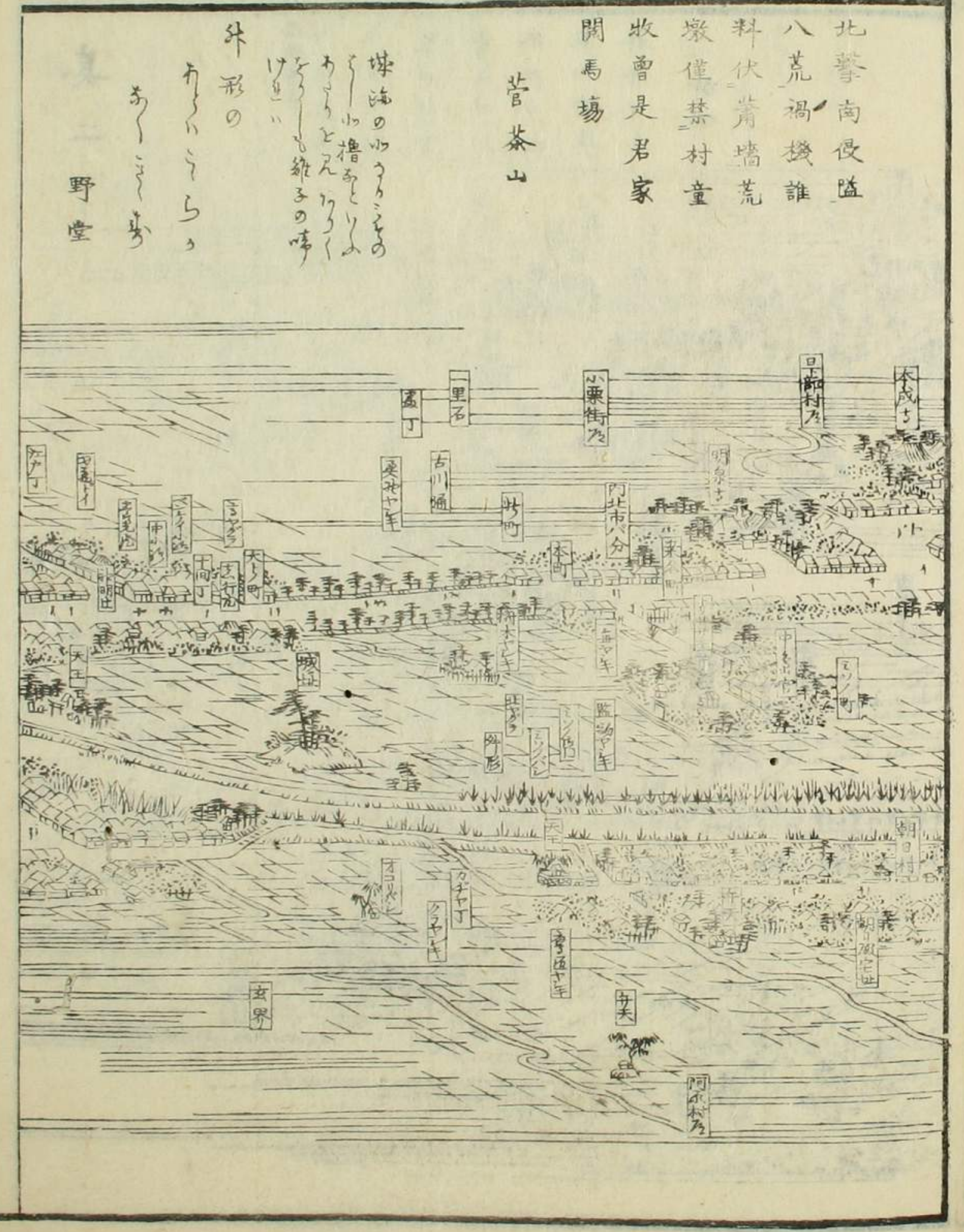
平巖仙桂



北警南侵隨  
 八荒禍機誰  
 料伏蕭牆荒  
 塚僅禁村童  
 牧曾是君家  
 閑馬場

北管茶山

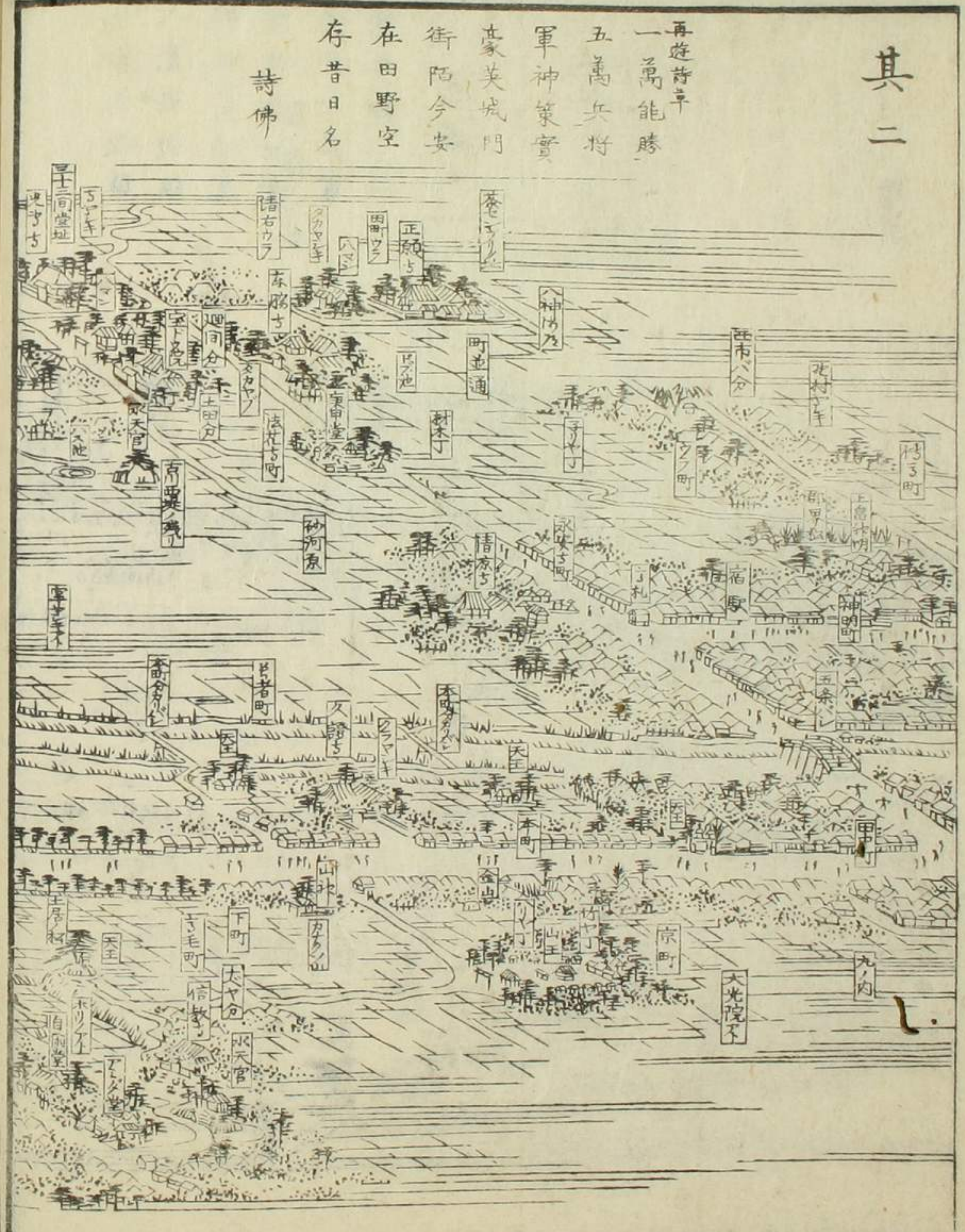
城跡のわづらひの  
 あらうとんりく  
 けいけい  
 外形の  
 ありさし  
 野堂



其二

再遊詩亭  
一萬能勝  
五萬兵將  
軍神策實  
豪華城門  
街陌今安  
在田野空  
存昔日名

詩佛



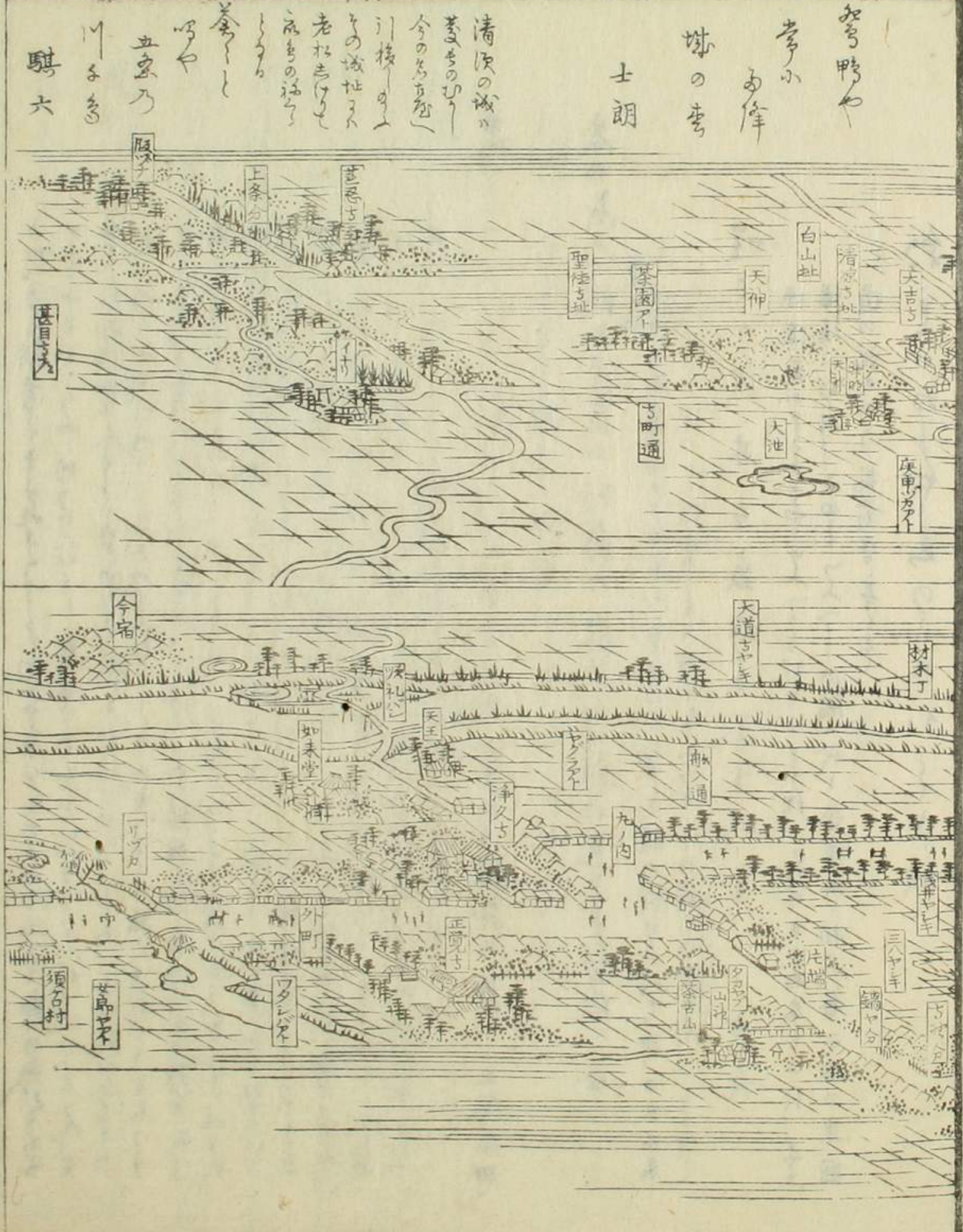
おろ鴨也

考小

あや

城の考

士朗



清次の城

考のひ

今の名

河橋

老松

底の

考

考

立

川

驛六





あるぬ官軍に敵對し奉りて建武年中越前國より新田義  
貞父子を討取し功あり尚ふ及び越前より遠江半國を賜  
りり青生尾張守と名高まり其子官領左衛門佐義將ハ此義  
重の父義重父子哥人として新續古今集等小入まり義重の子  
治部大輔義淳其子治部少輔義郷其子治部少輔義健其  
子左兵衛督義敏まで代官領斯波氏を称し尚國及び越前  
まきの守護として其身の系を家人と尚ふたりて國勢と  
りり行りて其次のち漢治部大輔義廉ハ他家より斯波の家  
を継ぐ義敏と不和としてやもよれば合戦あり及んてりり  
文明九年義廉入部して此清須ハ在城す夫より左兵衛佐  
義寛左兵衛佐義遠治部大輔義統まで尚味ありりり家老  
織田大和守入道常祐及び其弟因幡守等恣小國政と執行  
せりり威權守護ありりり主家とあはれりりり天文の

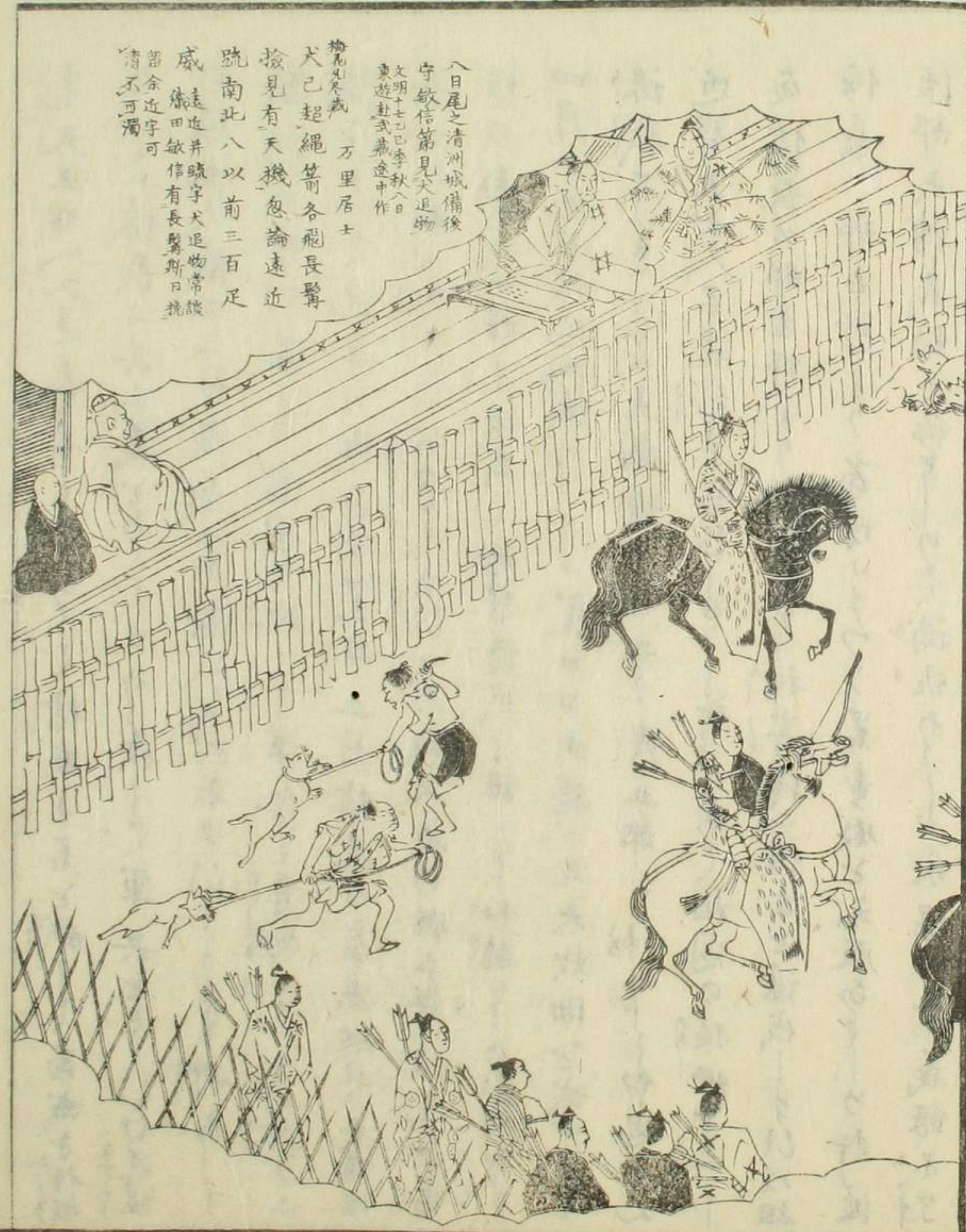
とて常祐死去し其ま子彦五郎信友家督と継ぎてりり  
暴威ありりり天文二十三年義統の家人梁田弥次右衛門那古  
野弥五郎等謀りて信友と誅せんとりり其頃義統ハ尚塔のち丸  
小居位りりて信友ハ次の廓小居まりり弥次ち其等信長公と調  
りり合日七百餘騎ありり尚城小押寄りり信友と攻りりりり信友ハ  
家人多く強剛りりり本意と得ず一旦和とりりりて退散りり  
りりりりりり彦五郎信友と君義統と恨りり同年七月十日義統  
の嫡子岩竜丸堀江村ハ川狩に出られりり家人多く供りりり城内  
人少りりりり信友のちりり家人織田三位房坂井大膳亮等  
數人小急小本丸ハ取りりり攻りりり不意と討りりり森刑  
部少輔同掃部丹羽左近等のりり内外に走りりり防戦せりり  
りり皆討取らりりり義統とりりり老臣三十四人自殺す岩竜丸ハ  
川也りりり此逆乱とりりり直に那古野小遊行信長公と頼りりりり



織田備後守犬追物と見し圖



八日尾之清洲城備後  
 守敏信第見大退物  
 文明十七年秋八日  
 東遊赴武藏途中作  
 柳元次郎 万里居士  
 天已起繩箭各飛長鬣  
 檢見有天機忽論遠近  
 疏南北八以前三百足  
 威遠近并疎字大退物常談  
 留余近字可  
 清不可濁



其二



先天王坊一入と命を乞はりて信友主君と裁し一畠城を押取  
りて信長公其不義とあり日ありて軍兵とてひげ逆謀  
の張本人織田三信房等八十餘人と討取り一つとも折れ  
駿河の今川家より當國と犯し軍勢と差向ふこと防ぎ  
勝りて其年ハ赤谷の翌年三月信友の家老坂井大膳信  
長公に和と乞ふ公より一ひらの叔父織田孫三郎信光と畠  
城の南の丸に移し信友と西守護代と称し和睦のいぬ  
四月十九日信光入城あり翌日大膳が兄大炊助と城中  
誅戮ありて大膳城を逃去り秀五郎も叶りと思ひ  
近習五六人召連終と出し一と所を善く相圖の狼煙と上  
信長公那古野より大軍を押し寄せ信友と誅伐し一ひね  
治部大補義銀と移り一補佐ありて永禄四年義銀不  
了

一三河の吉良義安及び畠山戸田の石橋義忠等の一  
族をたしひ信長公とてつひとて公より一ひ恩あり  
一の愚將國家と治るるにわすれて義銀と追拂ひ吉良石橋  
と追放りて足利武衛の高家名にむし断絶す同年の  
秋信長公上洛し尾張の守護織田補して威権をひ  
畠城を歴代何と武切多う中に信長は公の弟とて軍切も  
名古屋合戦記に土田氏の女とて織田長清の擗りて織田系譜の母土田下総守源政父女とて  
古野使公護略居之とて同紀の天文十年公自林上総介とあり受領の勅裁も有り叙爵  
も有りされしとて私名を高くし其頃の武家のありたり又正四位下彈正忠任  
同三年乙亥十一月四日權大納言同七日右大將公卿傳りて同四年丙子十一月十三日正三位同廿  
一月九日兩職と辭を同十年六月二日京都本能寺少々秀のいふ自殺の日勅一  
大政大臣從一位と贈るを元禄元年四月那古野の塔より移られ同三年  
八月稻生合戦同三年四月武藏吉信行不義の事ありて南城にすむこと  
越前侯にあつたに其所の里人殺しより銭瓶と垢ありてとて集事年ひ

取けるをんしはけるるに三討を分りて若事り多れに直に清洲にあり又岩倉の備  
因信安庵いざりて永禄元年七月四年三月あまに岩倉を攻落しつりて犬山の  
城を攻め次同三年五月より桶狭山に於て今川氏元の大軍を討つ四年五月美濃の表  
郡を以て童貞と戦ひ同五年五月同玉架留美合戦同六年八月同玉架留堂洞と討つ  
軍四等しやどしやどしやて弘治元年三十二歳とて入部ありつり九年のち高松  
をとりて永禄六年五月九月同郡小牧山の城をとりて同八年八月長久手稲家山の表  
島をとりて被 其後内大臣信雄公 概岸直利が尾州長久手戦記小十三日尾  
州春日井郡清原小若津信雄に遇ヒ  
らと秀吉が若き者なりとこれと防ぐ一 且曰此田勝三郎信輝入を勝入ハ故信長の功也二心  
神君早速清原の版を治しと治し 且曰此田勝三郎信輝入を勝入ハ故信長の功也二心  
わんしやの者なりとこれと防ぐ一 且曰此田勝三郎信輝入を勝入ハ故信長の功也二心  
をとりて信長に属し長可極秀吉改藩生氏卿等も亦然り長に播入を可秀吉改藩方より  
予我以勝利と得るの後五ヶ國を授けらるゝ味方に復たさす一 密旨を通ずりつり  
降ふ 神君清原一系あり王君と捨て城居に任ふ不義の族味方に復たさす一 密旨を通ずりつり  
事なりんや相様へて信長に欺きつり味方に復たさす一 重修徳王代一覽に天正  
十五年十月信雄清原より秀次権大納言に任じ又天正十九年二月六日関白 江戸相  
公と共に尾州清原の 豊臣秀次公福島正則 性高院君も少儀と城  
主より一 城地水害の恐るり一 慶長十五年名古屋府に遷  
しつり一 後廢城とつりて舊墟と存りて叔母城のまゝ清洲大  
洋定とつり事蹟討ふ多し一 之とも世人普く知る所あるは只  
城主の歴代布と略書し其りつり一 之とも世人普く知る所あるは只

高所の城址ハ歴代と遷りつり一 其由未を考へ一 研録及び城址の碑之等と建る  
半もあつりつり一 之とも世人普く知る所あるは只  
古城跡と刻しつり一 之とも世人普く知る所あるは只  
しつり一 旅人杖とつりて其高嶺を賞讃せり又碑銘及び古瓦の石摺ハ林氏より出以

當室町氏之末羣雄割堀四海鼎沸人民不聊生織  
田右府從一因小疾起謀經營天下雖志不終而歷  
下有豐太閤平至其規遠混一東西昭代之讖定  
寂亂遂致太閤平至其規遠混一東西昭代之讖定  
謂無前功大敵矣而右府實爲開基亦不可不藉地  
故主之府之舉兵須人其力其創業開基亦不可不藉地  
西征所向有功後遂遷於美濃之國其聲始震東伐  
視天之下以立後來混一於美濃之國其聲始震東伐  
漢之喪陽李唐之鳳太原誰謂不然也清洲之地蜀  
勝也亦尚矣神鳳太原誰謂不然也清洲之地蜀  
田鶴及斯波氏以足利親御古守今此地之爲名  
以三好秀次福島正親町親守今此地之爲名  
代亦好道喉既爲重鎮巧以親守今此地之爲名  
臨大川屢被水言慶長未移其樓閣荒蕪於但古  
屋更增築之而問者四隣瞻仰而甚憾之耶示於世  
業開創之無過不問者四隣瞻仰而甚憾之耶示於世  
介人來請之於余如謀欲建其地甚憾之耶示於世  
屬關幽之舉請不拒乃據圖誌詳審其故存亦以

清洲城墟

石ふくと共い砂りて  
くちせきくちせき

吉田貞

大鐘真守  
右衛門とこ  
いんざい  
大寺塔の  
まはあといまは  
うめいたる



吉田貞  
印

代とて建て  
と記たかきハハ  
糸えり  
大城のちとれ  
まつりむり主

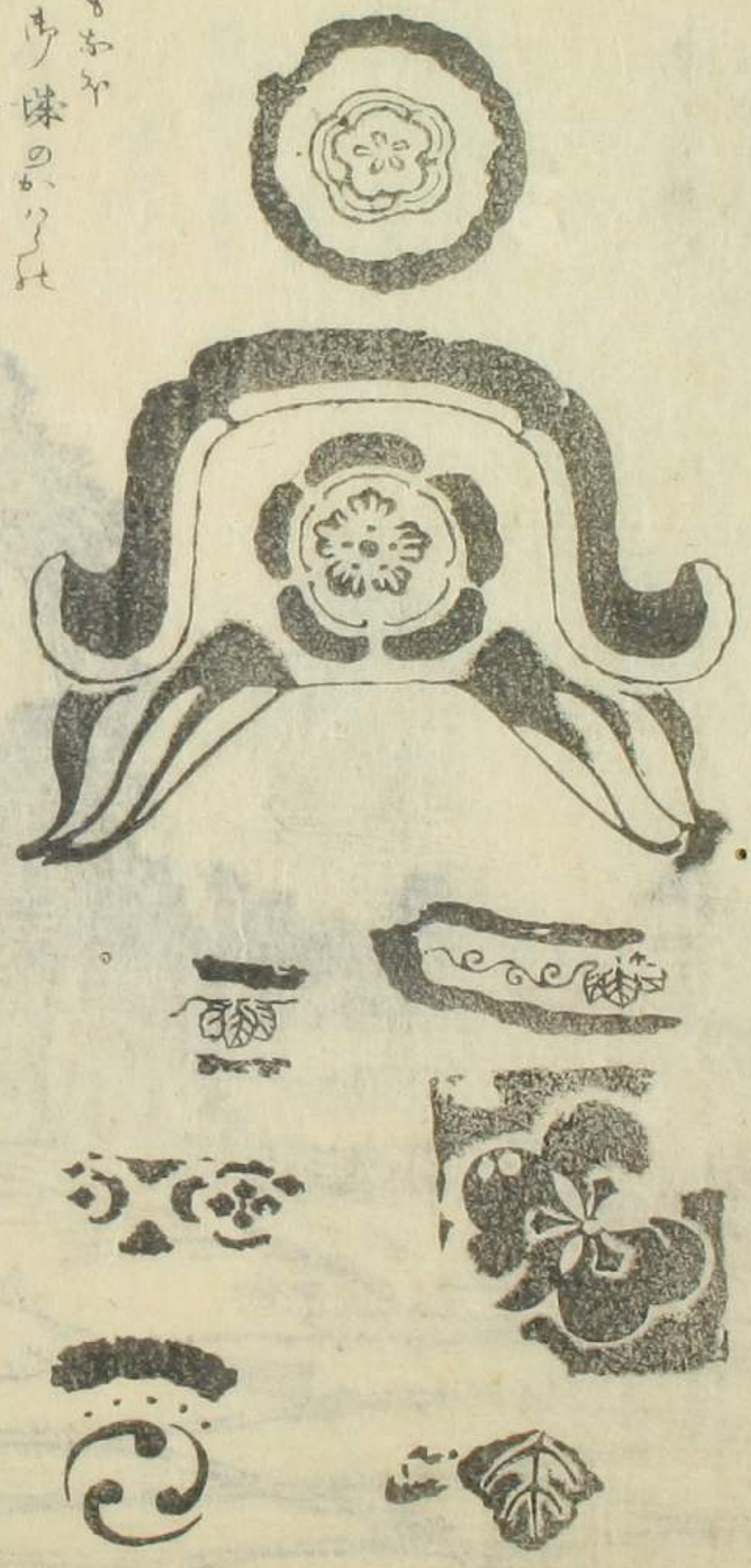
林正明



私見  
 英青人見  
 文魂田代以  
 久髯歸己為  
 二髯鶴改訖  
 手或視城以  
 次來為郭銘  
 伊壬侍何亦曰  
 勢成款如壘  
 夏  
 拙五松唯興  
 堂月乎兩霸之  
 隱其友樹地  
 士齊藤謙撰  
 鶴昔委  
 乎人荒  
 其可蕪  
 徒餘燕

清洲古城殘瓦 正面摺縮圖

高松館藏



今も亦や  
 馬塚のかりけ  
 かりけの橋のかりけ  
 元とてかれし如  
 本居

五條橋

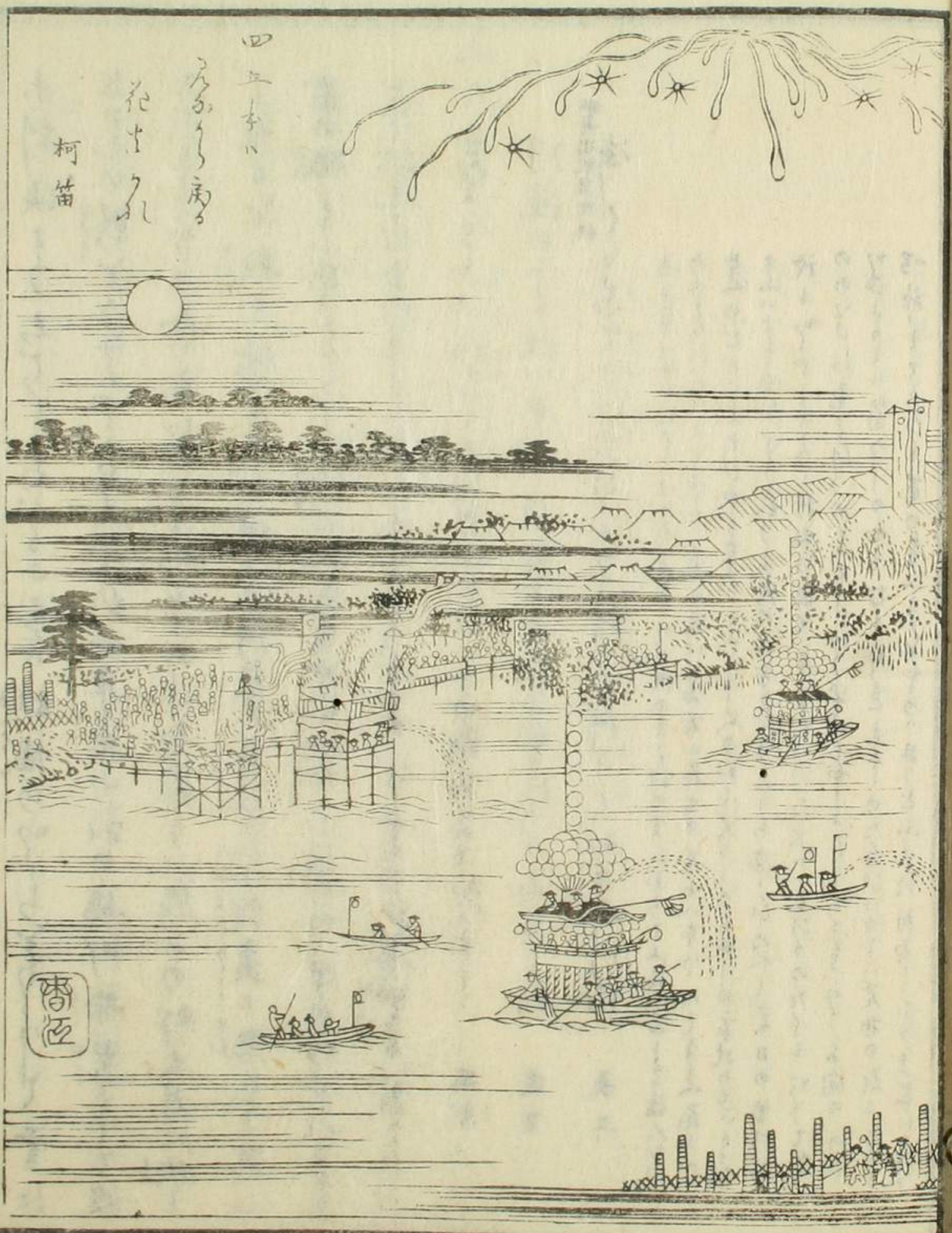
同所五條川小架一々街道一府下の五條橋の系に  
 の大手門の  
 川筋も推測通りとてはせり  
 は川小架多き美味うて世人大に愛す  
 末をく  
 本居春庭

牛頭天王社

五條橋の西北  
 川原にあり

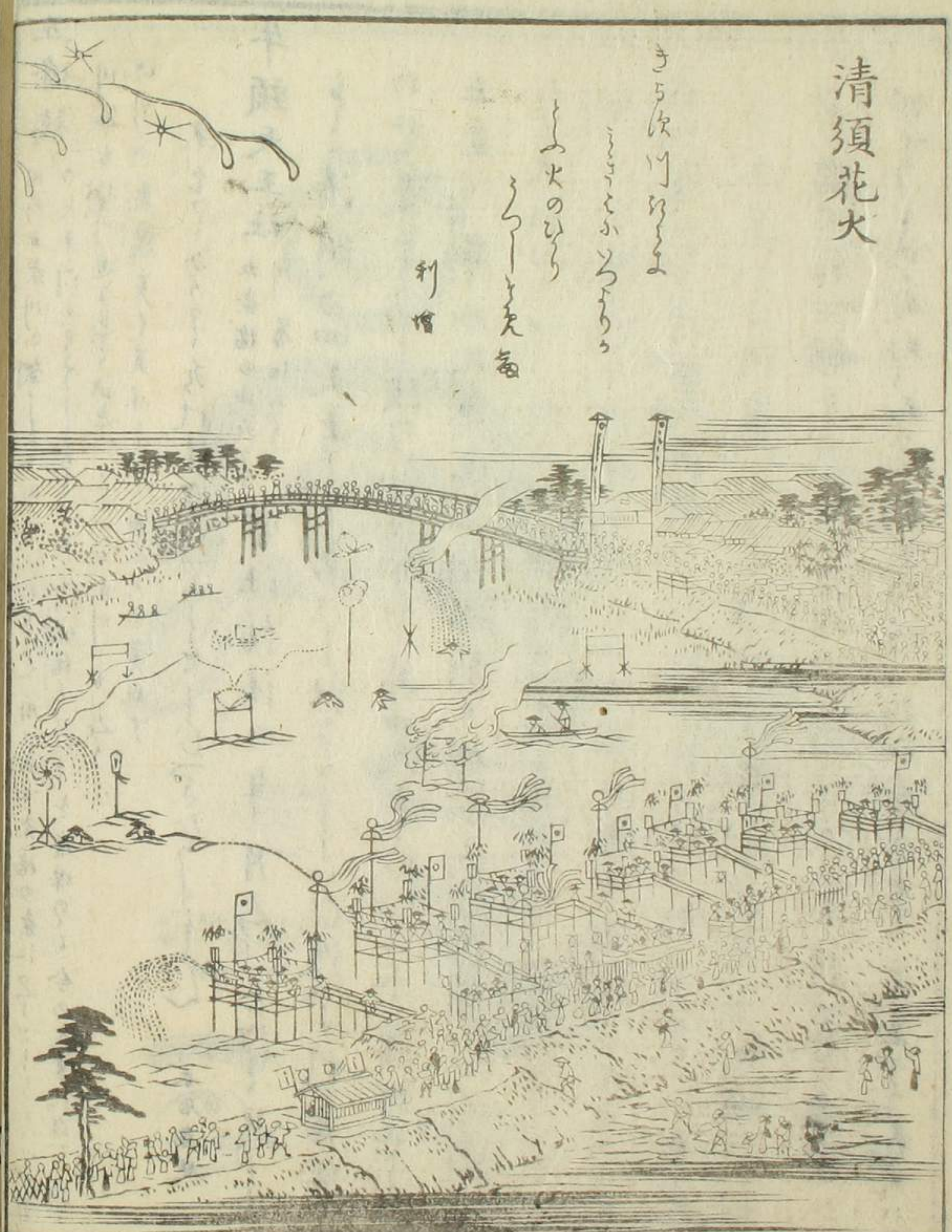
當社幼清の年月志は原と  
 とも清洲の四天王とてあり

の繁業より一頃の幼清とや其四天王とて今清洲を町  
 五條川岸外北市場海邊朝日村のうらと當社より  
 なる大社の傍へねど例年六月十四日の祭りに當国一の奇  
 觀として稚川の兩岸小花火の大首と數十を設け花火方東  
 西の岸より川中へ水橋のおぼれものを作りおてそこに集會  
 一其業とみ成家の四半吹流の風小ひるぐつ編翻り又  
 車樂の船二艘を川中小浮べりけり凡津島の車樂に  
 似たりよおかりと花火の作りおせりまで立直り花火の



四五  
 花すれ  
 柯笛

寄

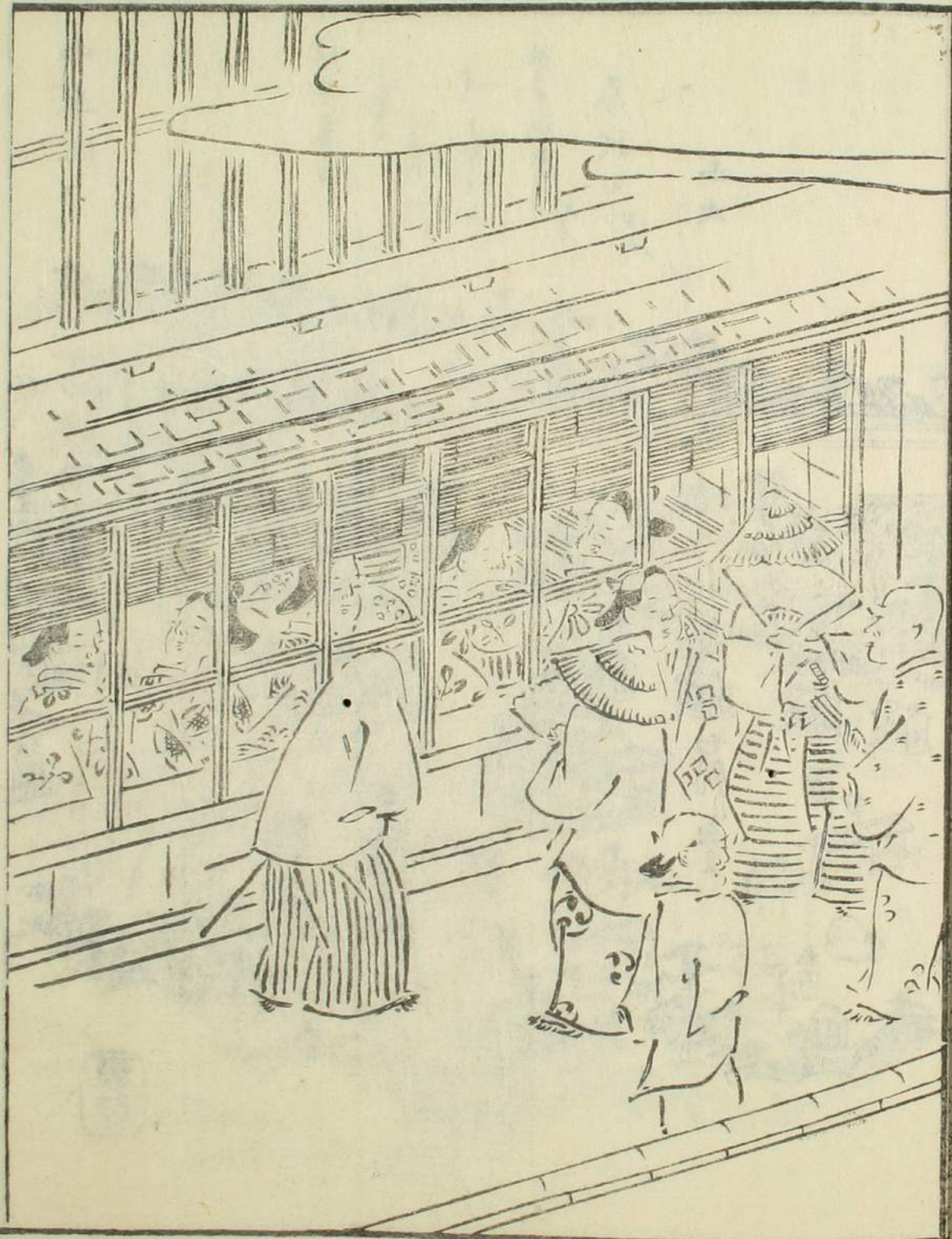


清須花火

きりぎりす  
 火のひら  
 利増







清洲須賀口古覽

往須賀にへり如く  
 山下惣末の比へ  
 須賀口に越橋の  
 ところ姓名の旗人  
 としりしとてその  
 土産五右衛門と  
 比されしも摩多  
 のしり年し居られ  
 其あもがと見え  
 さあり一  
 田圃の字に  
 よし又ひ  
 まのきほ  
 酒い酒なほ  
 茶い茶なほ  
 女い女なほ  
 のはなほ  
 派い派  
 々い々



養子園  
 源卓

山王社

注の書も

うき

うきに

笑うま

そらふま

め

おれま

正次



香煙

尾張名所記

風のまらけ

猿山まじ

木の景くれ

屏竹

まろけい

ふまのり

夕ゆり

我竟



尾張名所記にむしりし清洲の城下  
是等んあまの都方よりおふしりし  
傾城山玉のゆかりにきてせし居とま  
らひやまのまらけいしとまらけい  
まらけい

神も、中島宮及び上島神明との三社ハ同等の古社とく、今詳清須明神と社とさなきは、三所少、御祈念すといへや今詳

長 伊弉のうの日記に、天正三年六月廿七日、大寺清原をひ七月十日、大寺の親

子より 子より申して、まうり神への清原之に、物使ならしむる、いひたんと、大納言なる、

大納言、この大寺、中山大納言、宮中、十六人、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、いひ、こころ、

**上島神明宮**

因所、神四町の西裏あり

社傳云

垂仁天皇十三年鎮座のし

**洪福山清凉寺**

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

本寺、阿弥陀、恵心、僧、都、作、

**大雄山正覚寺**

同所、外町あり、浄土宗、名、古、屋、性、高、院、末、

尙、ち、い、り、武、藏、国、忍、の、城、下、に、

性、高、院、君、尙、城、に、居、り、し、一、日、道、上、

人と招清一、孝、長、八、年、建、立、す、と、君、か、く、ま、り、後、其、寺、

を、名、古、屋、小、遣、一、御、法、号、あり、性、高、院、と、改、じ、其、後、は、堂、号、

と、再、興、す、と、旧、名、あり、し、と、正、覚、寺、と、改、め、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

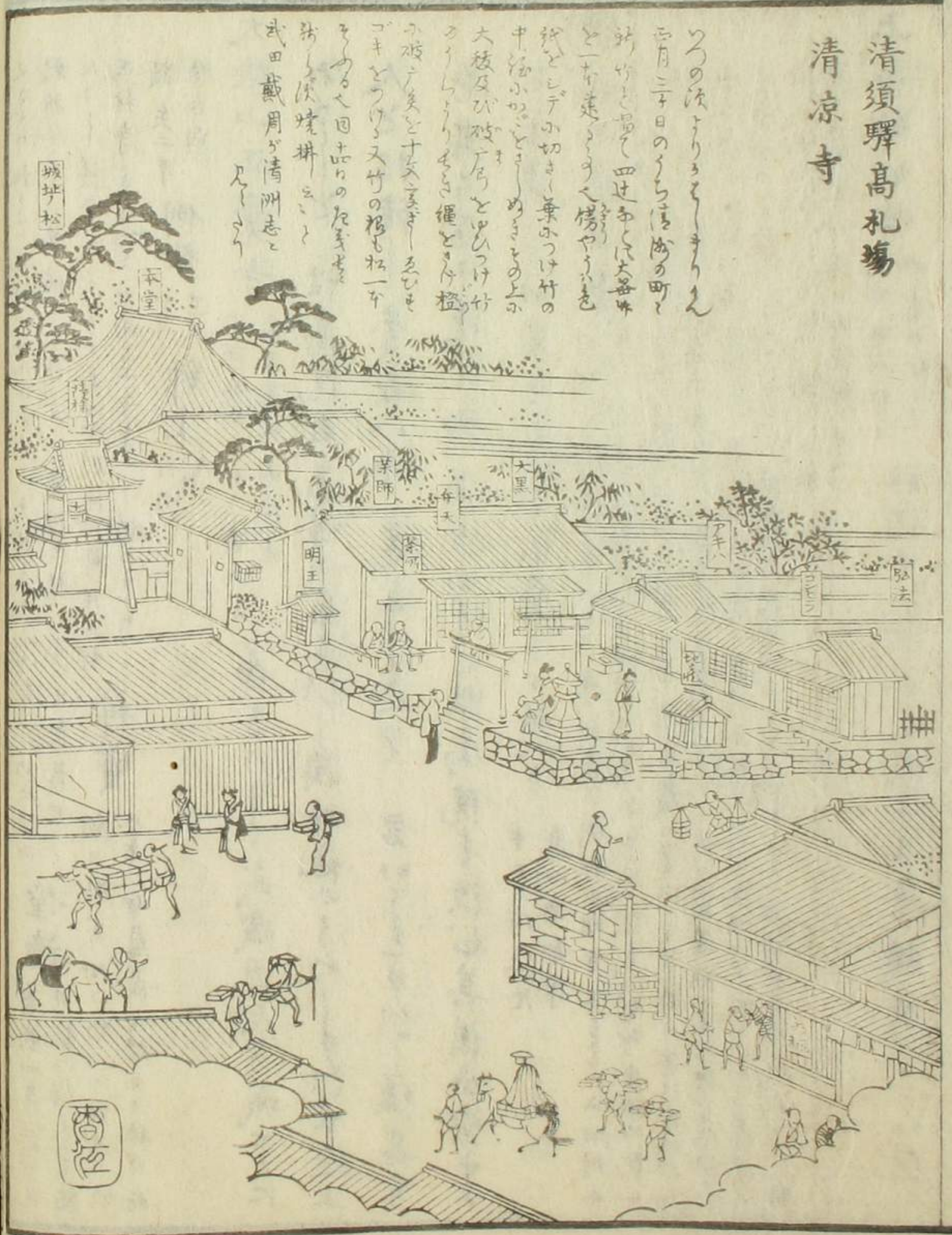
同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

同所、元慶二年、八月、神主、丹明、額矢、二、手、例、祭、廿、日、神、主、氏、孫、古、面、

清須驛高札場  
清涼寺

つづの法よりまじりまじり  
正月二十日のうち清涼寺  
新造りて置て四辻おくに大乗  
と一か遠くより清涼寺の  
秋とシテの切き葉ひつけ竹の  
中流の心とまじりまじり  
大枝及び破る居とまじりつけ  
さうらうらうらうらうら  
の破る居とまじりまじり  
ゴキとつけ又竹の根も一本  
さうらうらうらうらうら  
清涼寺の清涼寺  
武田戴周が清涼寺



天照皇太神國常立尊の二座と祀りて古城郭内の地によりて

を永和元年斯波右兵衛督義重よりりて尚城と築きし時今

の所小移りて今幣殿祭文敬拜敬透垣を居も殿堂に

建つて迄未だ熱田社八幡社鉾山社わり神室八幡の松花堂等の

歌仙三十六枚あり今つれてよきもの多し惜むべきの玉

其外秀吉公の御朱印信雄公及び性高院君より賜ひ

一制札あり例祭八月十六日神主加藤氏

家傳夢想丸

同所本陣林氏より製す小児疳驚風を治すの薬なりと勅諭せしむる  
ありて公の夢を語りて信長公の老臣林氏後信勝の末葉なり天正八年依後  
其後寛文八年申年その子孫一尚正三の子正長俗称熱田清洲の地にも宅  
ありて公の通称なり今に於て連街お後すは家云國前に古松ありて  
高松館記

清洲驛古張州治也故羽林家居馬時館驛在北市  
村至城於名古府而後百姓移居城市焉墟寛文成  
厄棧城於名古府而後百姓移居城市焉墟寛文成

上畠神明



正明

上畠の神

ちりきり

天衣と

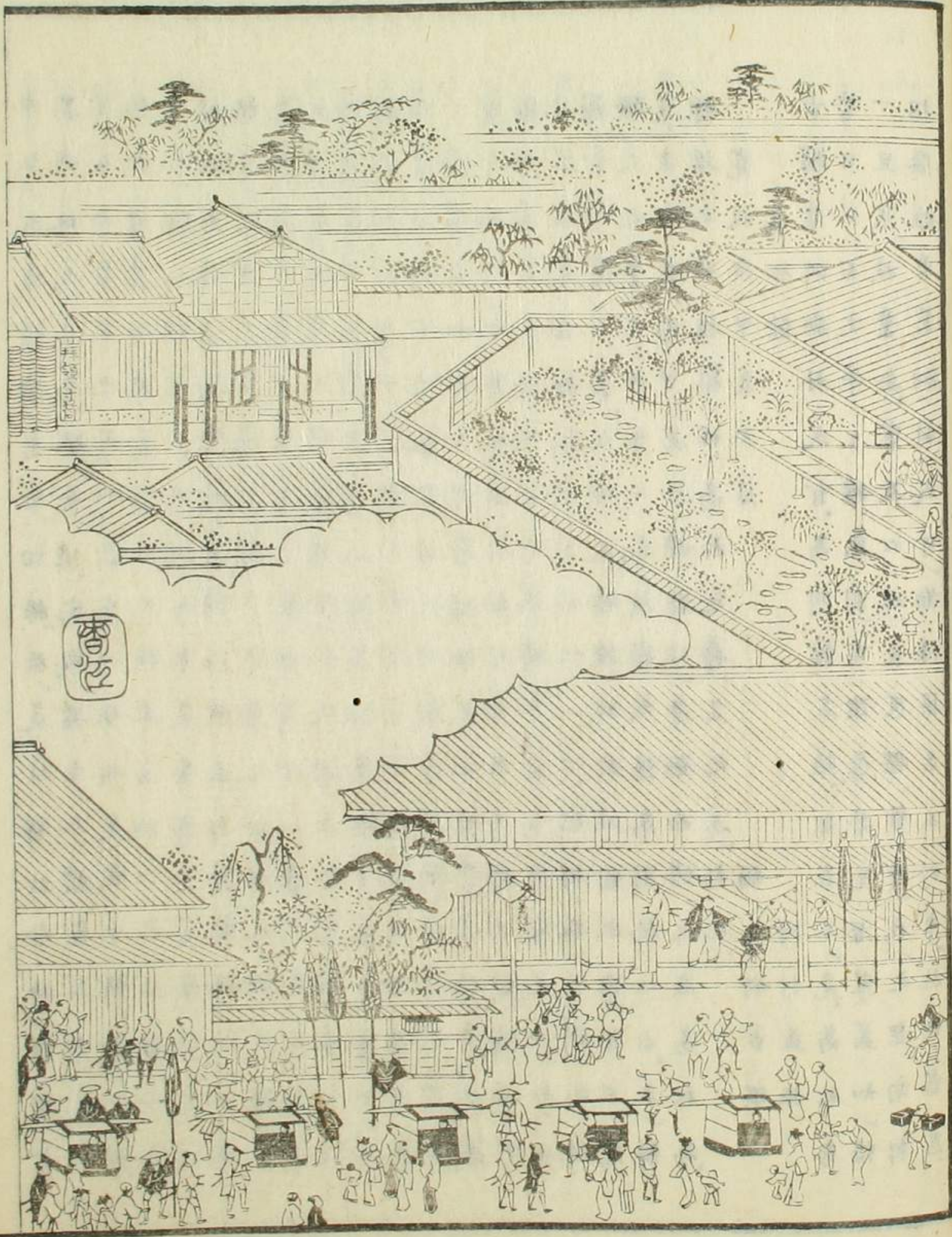
ゆた

秋の四代



法海東  
春日井  
中島  
若原  
松

香



琉球人  
清須駅  
本陣  
憩ふ園

前巻 巖屋 兼 柳

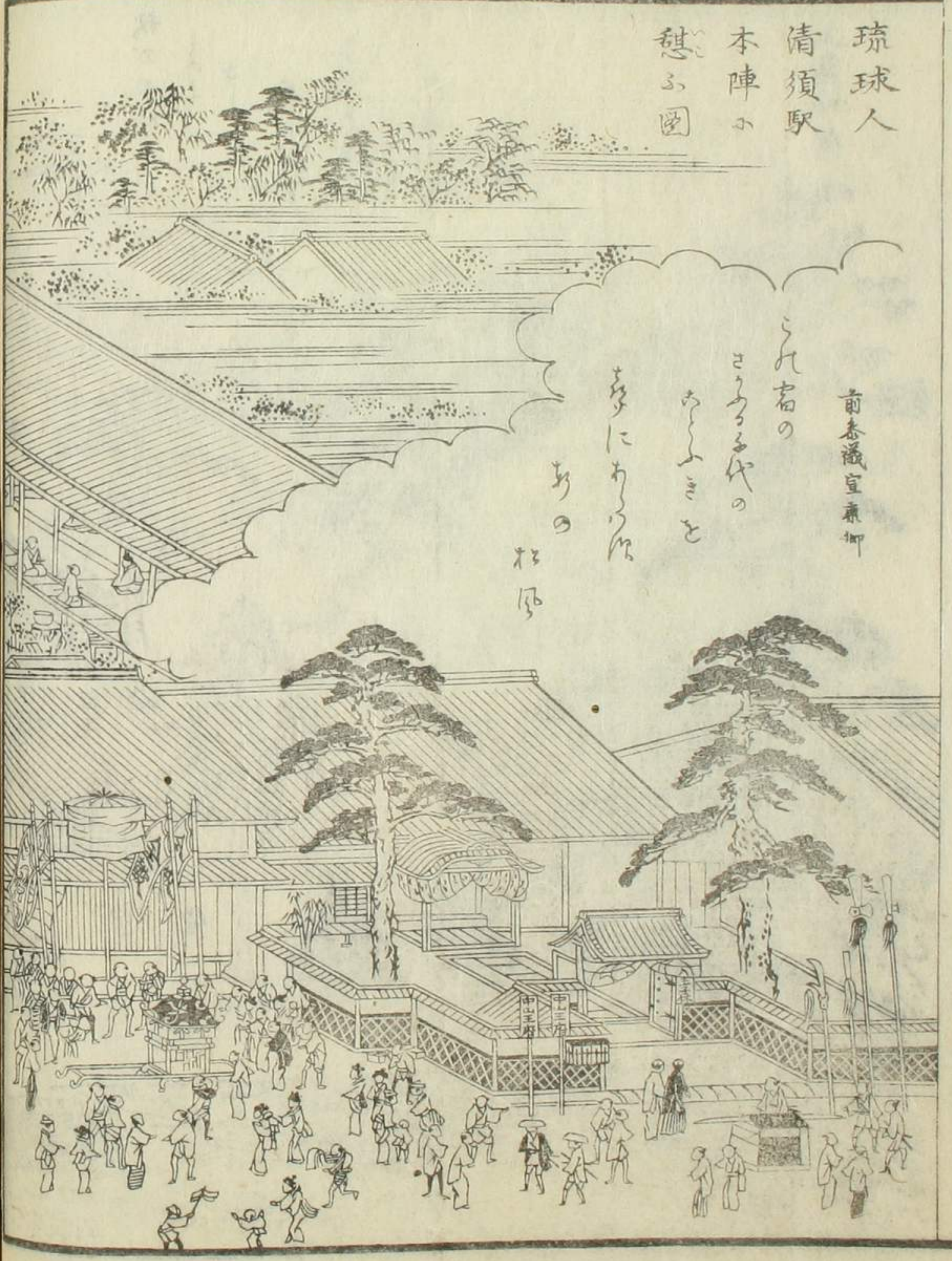
これ 岩の

さうろ 子 代 の

あつ しま と

ま に わ り げ

あ の  
松 風







中嶋宮 尾張國中嶋宮 天正三年 辛丑秋八月  
一日遷幸于美濃國伊久良河宮 四年奉齋  
次遷于尾張國中嶋宮 五年三月奉齋  
人市主地口御田並柳船一隻進支同美濃縣  
曾已立抱船者天御都張止白而進支采女忍比賣又進  
地口御田故忍比賣之子繼天平寬八十枚作進云云  
當社縁起に倭姫命ハ  
節の竹杖と四折りて四方に投多しハ八竿の竹生し  
竹と御園といふよりあるなり  
豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所

御園

樹木を齎のふりてむい 伊勢を神宮の御神領の地なり 神皇正統記 尾張國清原御園  
草部御厨神御園 年々ありて御園も御厨ありて地は御園寺高在の御厨なり  
尾張國伊蘭村 教王院 天正二年 造内理段錢并國役引付に一貫五百文御蘭寺高在の御厨  
尾張國伊蘭村 教王院 天正二年 七月 寺高在の御厨 寺高在の御厨 寺高在の御厨  
妙尊寺に所 寺高在の御厨 寺高在の御厨 寺高在の御厨  
中嶋宮 尾張國中嶋宮 天正三年 辛丑秋八月  
一日遷幸于美濃國伊久良河宮 四年奉齋  
次遷于尾張國中嶋宮 五年三月奉齋  
人市主地口御田並柳船一隻進支同美濃縣  
曾已立抱船者天御都張止白而進支采女忍比賣又進  
地口御田故忍比賣之子繼天平寬八十枚作進云云  
當社縁起に倭姫命ハ  
節の竹杖と四折りて四方に投多しハ八竿の竹生し  
竹と御園といふよりあるなり  
豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所

御樹木屋敷

尾張國中嶋宮 天正三年 辛丑秋八月  
一日遷幸于美濃國伊久良河宮 四年奉齋  
次遷于尾張國中嶋宮 五年三月奉齋  
人市主地口御田並柳船一隻進支同美濃縣  
曾已立抱船者天御都張止白而進支采女忍比賣又進  
地口御田故忍比賣之子繼天平寬八十枚作進云云  
當社縁起に倭姫命ハ  
節の竹杖と四折りて四方に投多しハ八竿の竹生し  
竹と御園といふよりあるなり  
豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所

中嶋宮

尾張國中嶋宮 天正三年 辛丑秋八月  
一日遷幸于美濃國伊久良河宮 四年奉齋  
次遷于尾張國中嶋宮 五年三月奉齋  
人市主地口御田並柳船一隻進支同美濃縣  
曾已立抱船者天御都張止白而進支采女忍比賣又進  
地口御田故忍比賣之子繼天平寬八十枚作進云云  
當社縁起に倭姫命ハ  
節の竹杖と四折りて四方に投多しハ八竿の竹生し  
竹と御園といふよりあるなり  
豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所

命と配祀せり

倭姫命世記曰 倭仁天皇十年 辛丑秋八月  
一日遷幸于美濃國伊久良河宮 四年奉齋  
次遷于尾張國中嶋宮 五年三月奉齋  
人市主地口御田並柳船一隻進支同美濃縣  
曾已立抱船者天御都張止白而進支采女忍比賣又進  
地口御田故忍比賣之子繼天平寬八十枚作進云云  
當社縁起に倭姫命ハ  
節の竹杖と四折りて四方に投多しハ八竿の竹生し  
竹と御園といふよりあるなり  
豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所

竹と御園

尾張國中嶋宮 天正三年 辛丑秋八月  
一日遷幸于美濃國伊久良河宮 四年奉齋  
次遷于尾張國中嶋宮 五年三月奉齋  
人市主地口御田並柳船一隻進支同美濃縣  
曾已立抱船者天御都張止白而進支采女忍比賣又進  
地口御田故忍比賣之子繼天平寬八十枚作進云云  
當社縁起に倭姫命ハ  
節の竹杖と四折りて四方に投多しハ八竿の竹生し  
竹と御園といふよりあるなり  
豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所

豊太閤清頼の時清洲明神一御祈願の清使と云ふなりハ苗所



の三社して山王上畠當社にも御祈り修りしりき  
當社も其時の遺文より又大政所どの改所どの号の造管寄  
附の品等も神宝の數不入り○撰社倭姫皇女社 瑞籬のしらにり  
尊瓊々杵尊の 船社 美濃造美濃縣主等が 天宮 天御中王尊 巴波天神  
三座とま川も 奉り 津所とあまきり  
菅丞相とま川もむり 五奈川の波の巴文とありしりより此神影うび出りしり  
左がく名づく 性高院君當社 津奈治ありしり 巴波天神の連年の津をありしり  
とひりしりしりしり 二月廿五日の祭に  
杉花とてまつる式々の古雅なるもはりしり 芭蕉天満宮 近年の初 鳥居崎  
大倉店跡より當社七鳥居の廢跡ひ一所 例祭 二月九日七月七日八月廿三日九月十六日  
の 祭より信に津園七口とありしり 鳥居崎の祭とありしり 鳥に投げしりしり日ハ  
鳥上の津よりしりしり 當社の大倉よりしりしり 天照大神は地不動しりしり 鳥居崎の祭とありしり  
り 天照大神は地不動しりしり 鳥居崎の祭とありしり 鳥居崎の祭とありしり  
神寶 古假面ハむり 舞樂小用ひしりしり 天満宮一代記画入巻物ハ朝日殿寄附  
御煩御祈禱書付等あり又當社ハ古き繪も二枚ありしり一枚ハ日月星の三光に神居と  
傍ハ一圓ありしり又八年九月御神施教の文字のしり一枚ハ松の画とありしり元和九年五月  
尾州名古野とありしり何れも古き書画しりしり 尾州舊話畧に又云  
七年八月清須町中迫也より民誦とありしり 津園神明の詳集とありしり 市の  
云とありしり 張州畧記に又云十八年甲寅八月十八日云伊勢介宮の大津田玉上之  
飛移りしり又山田(を)をわたりしり 俗説ありしり 伊勢と稱し津園津園の社也とありしり  
實に希有のありしり 津園の西中(を)より誦とありしり 津園津園の社也とありしり 群  
とありしり 津園の西中(を)より誦とありしり 津園津園の社也とありしり 群

興 聖山慈見院

因所北市場にあり 隆慶宗弟 妙心寺未は地ハ 聖山慈見寺の  
旧地也 廢跡久しりしり 正保元年 慈見寺の 聖山和尚 國祖  
若小は廢地とありしり 隆慶宗弟 妙心寺未は地ハ 聖山慈見寺の  
旧地也 廢跡久しりしり 正保元年 慈見寺の 聖山和尚 國祖

朝 日殿宅址

朝日村ハありしり 今民居しりしり 朝日村ハありしり 今民居しりしり  
朝日村ハありしり 今民居しりしり 朝日村ハありしり 今民居しりしり

浄 念寺趾

因所にありしり 名古庄吉田町浄念寺の旧地也 聖徳太子 神君念浄寺  
征伐の時東本願寺教上人 陣中浄念寺にありしり 東國へ下向ありしり 石田三

成をとも移りしり 上人の御居とありしり 討殺しりしり 其時浄念寺常信も上人の供してしりしり  
下野の小川の津津よりありしり 領主 神君より命令ありしり 福童正則の領地清原までしりしり  
庭邊よりありしり 大塚よりありしり 石田よりありしり 浄念寺の古記及び万治四年  
三月印行の本記也  
系圖ハありしり

名産朝日柿

同村小多く作て家毎に數十年行つた産に輝いて美味うらら其色鮮の赤くも秋の頃ハるる又とも隣村下りり作まると又美味うらら四方に

落合里

清洲の小にあり支邑ありて宮重蓮華寺社宜屋分地西牧といふ是と落合六の古蹟又是にも見ゆる四々

より康正二年造内裡段銭并国役引付に貳貫文  
伊勢左京亮殿尾張國落合御段銭

名産宮重大根

落合の支邑宮重村に産次高國の蘿蔔ハ尾張大根といは邦小類いふ

許進訪わくは其外諸産方へも誇りて世に形大うると宮重大根といふは宮重の  
産ハ形大うるとは其味も美味うると言活に絶より尤も尾張大根と稱する物ハ方領  
村ふつと所より形大うると海東郡  
方領の条もまゝ合せんと

中島郡牛部首國就 桓武天皇奉蘿蔔云云と凡盛長私記小

尾張者土大根之最上也一宮重者以蘿蔔三十本獻幕下

宮重之心勞有御感者云云と和漢三才圖會に大低

八月下種彼岸生苗霜後肥大味亦甘尾州官繁之産大者

長三尺周尺半重可五七斤云云とあり

大和本草に蘿蔔尾州小種と云と他邦小種子と傳て授と

尾州の産小不及云と物類品隲小尾張官重菜腹伊勢

日野菘のつねに共に名産うりともあり

百信

形状非肥 大味甜 天下無根 款宮重字與他村産殊

あつても津の宮重大根は年のとりにつらうされ 花江戸住

尾張地やわいひも大根畑 麦林

大根の累々ついでや五六代 沙鴨

名産獨活

落合村のしら荳花と稱宜屋分地西牧の四村より出次中やも

稚川兩岸の萩

落合村の色和雲山伴音寺といふ曹洞宗の梵刹ありつらうの川の  
上下路小多く秋の決ををの礎人といふ是と美し月小萩ト

てゆも多し

五条川萩の決は毎年曉夜更中とすこれ萩まはらるる中に

琴留集 小は丘原のつらうと 持ちせ萩くれ 曉臺

のつらうと物や萩の夕 くらま 士朗

風さうと萩うらうと川色うら 白圓

秋の日乃斜小萩の萩はうら 卧央

川乃うら偏さうと 雨の萩 麦圃

白木橋

白木橋 下御村のりて白木橋より下りて伊勢崎より本町迄一  
伊勢崎賀と領より下り諸侯は橋とさういへばに伊勢崎の川は深  
橋は居々れは橋上より白木のりて橋より一冊と村南より小牧宿の  
遠懐ふりておとてこれとけりお調せりて其夜は敵の妻  
小わやしき女一人来りて我夫とていひまをりてこれと  
つひつわりに彼方の首の落敷てあるとてお調せりて忽伊勢崎の雌  
をくちて飛去けりて是て妻のあつて翌年油木に此橋と渡らせけ  
るふ又伊勢崎の浮居をば彼方より一冊と村南より下りて  
る雌をくちておの手に旗をのりてとて居り此度これとて  
て伊勢崎より去年より下りて雌をくちてこれより下りてとて  
免とせければ此方の菩提のりて一寺とてに建てる白木山  
寺と名づけ傍を居て彼方のあきとて吊らせりてとて寺か

いりてゆふわたりてこれとて居りて伊勢崎の廢一今  
の其名とせりて河内なる雁塚と同日の流あり

阿原天神社

阿原村にありて今伊勢崎より本國懐小従三位  
阿原天神とある旧社一本は荒原とあり

堀江観音堂

西堀江村にありて南に三十三観音の一所とて伊勢崎より  
をて天保三年旧地より一寺とて出せり寺の南に堀江の  
より永享年中の古五輪一基と出せり寺の南に堀江の  
面観音は天保三年長谷寺をて同本因作せられし寺号は  
者志とて長谷寺とて安政三年終今今の一寺とて伊勢崎  
土器野里 今の一寺とて伊勢崎より一寺とて伊勢崎より

新川橋

新川橋 伊勢崎の西より新川に架かる橋なり天明四年新川  
清原の海道の退分りて公私の旅人幸に絶なき名所の地なり

駿河塚

駿河塚 伊勢崎の西より新川の西に架かる橋なり天明四年  
の軍に歩勝今川義元の首とてに架けありて後使信とて首とて

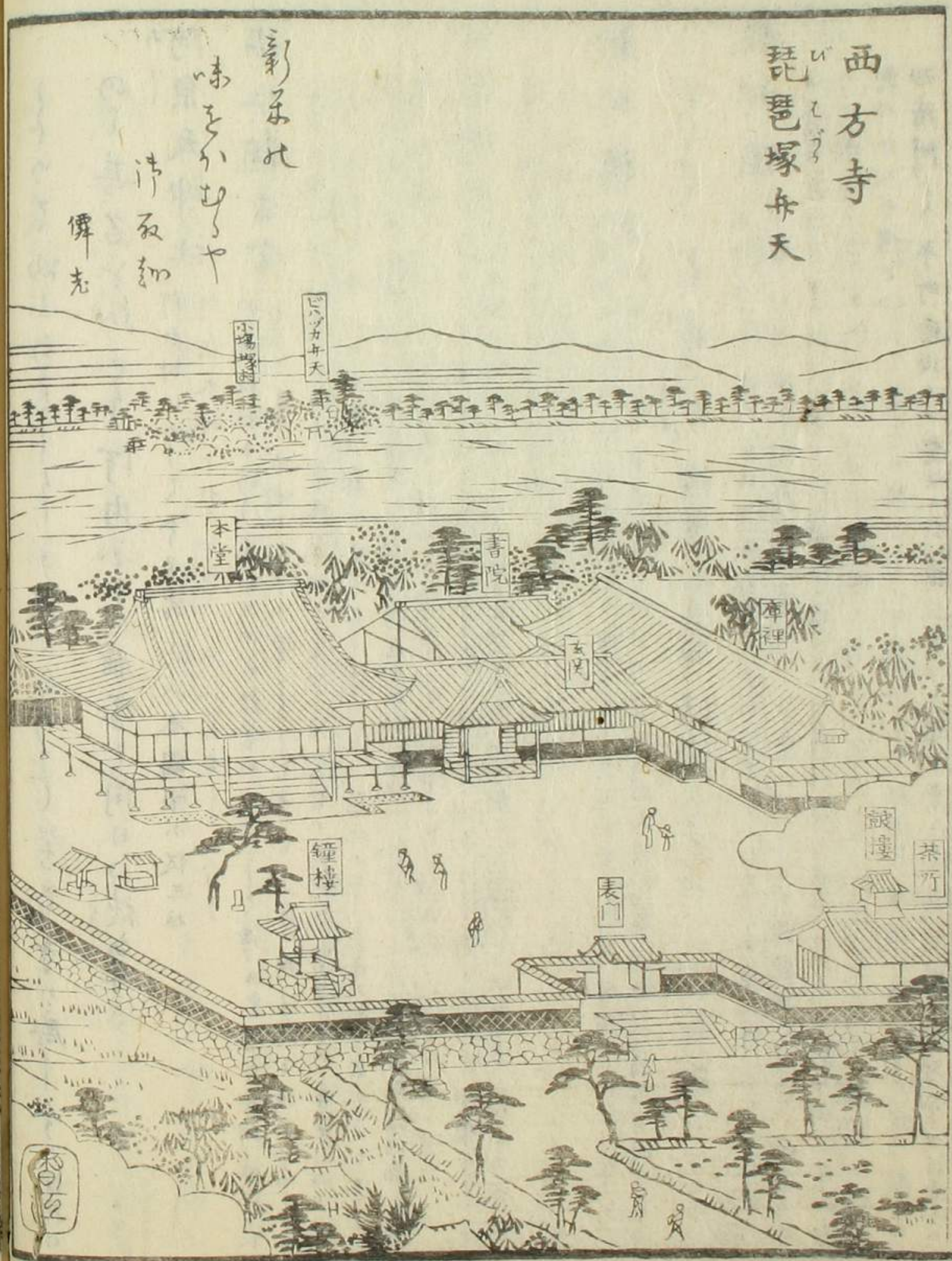
の軍に歩勝今川義元の首とてに架けありて後使信とて首とて  
の大樹にありて天保八年八月の暴風小洲まで数百年の古  
記曰十人の僧と仕立て義元の頭とてに架けありて後使信と  
初清洲より平町南頭より口梨田一行道に大なる塚とて義元

西方寺  
琵琶塚弁天

新茶此  
味をいひや

清寂如

俣老



中河原桃林

千部の位と後... 大... 信長...  
情かり大將... 近... 信長...  
中河原村の田圃... 数百株に及ぶ林中... 勢至社あり... 此地... 河原...  
待と候... 御多と... 喜の... 日... 水...  
ワ... あり... 候... 喜... 日... 水...

醉月園詠辛

あ... 桃... 花... 下... 森嘉基

た... の... 桃... 全

と... 見... 仙人... 桃... 産 黄中

笑... 桃... 日潤

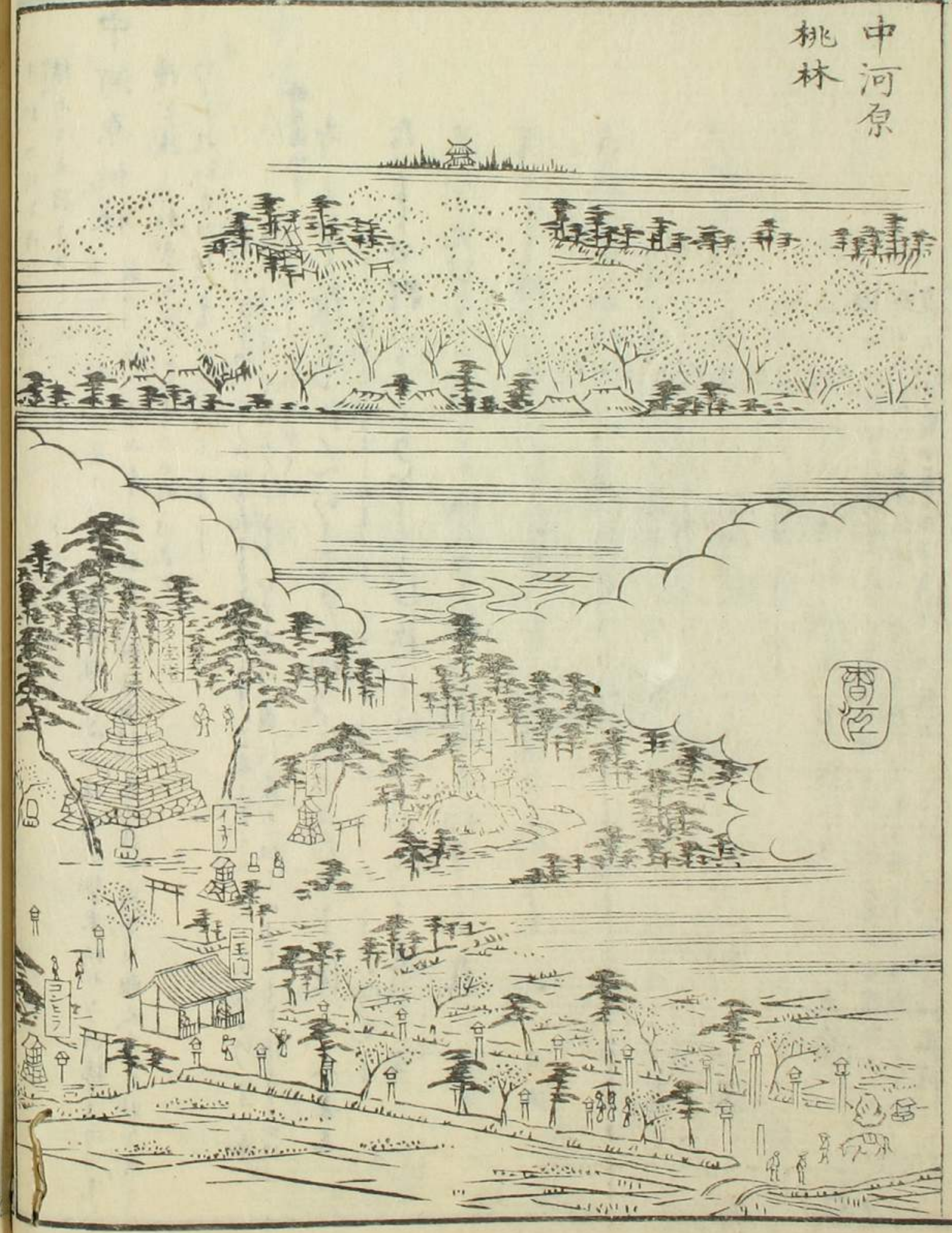
多... 桃... 平野廣臣

ワ... の... 桃... 正韶

秋磨

所... 桃... 田夫... 家... 氏...

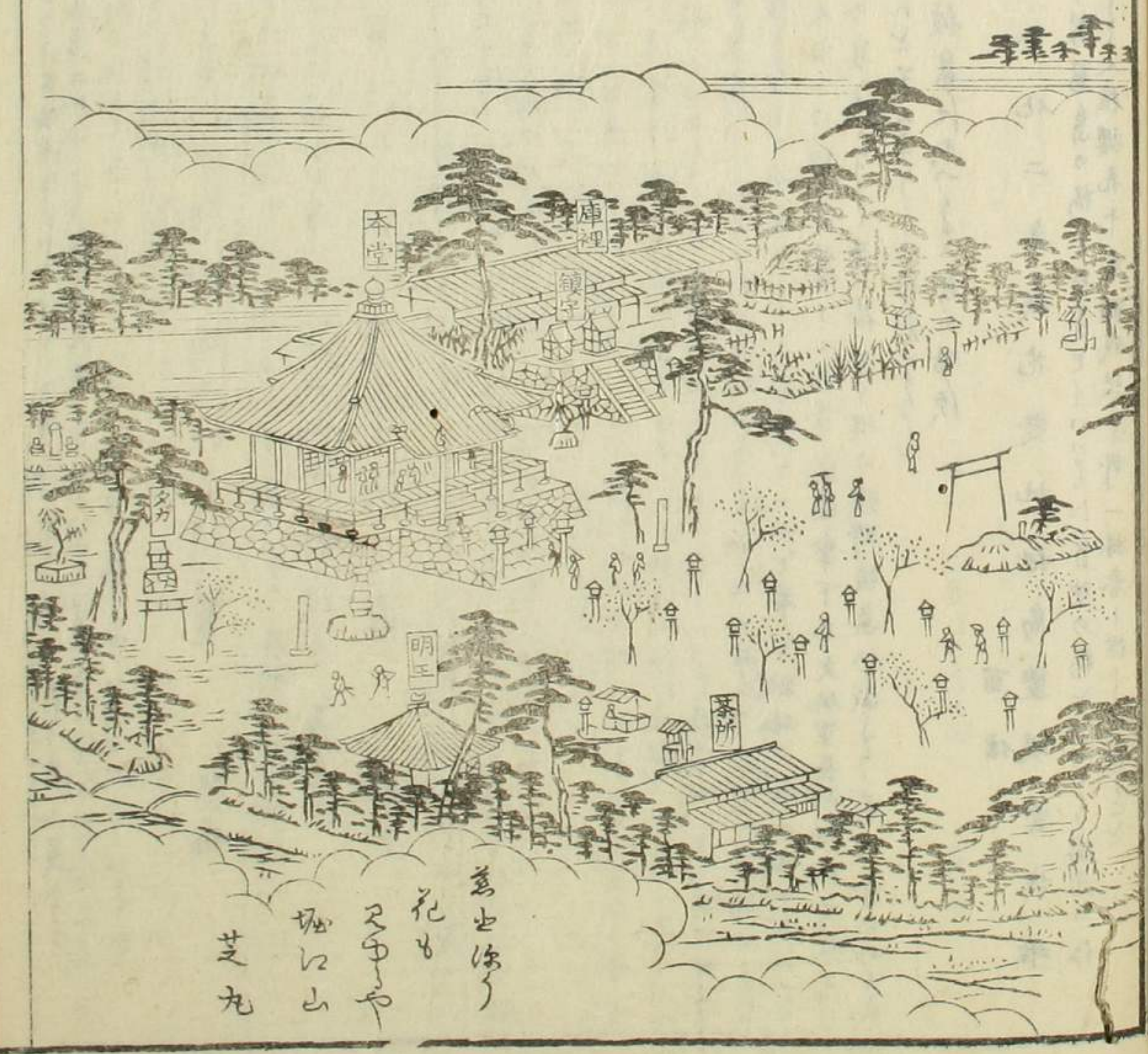
中河原  
桃林



香

麦浪含風翠  
桃花耀日紅  
雞声與人語  
槐在彩霞中  
澤田眉山

長谷院  
花の夕景  
道直



花の夕景  
道直

そまろ古物説きくも竹の律のうりゆりたるにたあひ山に於て  
何處の竹をいふに同じく尾中よりゆきりしとていふ竹の人も  
やあひゆきりし竹の人もいふ竹の人もいふ竹の人もいふ竹の人も  
いふ竹の人もいふ竹の人もいふ竹の人もいふ竹の人もいふ竹の人も

世と世ともいふ竹や柳のこころの電 沙鷗

### 名産笋

下河原村の厚皮地産するやうな竹の笋は美味なり古村に村す  
竹林として竹の笋の傾は日毎に下河原の市へお供する野

竹の子にあはせてやうやゆり若 黄山

### 二ツ間

下河原村の竹の笋は美味なり古村に村す竹林として竹の笋の傾は日毎に下河原の市へお供する野

### 庄内川兩岸櫻樹

下河原村と批田村の堤上及び林松島橋の中島等に弘化二年の  
弘化二年の櫻樹を植てお供する野竹林として竹の笋の傾は日毎に下河原の市へお供する野

官櫻 八千樹 弘化二年栽花 發批 把島 雙堤 雲佐 堆

正統

竜屋

桃島

### 小田井城跡

下河原村にありて今田圃と 古村に村す竹林として竹の笋の傾は日毎に下河原の市へお供する野

下河原の古村にありて今田圃と 古村に村す竹林として竹の笋の傾は日毎に下河原の市へお供する野

千代徳丸の幼年よりとて 將軍義政公の母公 菱村院殿に口入を

南方紀傳康富日記將軍家譜等に記す 其頃徳田氏の威勢の

信長記等小尺津田家譜及び東雲寺に建する石碑の銘小織田

人物志



庄内川の花見

傍水總山櫻春深  
花正明長橋三萬  
尺恰被白雲擊

阿部松園

橋上争看堤上  
櫻一川春色是  
多情花陰有曲  
人聆否自奏琵琶  
流水声

畫屏道人



市人もこの

おれは

けみせけ

花のころ

仲敏

きりぎりすの

さくら

さくら

さくら

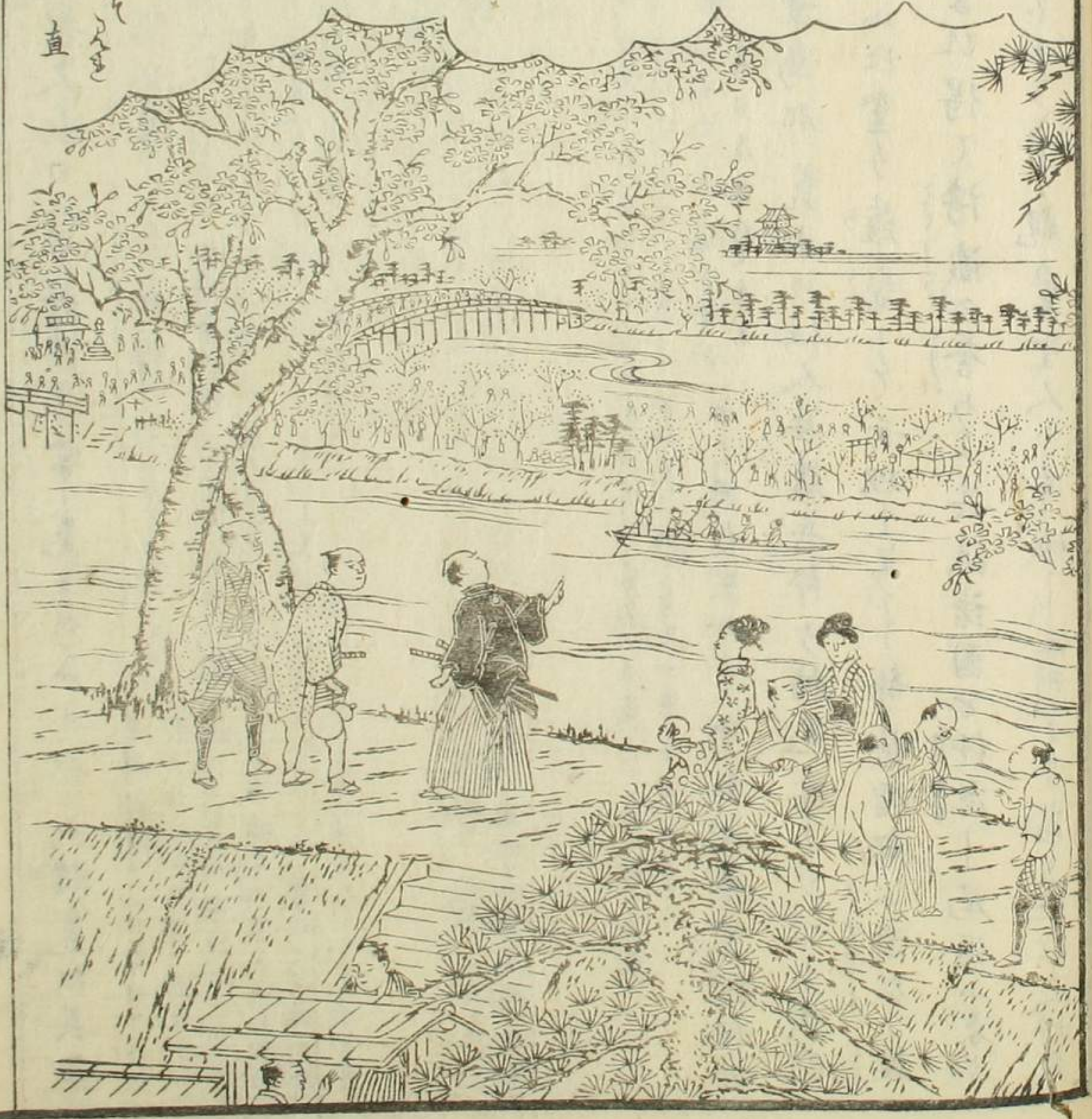
さくら

さくら

さくら

さくら

道直



彈正左衛門尉久長の二男丹波守常寛との子兵部大補寛故其子  
太郎左衛門信張等より尚博とのよりなり

尾陽雜記小田井村の入口  
たの方にはたれり南に少の  
丘なる是城跡云々あり此撰者水野金多衛遠守寛文頃の人なり其頃其頃  
なり云々今も其城跡あり名も跡と云ふなり今も字に古城城跡或は城跡  
南勤馬面名をかかぬより名跡あり小田井の庄名の所なり實相院門跡  
小田江梅花元全藏に滋基の所於多井も此名あり今も上中下三つあり  
御のありかのを云々の此名もつゝあり

### 龜岳山宝國寺

田村より津上宗名古西光院末法三年の創建なり開山の聖上人  
とてよみ本尊阿彌陀本像あり心悟部の子作冥室中將姫感得生髮阿彌  
陀寺ありわれり

### 神明社

田村にあり初清年月詳し不明なり其社天王社の寛文四年の造なり

### 渡河山西方寺

田村にあり一向宗東派  
名古登勝鬘寺末  
中興基寛證俗姓

### 武藏国豊島郡荒木の住人安藤兵部少輔光季

と云理と号し静巖僧都小随從一顯  
密西宗と學び得て博識の譽あり其後諸國と經歷し尾張小来り  
て尚寺にあり親鸞聖人小歸依し三州より尚ちにび之師あり

の約と云し名と免澄より入夫より聖人大浦郷小移らさげ小本原  
川の急流たやう流りきと七人の信徒身命と惜す河川の瀬踏

して聖人と後とありせり是より瀬部七門徒と云  
瀬部七門徒の事  
栗郡の郡もつり

小聖人真筆の九字名號蓮師御筆の光明品と安置せりとあり  
授與の品今も寺傳すも多づり植られ

百合しつひ傳へて麻子百合あり西方寺百合とて世人羨みせり  
聖人志業令依の光明品にまみ上人教百言の書入りて他に無類の一軸也社所有人も其言  
名号を物語り上人の遺教も二幅教め上人書翰も三幅教め其言也  
天台宗の所より傳來の金剛五條の空也其言也  
略次五年三月廿四日より三日のる中干りて詳集す

名産豊表  
田村にあり盛か原寺にあり小田井表にあり他も多し運送は  
備後表にあり甚精なり又天蓋蓋とも作り出りて南分の名産なり

琵琶塚  
小湯塚村にあり村名のをわたりかびの塚の傍にあり法永三年所なり  
意慕して墓にありし事女が墓なり又夫よりうる七十餘年を修り塚の形もく

寂莫なる山林にあり彼處女が琵琶と共に所をより傳ふるも其の年法天の小祠あり

お取し年曲と奉納せりは時彈ひ治承とて長卷の治承四年の文字ありて下小田

井矢橋氏の墓ありとのひり所長五の撥とすれりし所外の鄙の宮居も法永

井矢橋氏の墓ありとのひり所長五の撥とすれりし所外の鄙の宮居も法永

井矢橋氏の墓ありとのひり所長五の撥とすれりし所外の鄙の宮居も法永

井矢橋氏の墓ありとのひり所長五の撥とすれりし所外の鄙の宮居も法永

わけて述べたるは、後述の事とあり、  
ウイハハ非も物文あり。一、

### 五社明神社

中小田井村あり、本社八幡白山と相敬ふ、左右の杉江神明、愛宕天神、熊野  
寛維修復を、山福、難お敬る、居あり、境内、本社、天福、荷金、毘羅、秋葉の社あり、  
例祭ハ六月十六日九月朔日、神宝、鏡二面、四神の旗、本所作、本地、額、本件、二俵、弘法、大師、作  
祠官、青木氏

### 妙光山願王寺

同村あり、天台宗  
中田村密藏院末

淳和天皇の天長六年疫癘をやめて

人民死にけり、澄純法師越の國より此地小来り病者のより仁

王護國般若経と誦し疫疾消除の法と終りけり、國中の病者悉

く平愈を依り、あちと達し、境内小白山、椋現を勧請し、より、

累年の兵火に類廢り、祐秀法師再興して旧復り

本尊、某師必  
来ハ、無受大

師の作佛より、寺室の、後田又六郎の画像、天正三乙亥年、李秋斐、田海、国寺の仁峯、和尚の  
讚詞あり、殊に、古、唯、君山、翁の、抄の、小、手、巻に、中小田井村妙光山願王寺松壽院ハ五代以前  
ま、長、興、寺と、し、弘、ひ、て、寺、号、と、り、し、後、田、又、六、郎、の、像、り、洛、天、正、三、年、し、り、上、下、と、着、し、  
半、考、の、く、小、刀、と、し、一、層、と、し、安、座、下、上、下、に、指、し、上、下、と、り、上、下、の、椋、所、一、文、ま、  
下、の、後、下、袴、上、の、浅、黄、下、の、柳、古、代、の、姿、殊、勝、小、尼、伊、と、ま、り、  
指、花、光、藏、  
寺、在、清、洲、一、里、東、數、株、無、恙、舊、時、紅、土、人、連、日、勸、五、  
話、逢、又、看、花、敏、定、功、東、聖、主人、東、安、藏、主、守、寺、山、  
張、州、志、畧、に、此、寺、と、出、し、今、世、長、興、禪、寺、東、聖、軒、及、李、仙、安、藏、主、之、事、跡、未、詳、蓋、東、聖、軒、者、長、

奥之塔頭而今之東聖寺其塔故辛丑之支幹考之萬里在世之厝數則蓋文明十三年辛丑  
也然則東聖開山禪師在任之間也とあり、其所定、向、い、り、と、り、若、山、翁、の、説、し、る、所、の、  
當、り、者、は、辛、明、ら、け、り、

### 竜光山東雲寺

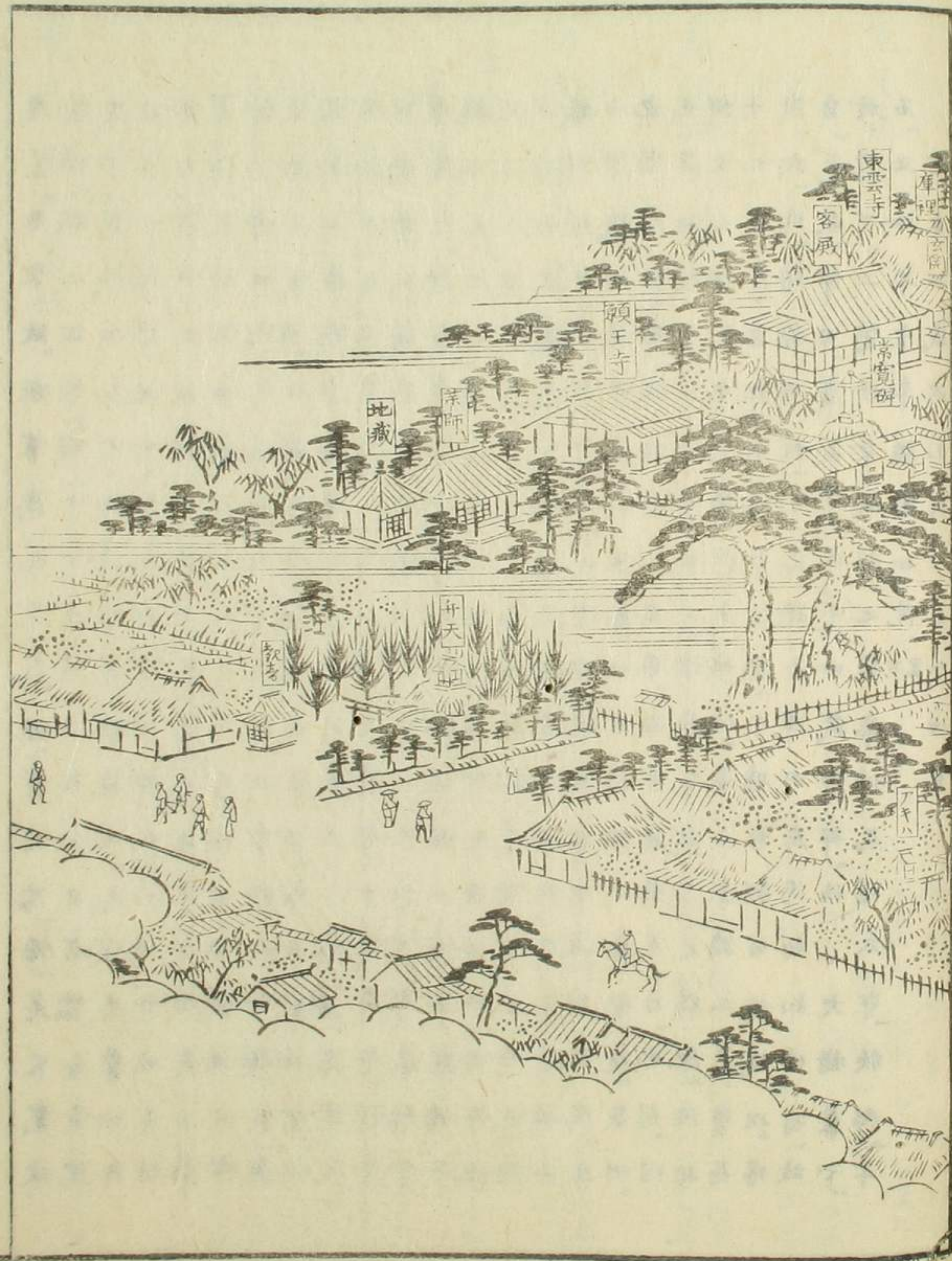
同村あり、臨濟宗  
名古屋政秀寺末

明應元年當所の塚之織田丹波守

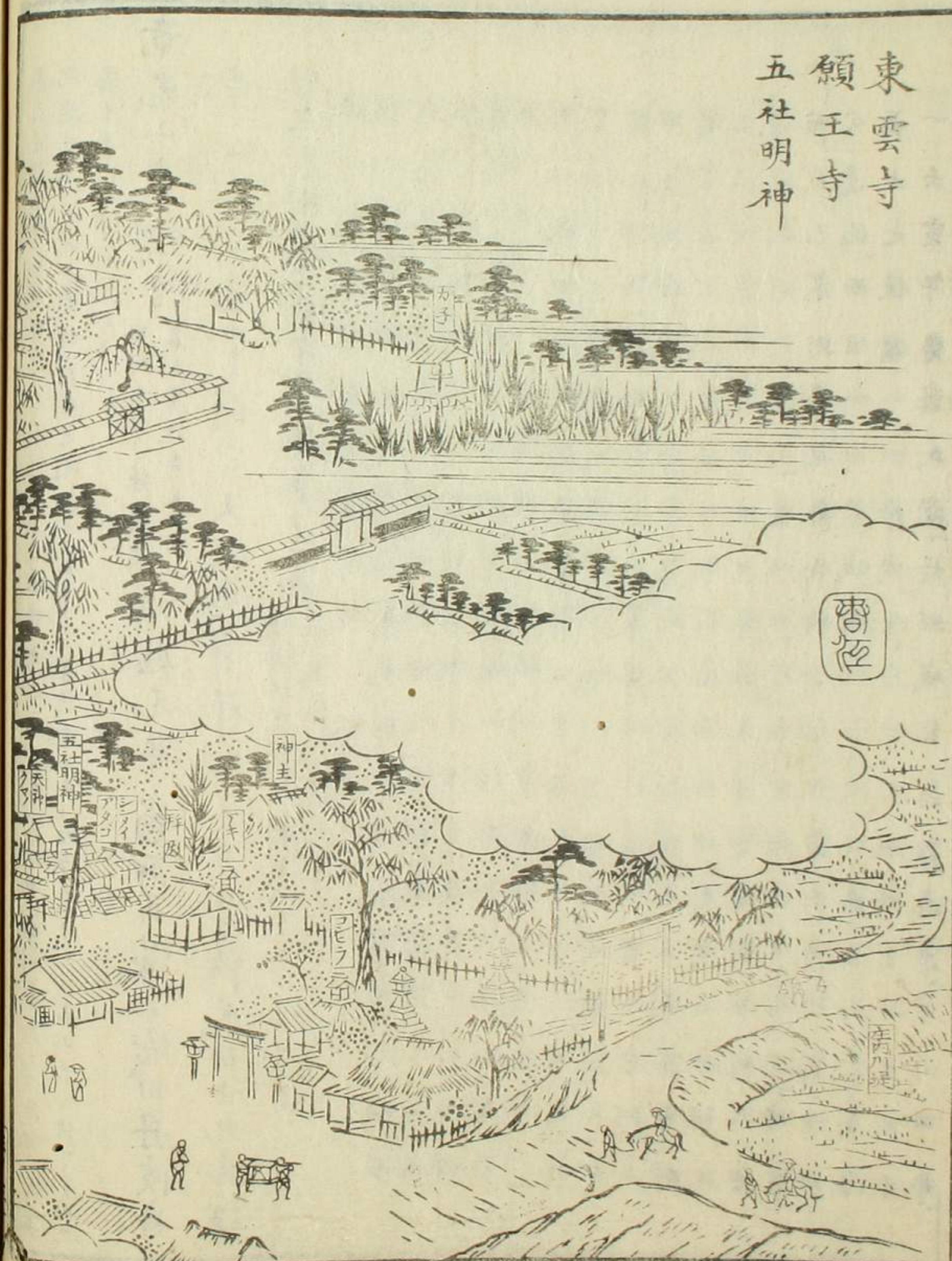
常寛の開基し開山ハ大猷慈濟禪師より其後天正十九年津

田又六郎信時の室再興し、境内に常寛の碑あり、  
其、文、左、の、あ、り、

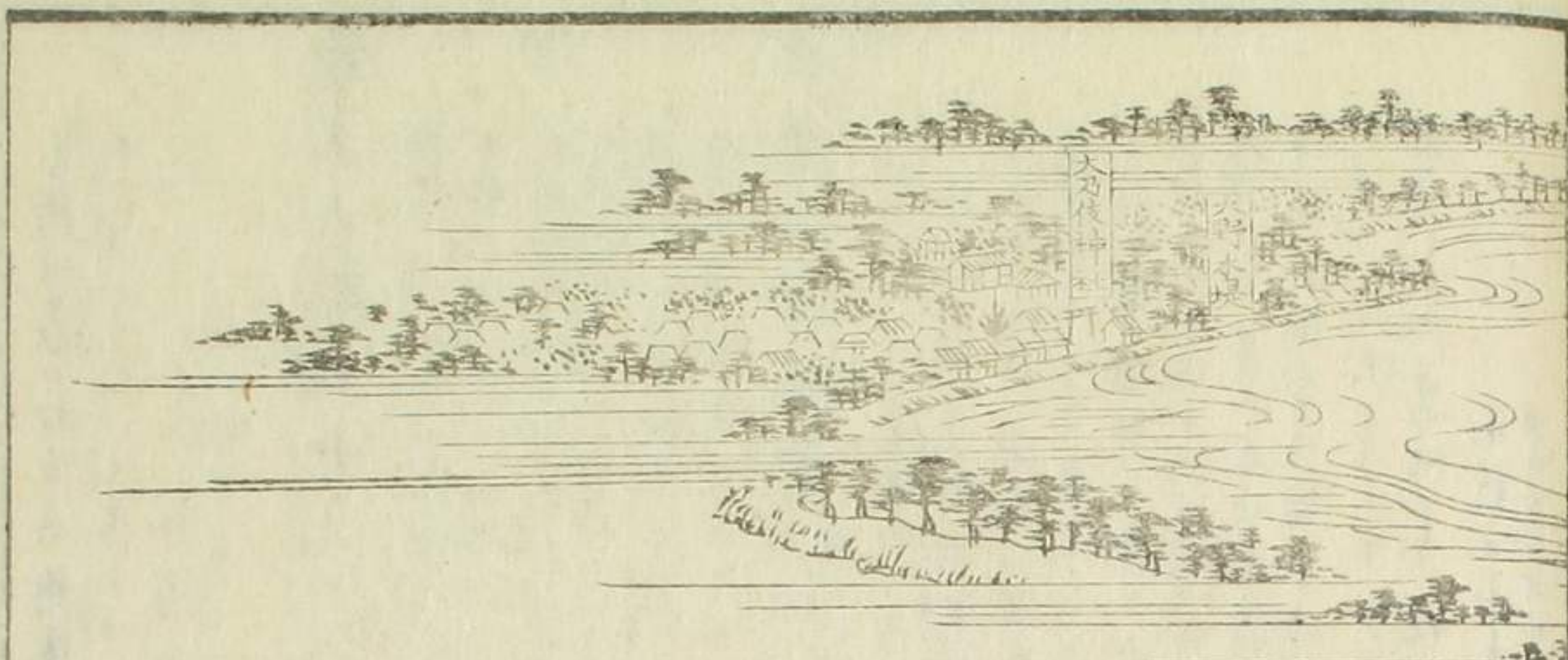
織田丹波守平常寛公碑銘曰  
功名春昌行操率  
地蔵林  
高井  
水馬  
高馬  
山馬  
徳馬  
石馬  
翠馬  
先馬  
出馬  
自馬  
親馬  
真馬  
武馬  
天馬  
夫以織田丹波守平常寛公者其先出親真武天  
皇而十八代津田織田元祖三郎隆太夫親真之末  
裔也汗馬之功且相拔萃築城於尾州春日井郡  
田井庄領之下四郡且相拔萃築城於尾州春日井  
為香山之地請妙心大猷慈濟禪師為開山始祖永  
正三丙寅七月十四日卒蓋東雲寺殿前丹州太守  
開巖化元大居士矣此知放世出世法不偏不倚常  
而克己寬則衆矣此知放世出世法不偏不倚常  
父遺德而住小田井城城子織田藤左衛門寛維  
長大之後讓小田井城城子織田藤左衛門寛維  
一壬寅年齋藤氏圍大垣城其急難遠達于小田井



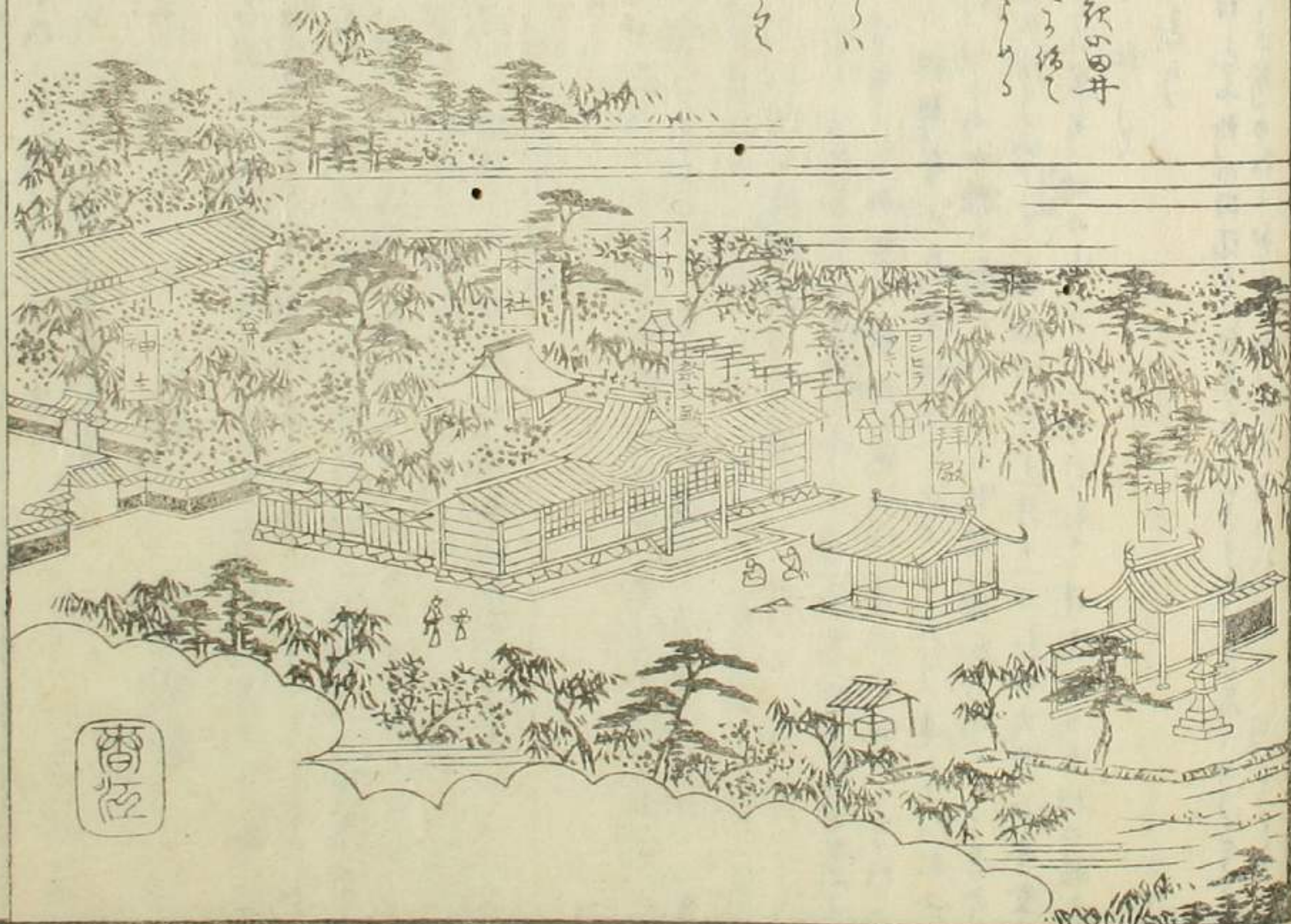
東雲寺  
願王寺  
五社明神



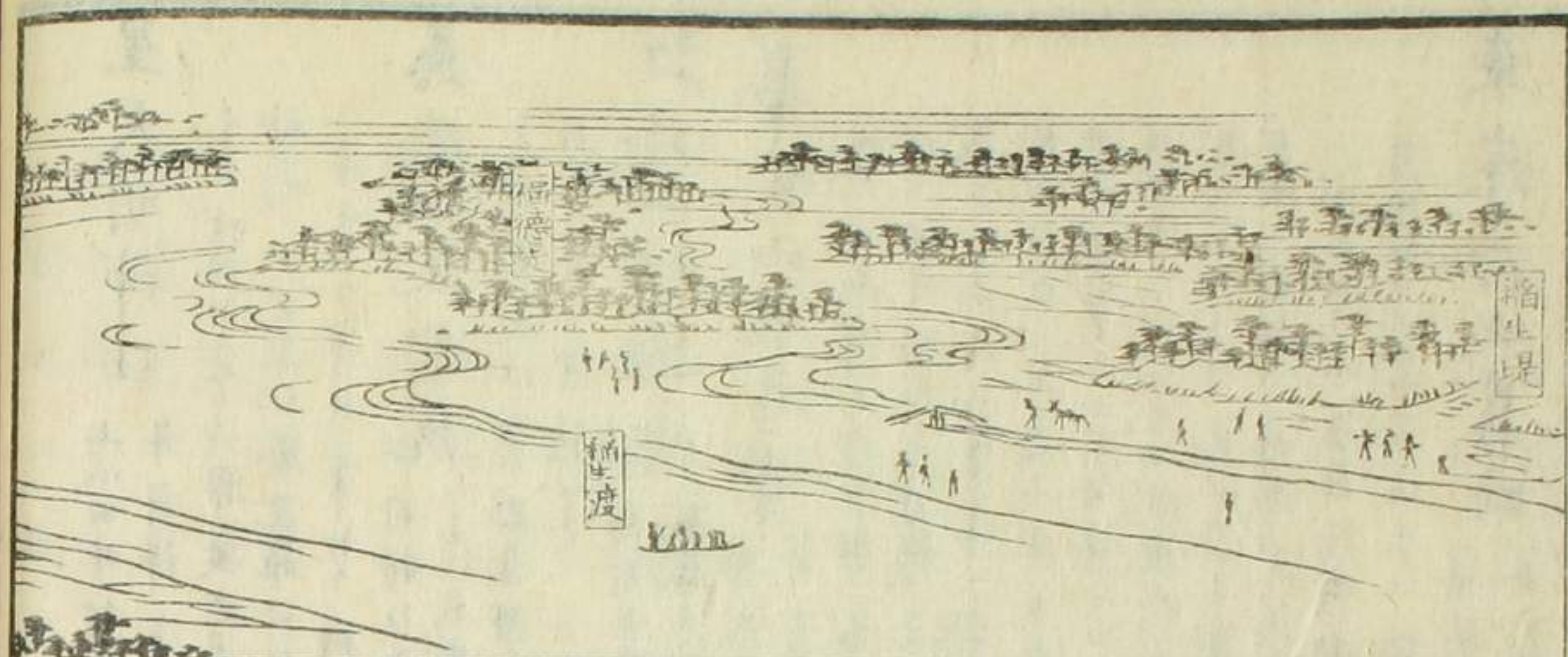




よりその秋の田井  
 うるまのふるたて  
 みる  
 木のこゝろ  
 い  
 ぬるま  
 け  
 ながせ  
 の  
 汁  
 頭



香煙



星官  
 大乃伎神社  
 稲生渡

星大乃伎の奉  
 後一位祐真卿  
 手にとり  
 うらののまや  
 くいらゆり  
 やらのやうゆ  
 うら  
 泣ぬ

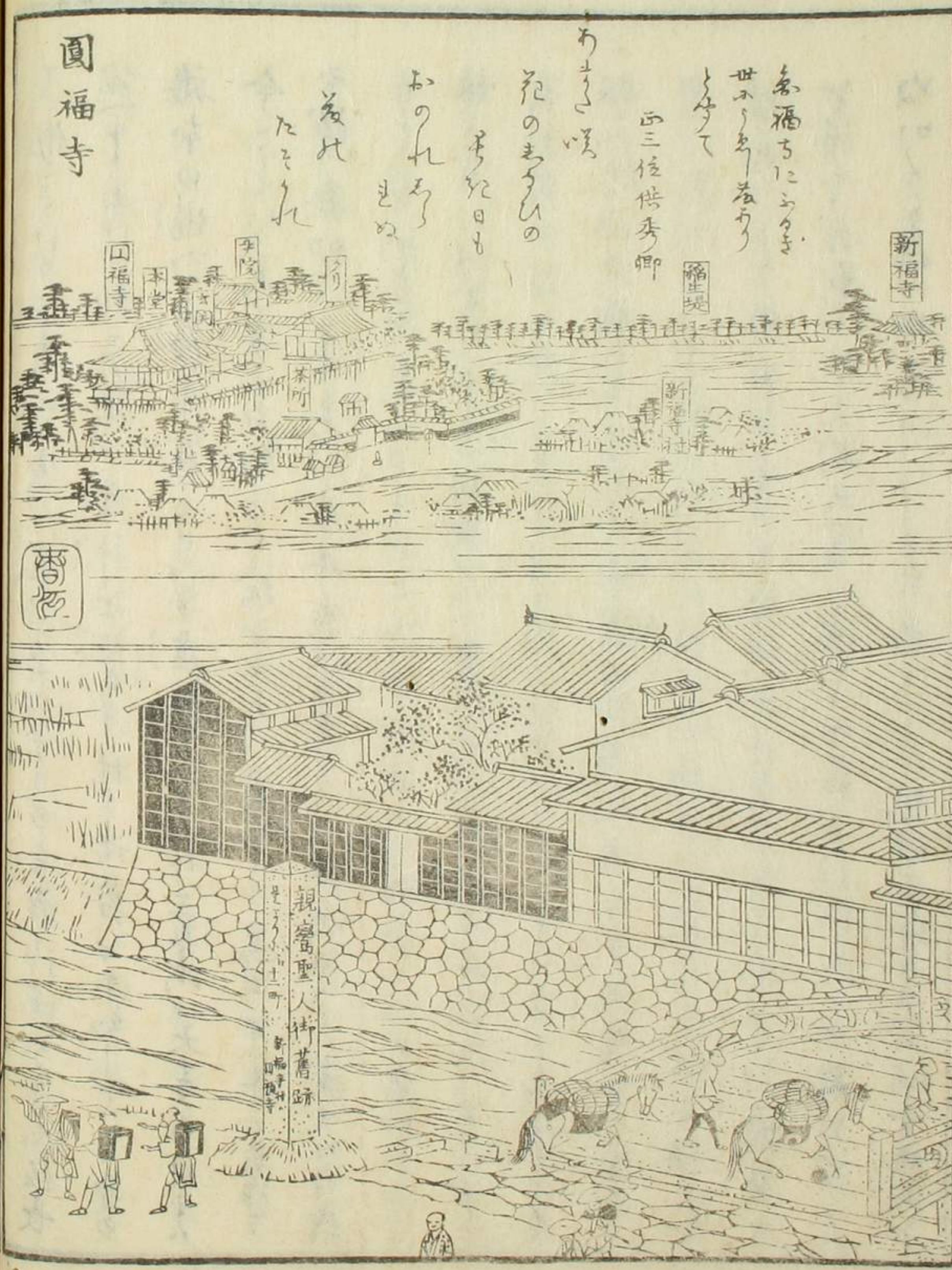




わやお免奉旨是のうらと清洲の東名塚村小要害と據て依久間  
大守と入至守らりて長る際つて多井川洪水の折を  
待清八月廿四日の早朝柴田槍六千餘騎林美作守も多騎より  
あて赤松名塚の城と攻撃じし押寄より城に構へる若しくは  
抱へるやうけん大守水練の達者なりて於多井川と海  
せ清洲小告し信長公即時小出馬しるをやりて是れ来る  
多井川の大水とあてしる槍六千餘も西山とてわけば  
公の勢川に越ししるも僅七百騎より柴田林が勢は二千に及ぶ  
多人救ふと危うしるもまといげしる悪人数と二手に及ば  
田造酒正回勝な馬と武者大将として柴田が勢に向りし依  
孫助山田治部な馬と又武者大助として林が勢小愈向けし依  
山田の勢は林が人数と戦ひが負色にありしは西將怒つて戦  
況小治に孫助も治部な馬も討たふりしは美作守勝にのり

て働さけると表三な馬の遙かして今日の合戦清勝なりと信長  
之中上げの叔三な馬の奇計と巡りし林が清勢とわかし自身  
旗本の備へとあてしる槍六千餘の虚と見らるし三な馬の大  
今こそわかししるわかししる槍六千餘の虚と見らるし三な馬の大  
小治の合切つしるは平危よりしる信長公つと走せわけし  
りて原地と突あふしと清中間缺口の移若しし者わけし  
林が首と討たふりしる叔缺口とあてしる馬田半平に仰せし士  
取立黒田杉な馬と名付しるは勢ひ小林が手の者と返敷けり  
叔又造酒正勝な馬と名付しるは織田馬先依久間大守も柴田が  
勢と数利しるは戦ひしる所に後より信長公大守も林が他と  
討たふりしる勝家と名付しるは討たふりしるは諸勢力  
と得しお戦ふ依久間大守の槍六千餘と引組終ふ十藏と討し  
ぬかりしは孫助叶りしると思ひしる螺吹て迎ふしるは味方勝國と





圓福寺

名福寺にふりま  
世よりありあがり  
とみすて  
西三位供秀卿

あまの  
花のまろひの  
そらに日も

おのれり  
まぬ

あはれ  
たそくれ

作りてお幡も山まき追討おろしに二百餘騎を討けり雑兵も

首級七百餘を持て清洲へ帰陳すといひたり

稲生堤 同村のわがわが大井原への形後一わたり稲生堤といふ其の頃府下の村人群衆して  
風とわが稲生堤といふなり多井のあふに五日とて城北より佳境なりて古人のゆか

伏越 同村のうら光寺村境あり福徳用水川を庄内へ引くより矢田川堤も三町  
二畝の川ぬの南あり落合一畝と  
うら光寺のりりあり落合川をい

三寶山觀音寺 兎玉村あり曹洞宗名古刹永安寺未委長八卯年鏡屋首座の遠立あり  
其後永安寺二世孝國厚和尚と嗣基と次本寺を聖観音に 國君山田即齋  
命よりあり當村の大日堂の前にあり其形を足れば伊勢神宮の大馬と未馬一軀ありといふ  
村民相議して社と是の二物と納りて社明社と名をとり 國祖君あり此社にありといふ  
当山と伊勢山と名づけり又社の名の川に橋をいひまきておのを橋と号すといふ其川を後にいひて川  
とよ元禄十丁丑  
年又修造すといふ

丹羽五郎左衛門長秀 母長政の子息兎玉村に生る知名万子代九十五歳より信長公に仕  
一方の大物と譽り向山所より度勝すといふまじりて元龜二  
年近江の依和山の城五万石をとり天正三年正月信長公宛の武士の古き家の号をとり  
て家人等に多きありて長秀といふ惟任と改めらるる公の号をとりて後母お復すといふ信忠  
清守ありて信長公孫三法師と名をとりて長秀といふ信忠公孫と名をとりて信忠公孫と名をとりて  
滋賀郡高島郡と名をとりて信長公孫と名をとりて天正十一年の長秀吉公柴田勝家と名をとりて信長公孫と名をとり

丹羽五郎左衛門長秀

功なり... 本領の若狭... 越前及び加賀國の中二郡と...  
百万石又ハ七十万石と... 張州人物志ハ叙從五位下任越前守ト云云...  
積聚を煩ひ命ずるに... 我命ト云...  
者... 其形... 龍の如く...  
秀... 奉... 公大に...  
子... お造り... 長秀...  
思... 死... 多門院日記...  
多奈波太神社 田幡村 延喜神名式小山田郡多奈波太神社本國帳  
小正四位下多奈波太天神ト云々... 官社ウリ今七夕の暮といひ  
て例祭七月七日燈を叩けて諸人と祭福也

### 越智氏城趾

同村にあり越智氏の河津林等の祖ト世々尾佐左衛門頼朝の春日  
并 郡山田在田幡村吉城ハ越智右馬允信高居城云或曰是尾張の林氏の祖  
信高の子持若村城ハ林氏助ト云其子林依清守信勝ト云又  
苗村の農家ハ其苗氏ハ川氏ト云者ハ越智の家老ト云其孫云ト云

### 吉祥山林泉寺

同村にあり曹洞宗熱田田通寺より熱田の田中にありて永泉寺ト  
地ハ易地也... 享保十二年二月苗村の役人原田左伸ト云今本寺ト云  
佛... 其後室暦二年今の中果ト云又上杉謙信の画像及位牌あり手れど  
古長尾氏小つとく由緒あり地ハ苗村の役人原田左伸ト云今本寺ト云  
寺に他りて画像ハ佛通信一百五十年の忌にあり追福法會と執行せり妙法樂和音

### 綿神社

西志賀村にありて今綿八幡ト云  
多神神功皇后應神天皇玉依姬ト云

### 延喜神名式に山田郡綿神社本

國帳に従三位綿天神ト云... 綿ハ海の如字ト云海童神ト云  
其... 中世八幡ト称するより今の多奈波ト云ト云  
其... 入海ト云... 此西...  
... 志賀ハ水色の里ト云... 例多ク淡海の志賀里ト云  
... 筑前國糟屋郡志加海神社ト云... 同例  
... 延喜神名式に山田郡綿神社本  
... 延喜神名式に山田郡綿神社本  
... 延喜神名式に山田郡綿神社本

### 銀冶屋敷

同村にあり至徳年中銀冶兼信... 志賀兼延... 美濃國  
志津の一區あり山田の國次の子云今孫ト云... 價貴ト云委  
... 銀冶屋敷  
... 銀冶屋敷  
... 銀冶屋敷

平手政秀宅址

田村のちり今城の土居と云  
真利の頃ここに碑とあり

改秀の中務大捕とあり信長

公吉法師殿と稱し那古野の城小居より頃父徳後より林

新五郎ともいふ家老とてお誂られりかくて信長公十六歳の

頃父おかくは多ししが朝書武藝をせしとて他事とてこれ我意

うて行跡ふしうは先考も不孝なりと改秀とて嘆き年月

練奉り又五箇の練書と捧げりとも危角意徳ありしは改

秀思ふやう一度お家も治りやうんと見せ交存し乳哺より

守りてこれも弥頼おげもう君臣の間も不和ありしが只自

害して見せし中さし津心ともおされりんと思ひ定り改秀が領

地の志賀村へ引介家老山田久内とて之者と使して沢彦和

尚一書とつら練書逆耳故某自害仕候さるる心とせざる

事のやいんしおき送り床小腰とわけ一刃刺り信長公と急ぎ

呼ぶべしといひこれにこれに騒ぎ公かくは進中只是とて

預ひしとて馬を証つけしは汝何とて斯のせやとてお言に

取付まゝ床より下りし津心とて何事やわあけんお言に上り

ふ信長公今より汝が美見にせよとて病をせよとて改

秀是津心とて腹十文字に捲切てお借りし死をうりて時

天文廿三年甲寅閏正月十三日の曉行年六十二歳なり信長公

死骸お抱付し津愁嘆おきりあり古今追腹と切者ありしと

しも君の津心とせよんしおに自害せし和漢の無双の勇士これと

惜まぬ人のさうりたりこれより信長公行跡とて終に草創五

君の一人とてありありの印し改秀の忠義のふりやうかくて信長公

沢彦津後者ありて我無器用と日頃練多しとて用ひしりけし改

秀不慮に切後せし事父に難ししりも力をなすしり引導等

頼むしありしとて則法名功菴宗忠と付しと下矩の頌に曰忠肝義

膽太稀奇横按鎮鉦忘所知末後窄開鏡爐歩一舉々倒五須弥

一喝一喝... 信長公声をあげて愁嘆... 平手五郎右衛門... 田監物兄... 擔ひ... 公も平手を... 津泊珠の... 後沢彦に命... 改秀と... 田郡小本村... 改秀居... ぬち... 頃三百貫... 寄附... 跡... 記の要... 括て... 信長記... 諫書... 五ヶ条... 文... 奉... 又連... 牧... 東国紀行... 織田... 信... 禁裡... 御修理の儀... 依... 仰... 下... 平手... 務丞... 改... まりの... 御料物... 進納... 宗... 牧... 尾張... 小那古野... 平手... おび... 一... 産... 其の... 武... の... 義氣... の... たり... 成... 連... 歎... 心... 用... 以... 女... 事... とも... 兼... ても...

平手 中 略 君 碑  
 人 誰 不 死 或 輕 於 鴻 毛 或 重 於 泰 山 其 重 也 有 處  
 之 其 輕 也 有 夫 之 決 而 成 仁 雖 百 其 身 可 矣 初 織 田  
 公 之 立 也 年 少 志 行 中 務 君 驟 諫 為 不 聽 最 後 以 書  
 功 諫 退 而 自 殺 公 為 之 怨 艾 霸 心 始 生 矣 夫 自 應 仁  
 來 海 內 亂 麻 公 起 自 尾 張 而 撥 之 群 兇 幾 職 功 實 由

今中務郡三宅村野に墓あり者改秀の  
 高塚といひ傳へ其速おもしろき也

児宮泰りの圖

綿八幡社  
平手政秀碑

直諫 臣 豈 顧 身  
 自 茲 幕 府 策 熟 新  
 一 言 伏 劔 鐵 心 力  
 贏 得 銳 鋒 百 萬 人

細野要齋



平手政秀の  
 名をいふは  
 こゝゆゑ  
 みちのちの  
 るすゝも  
 誰也



非他として事なり... 延喜神名式に味鏡神社本國帳に従三位味鏡天神と見えたり

慈眼山成願寺

成願寺村にあり天台宗福港村聖徳寺末子幸叔と見ゆ行基并作の十一面觀音と云ふなり大伽藍あり今ハ村堂のみあり古く僧尼の頃の古刹あり

味鏡村

小牧街道の村あり國君御祭神國宗本尊と通せり内官道より農家の中より味鏡の字と鏡に漢字して砂石集小尾張國味鏡といふ所あり康正二年造内裡段鐵英國役引付に十貫文玉泉寺領尾州味鏡分限錢と見えたり諸書に漢字あり

味鏡神社

味鏡村にあり今延喜神名式に味鏡神社本國帳に従三位味鏡天神と見えたり官社あり糸井ハ大日靈尊日本武尊建角見命天兒屋根命武甕槌命

武甕槌命 卷田天皇の六所あり 神東殿拜殿鳥居あり本社白山社神明社金毘羅社神室太三振鐮四本鏡一面弓三張あり

例祭 八月廿九日味鏡川の淵にあり淨宿院へ神幸あり其次有ハ神獅子旗鉾弓もお行次に子陣羽織とて 慶應頭中とわびて三人神澤乞の者一人供奉す馬の引せり 味鏡神社の故より

味鏡山護國院天永寺

同村小あり真言宗 大頂真福寺末

文明十二年の天永寺縁起に鳥羽天皇之御願西弥上人之草創天永年中開基也蓬萊宮之末社六所明神鎮護之靈岫瑠璃界之本主十二願玉接化之梵場也

味鏡神社の社傳あり 幸に疑きりし 勅願寺少て 安食柏井の両庄と云頌して七堂十二區の僧坊儼然として古刹なり

五百年來の兵革に零衰一山号又鏡の池小附會して味鏡と名つるにあり

復修あり ○本尊 茶師め茶り 聖武天皇の御宇行基菩薩南所に奉祀あり

寺堂 大般若經六百卷 曆應元年九月八日 足利左兵衛督直義主の納り所

鏡池 本堂のわきあり 同山西孫法師の傍白蓮池にあり

龍池 本堂のわきあり 同山西孫法師の傍白蓮池にあり

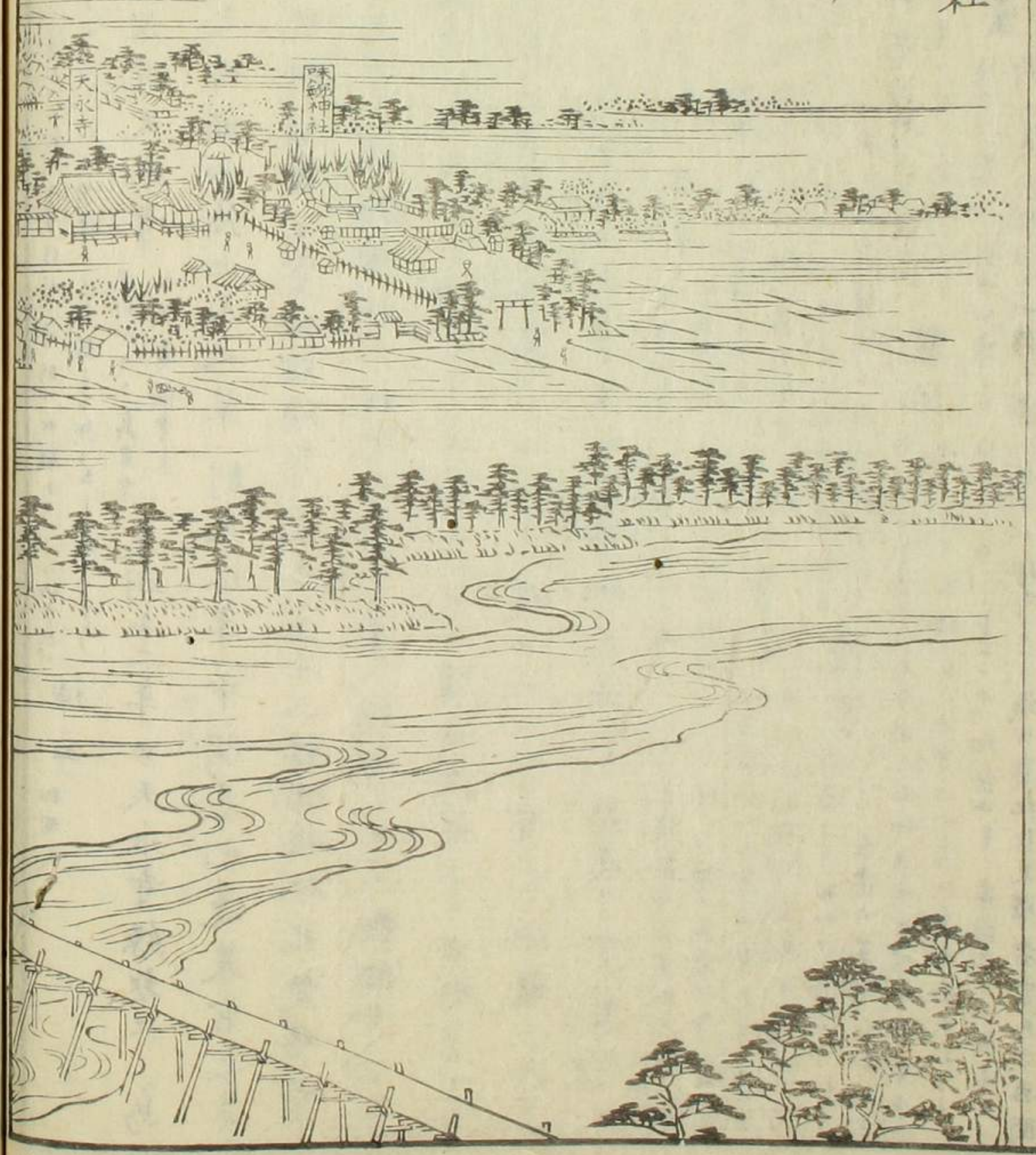
岩屋堂 寺より北の方敷所と傳へり 古時に傳へり 十面觀音ハ西園三十三觀音の一所あり

園にハ天澤ハ古の傍あり 織田真紀に天澤者宗天台再開

所あり

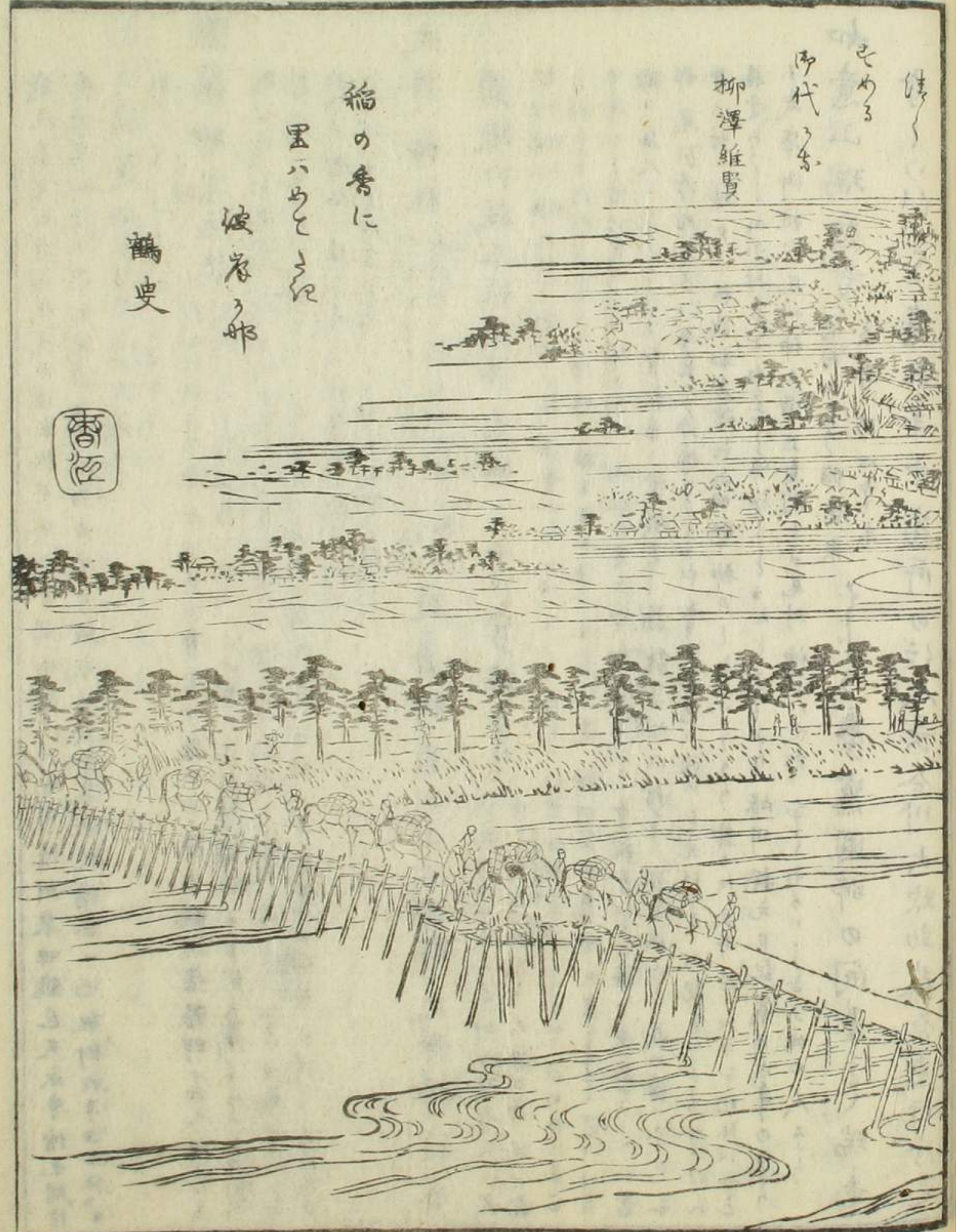
味鏡神社  
天永寺  
味鏡川

水上ハ  
君ヶ敷に  
勝川の  
ふくれ



ついで  
とめり  
所代々  
柳澤維賢

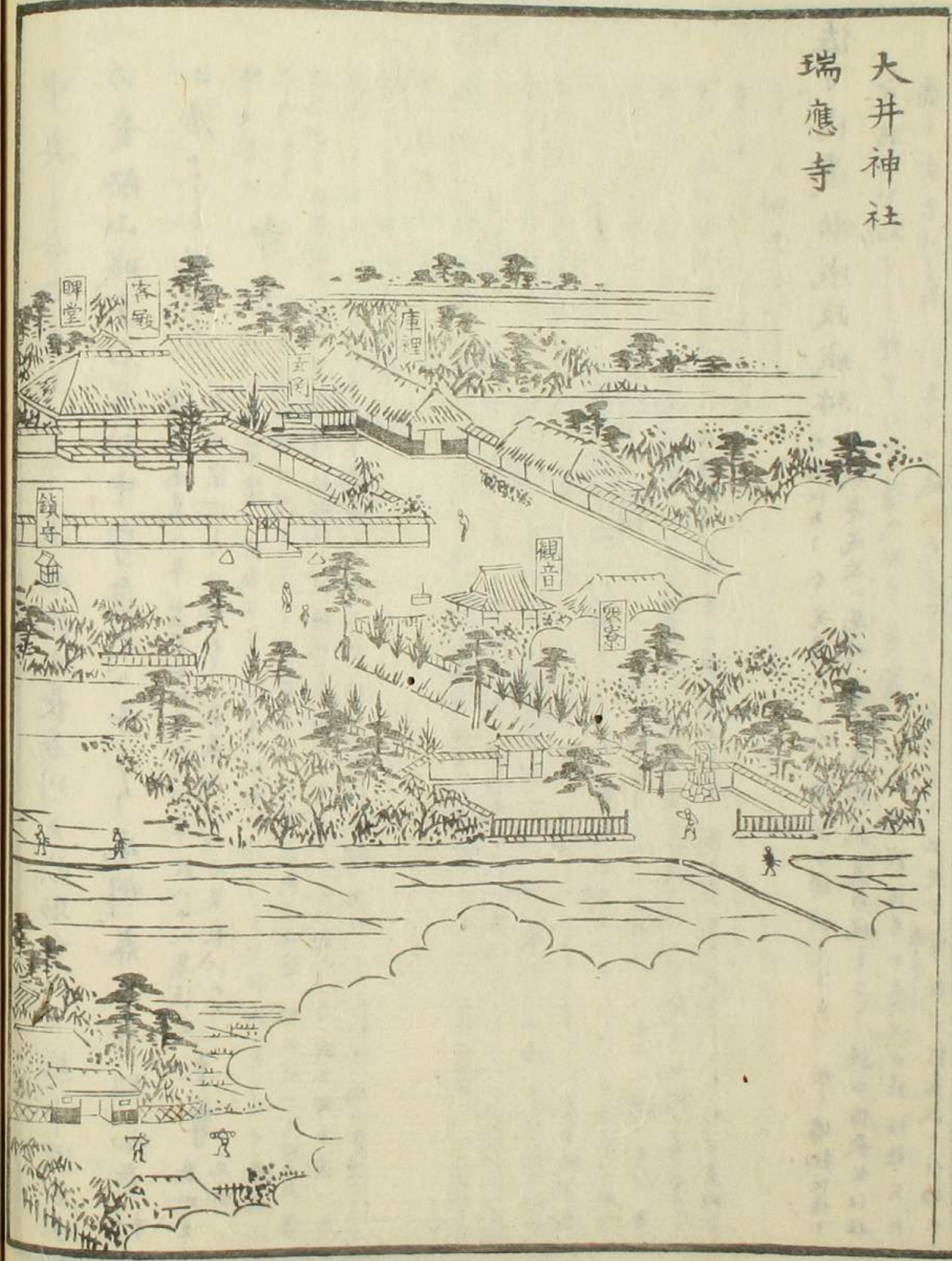
稲の香に  
墨ハウと  
波巻う那  
鶴史



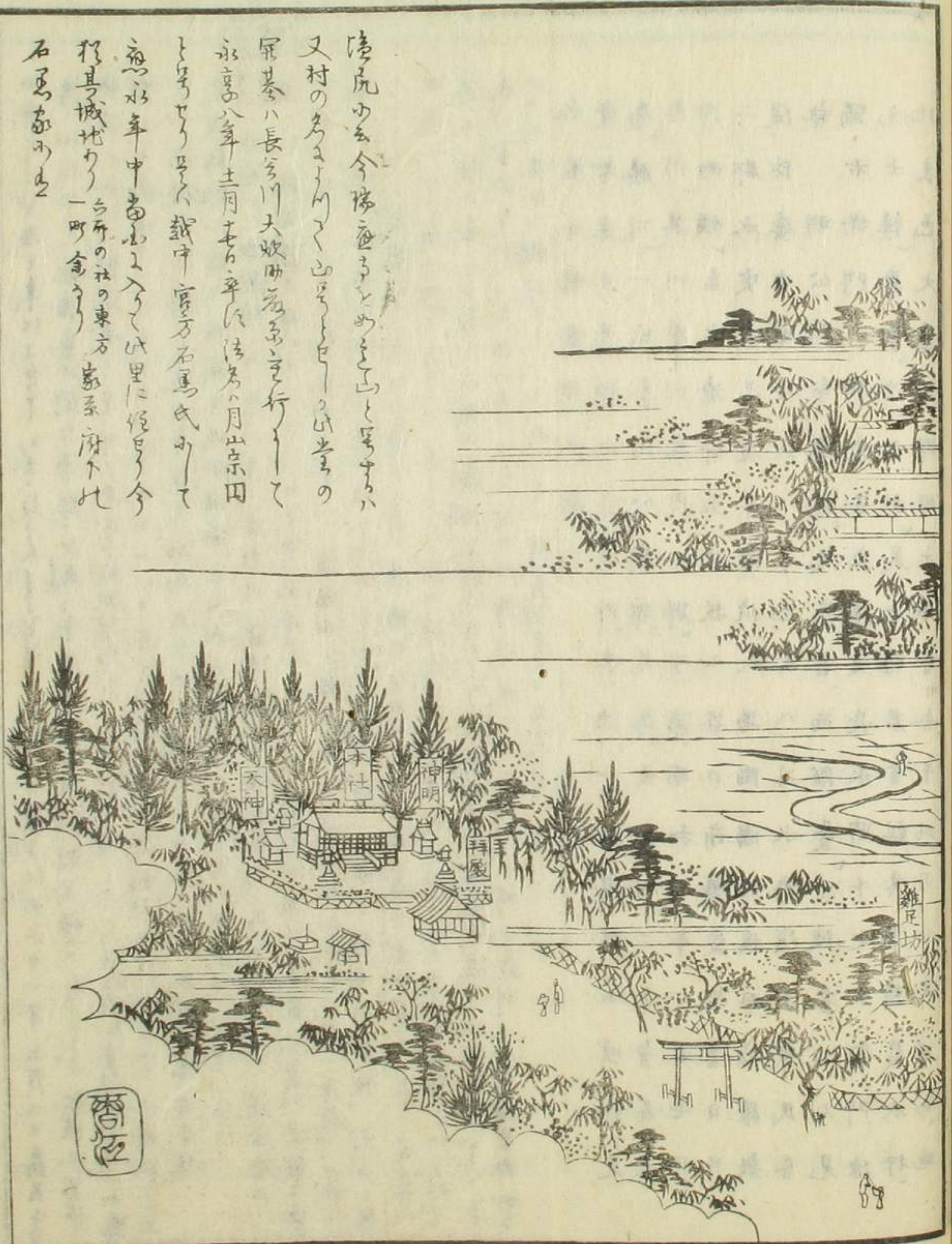




大井神社  
瑞應寺



清原の今勝をよとめとて山と名せりハ  
 又村の名より山と名せりハ  
 足基ハ長谷川大改助をよとめ行  
 永享八年正月七日平治法名八月山宗田  
 と号せり  
 又中官方石馬氏ありて  
 永享八年中官方石馬氏ありて  
 石馬氏ありて  
 石馬氏ありて



香印

洗堰

小史... 洗堰... 古城跡記に依り内藏助成政城跡今此地有祥利号長壽山光通寺...

其下流... 官許... 文政二年比良村の北新川堤の上に治水の碑を建てる...

比先彌塾... 比先彌塾... 比先彌塾... 比先彌塾...

功之載... 比先彌塾... 比先彌塾... 比先彌塾... 比先彌塾...



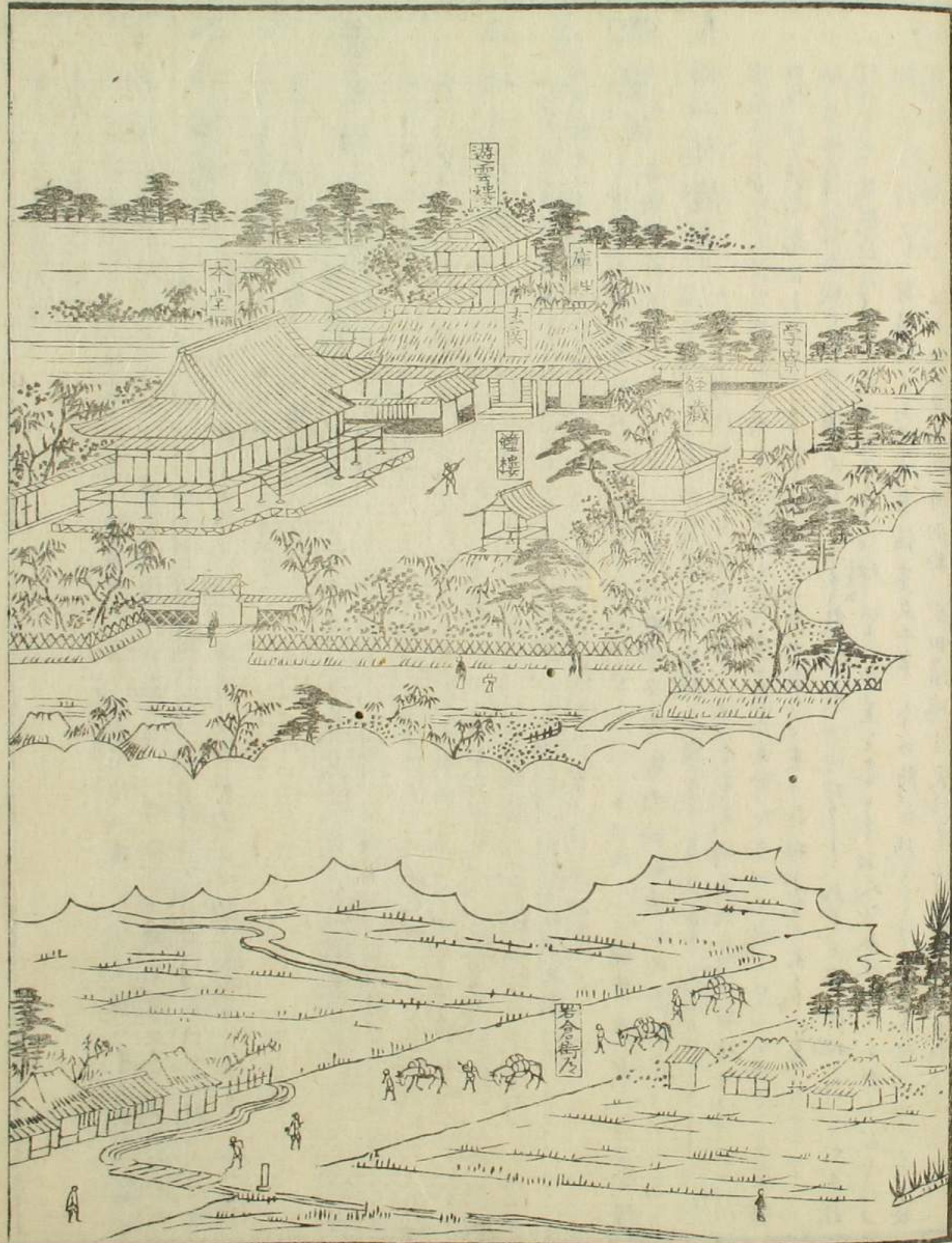


平田寺  
林證寺

到平田寺

月坡

僧訪僧房直入門推  
敲今夜西空論他時  
錯問平田路稻熟秋  
風一樣村



声... 戸門四

十所社 日村あり 伊勢春日八幡 豊田の七社也 享徳二年 十所して 永禄二年 亦所の城...

山王権現社 神あり びりハ富の山 信濃の分り 住手あり 一人ハ社の前より 下馬...

菅天神社 宇福寺村あり 應永二十年 修造の棟札あり 夫より 以前 創建の年月詳...

法成寺廢址 法成寺村にあり 天台宗の梵刹なり 八重山法成寺と云ふ 大抵... 後世廢...

徳重里 兵敷地等之事あり 一条に尾張國徳重保普廣院贈相國初所宛給也... 桃華葉の終り家領...

生田山林證寺 大山寺村にあり 一徳重二年 祝誓聖人 國東化導の和時の住持聖人に...

志賀田天神社 原田村にあり 本國帳に從三位志賀田天神とあり 日村あり 今ハ三徳...

鹿田山仁昌寺 日村にあり 曹洞宗三開正眼寺未久 天台宗より 後尚宗に改む 祝誓...

訓原神社 井淵本村にあり 粟原天神と稱す 延喜神名式に訓原神社本國帳に從三位...

熊野權現社 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

訓原神社 (cont.) 久保より 久利と音通 伝 久保より 久利と音通 伝...

熊野權現社 (cont.) 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

訓原神社 (cont.) 久保より 久利と音通 伝 久保より 久利と音通 伝...

熊野權現社 (cont.) 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

訓原神社 (cont.) 久保より 久利と音通 伝 久保より 久利と音通 伝...

熊野權現社 (cont.) 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

訓原神社 (cont.) 久保より 久利と音通 伝 久保より 久利と音通 伝...

熊野權現社 (cont.) 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

訓原神社 (cont.) 久保より 久利と音通 伝 久保より 久利と音通 伝...

熊野權現社 (cont.) 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

訓原神社 (cont.) 久保より 久利と音通 伝 久保より 久利と音通 伝...

熊野權現社 (cont.) 熊野本宮より 隣村藤田村の熊野社と稱す 宮と稱す 久保より 大抵...

鹿田山仁昌寺 (cont.) 村仁昌寺 祝誓堂昔ハ天台より 曹洞宗小より 内親善の怒り 堂を築き 堂を...

熊鳴山日光寺

同村にあり昔洞宗岩倉村童禪寺末住昔真言宗より中世今  
宗に改じり今なき丈六の阿弥陀行基井の作らひ傳ふ  
國分寺の<sup>おん</sup>一<sup>り</sup>に<sup>は</sup>行基作の丈六の阿弥陀七佛なり今中世那所くに在り  
て一<sup>り</sup>に<sup>は</sup>行基一<sup>り</sup>なり此世の時分りて一<sup>り</sup>に<sup>は</sup>取来りて一<sup>り</sup>に<sup>は</sup>洋<sup>り</sup>に<sup>は</sup>傳ふ  
聖武天皇の建<sup>た</sup>し<sup>て</sup>の<sup>所</sup>に<sup>は</sup>死<sup>の</sup>山<sup>上</sup>に<sup>は</sup>あり  
今其山あり<sup>て</sup>後由あり

牟都志神社

六軒村あり 延喜神名式牟都志神社本國帳小正  
今白山と稱す 末社愛宕社天王社あり例祭  
八月十八日大行院之<sup>り</sup>時<sup>に</sup>行<sup>は</sup>る

萬松山常安寺

豊場村にあり曹洞宗 永享年中明谷義光禪師 後述に  
杖田通寺末 八月十八日大行院之<sup>り</sup>時<sup>に</sup>行<sup>は</sup>る  
の創建より<sup>は</sup>衰微小及び<sup>て</sup>此地の領主溝口富之助 嶺山良英  
居<sup>る</sup>赤吉

元年辛酉  
九月九日卒

其己父藏田居士の菩提の爲に大永四年甲申六月再  
與一田地と寄附し且肥後國河尻村あり<sup>て</sup>釋迦阿難迦葉の

三佛像と永樂錢百貫文<sup>り</sup>て買取り當寺の<sup>り</sup>なる<sup>り</sup>は<sup>て</sup>是天竺

の佛工毘首羯摩天<sup>り</sup>赤梅檀の香木<sup>り</sup>て刻<sup>り</sup>て<sup>る</sup>像<sup>あり</sup>

系部嵯峨の釋迦<sup>り</sup>同木自作あり當寺の像<sup>り</sup>木の根<sup>り</sup>の方<sup>り</sup>に

作り<sup>り</sup>俗小豊場の根釈迦<sup>り</sup>杖次海内に比類<sup>あり</sup>る<sup>り</sup>靈<sup>あり</sup>と

嵯峨の釈迦の<sup>り</sup>他所<sup>り</sup>同帳小出<sup>り</sup>奉<sup>ら</sup>び<sup>て</sup>も<sup>も</sup>阿<sup>と</sup>息

灵異<sup>あり</sup>て動座<sup>あり</sup>り<sup>て</sup>近年<sup>に</sup>住僧<sup>あり</sup>他所<sup>り</sup>に<sup>は</sup>室<sup>あり</sup>住<sup>り</sup>ん<sup>て</sup>て<sup>て</sup>移

り奉<sup>ら</sup>る<sup>り</sup>に<sup>は</sup>其<sup>り</sup>期<sup>あり</sup>小<sup>り</sup>及び<sup>て</sup>る<sup>り</sup>像<sup>あり</sup>磐石<sup>あり</sup>の<sup>り</sup>重<sup>く</sup>あり<sup>て</sup>其事<sup>あり</sup>に<sup>は</sup>り

に<sup>は</sup>者<sup>あり</sup>れ<sup>て</sup>大病<sup>あり</sup>と<sup>り</sup>けて<sup>て</sup>惱<sup>あり</sup>り<sup>て</sup>甚<sup>く</sup>なり<sup>て</sup>其<sup>り</sup>に<sup>は</sup>け<sup>り</sup>

○本尊 <sup>本</sup>又<sup>に</sup>に<sup>は</sup>る<sup>り</sup>像<sup>あり</sup>の<sup>り</sup>基<sup>あり</sup>に<sup>は</sup>安置<sup>あり</sup>の<sup>り</sup>

如葉池 <sup>本</sup>寺<sup>あり</sup>の<sup>り</sup>内<sup>に</sup>に<sup>は</sup>あり<sup>て</sup>り<sup>て</sup>盗<sup>あり</sup>ん<sup>て</sup>り<sup>て</sup>

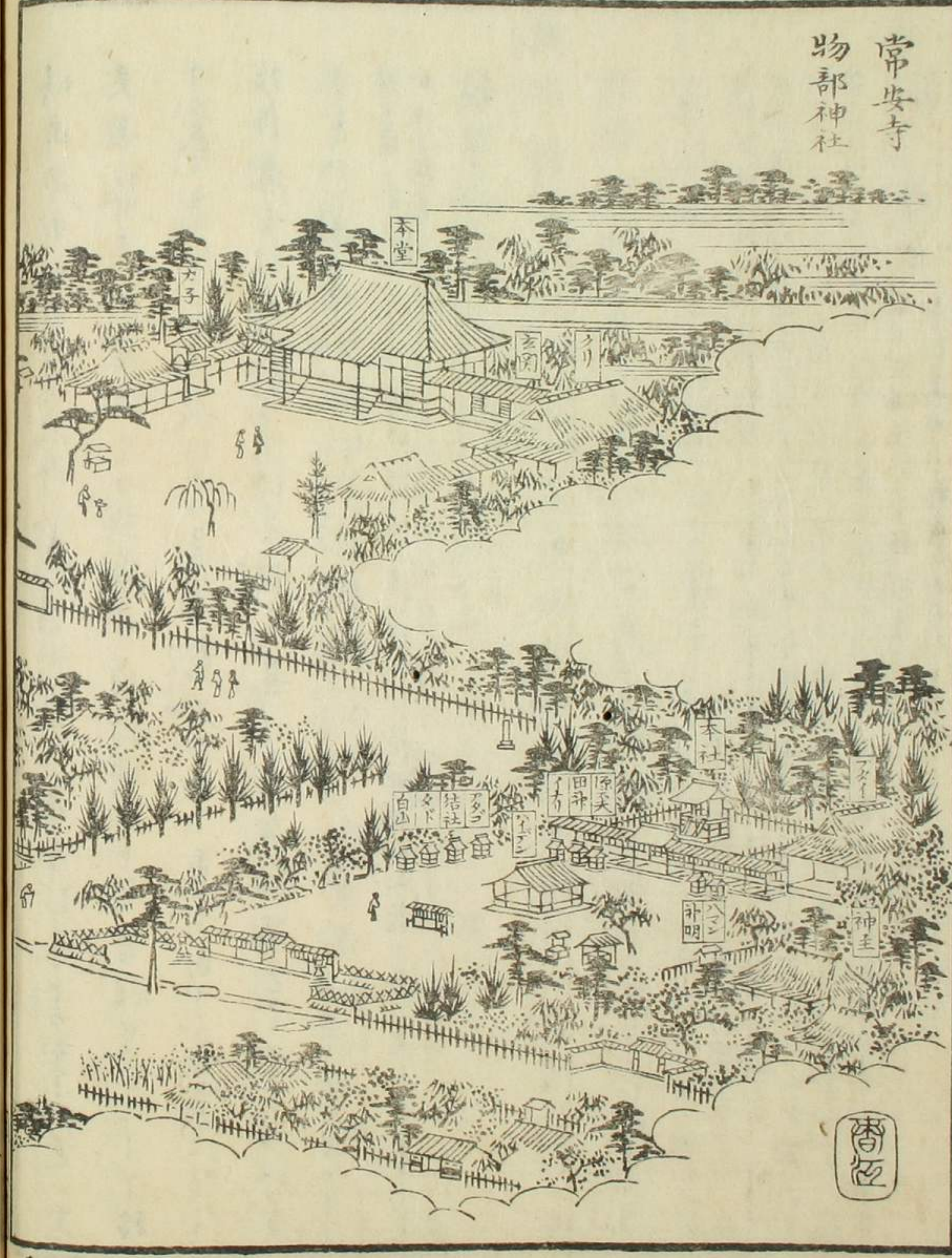
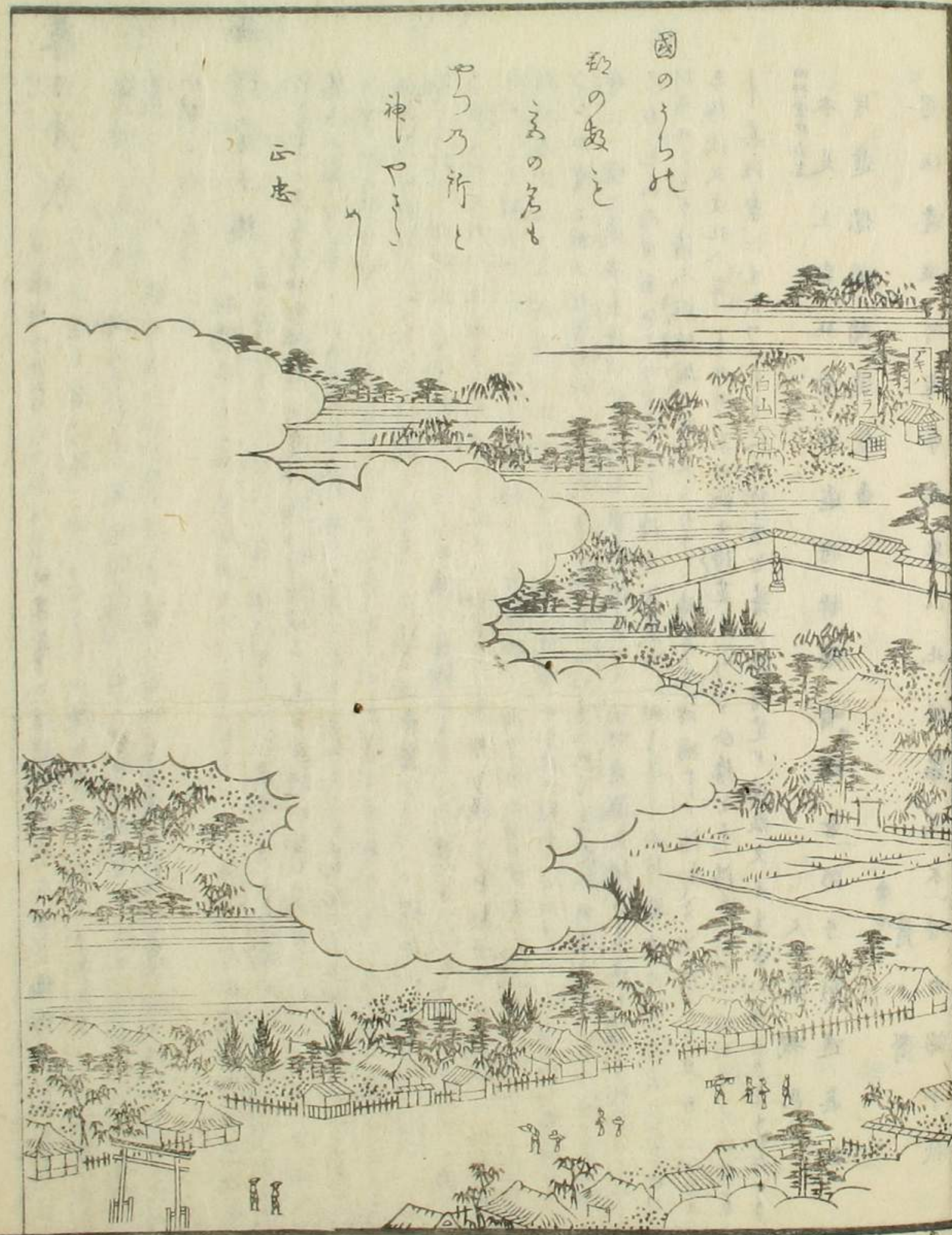
鎮守 <sup>白</sup>山<sup>あり</sup>権<sup>あり</sup>現<sup>あり</sup>其<sup>り</sup>外<sup>に</sup>秋<sup>あり</sup>葉<sup>あり</sup>社<sup>あり</sup>金<sup>あり</sup>毘<sup>あり</sup>羅<sup>あり</sup>社<sup>あり</sup>

物部神社 <sup>同</sup>村<sup>あり</sup>に<sup>は</sup>あり<sup>て</sup>俗<sup>に</sup>に<sup>は</sup>延<sup>喜</sup>神<sup>あり</sup>名<sup>あり</sup>式<sup>あり</sup>小<sup>あり</sup>物<sup>あり</sup>部<sup>あり</sup>神<sup>あり</sup>社<sup>あり</sup>本<sup>あり</sup>國<sup>あり</sup>帳<sup>あり</sup>小<sup>あり</sup>從<sup>あり</sup>三<sup>あり</sup>位<sup>あり</sup>

物部天神とあり社あり境内<sup>に</sup>廢<sup>り</sup>拜<sup>殿</sup>瑞<sup>あり</sup>籬<sup>あり</sup>祭<sup>あり</sup>文<sup>あり</sup>殿<sup>あり</sup>神<sup>あり</sup>門<sup>あり</sup>鳥<sup>あり</sup>居

等巍然と立ち<sup>て</sup>孫<sup>あり</sup>末<sup>あり</sup>社<sup>あり</sup>も<sup>あり</sup>

源太夫社多度社神明社白山社八幡社天王  
社愛宕社稻荷社富士社柳田社等あり其  
内天王社の溝口富之助勅清とあり傳へ例祭六月十五日の毎日抛灯車每満あり境  
末社熊野社同村西の表あり富士社同村青塚にありは青塚とあり古き境あり  
社説り物部神の陵とあり傳ふ古き清津の内秀吉公の軍士が<sup>り</sup>地<sup>あり</sup>と<sup>り</sup>故  
軍の後公自らは塚小登り馬場<sup>に</sup>退<sup>き</sup>り<sup>て</sup>引<sup>き</sup>次<sup>の</sup>軍<sup>あり</sup>列<sup>あり</sup>と<sup>り</sup>拍<sup>あり</sup>揮<sup>あり</sup>り<sup>て</sup>地<sup>あり</sup>あり<sup>と</sup>  
神木 <sup>松</sup>の<sup>り</sup>古<sup>あり</sup>木<sup>あり</sup>と<sup>り</sup>傳<sup>ふ</sup>り<sup>て</sup>其<sup>り</sup>に<sup>は</sup>あり<sup>て</sup>社<sup>あり</sup>内<sup>に</sup>あり<sup>て</sup>





春日井原

味濃村のわの... 春日井原... 國祖君は此の...

西行堂土橋

小牧街道... 西行堂... 土橋... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 本是 上皇 北面 郎 遥 將 攝 齋 喻 鑑 倉 彫 弓 影 遠 真 如

月 遺 像 猶 聞 道 骨 香... 國 位 遺 蹤 何 處 尋 鹿 車 山 北 薛 蘿 深 不 堪 古 錦 十 秋

色 尚 對 慈 客 一 派 濕 襟... 横井並明

一吹良松... 越後 釋 正 念

外山神社... 北外山村小ありて... 六所明神と称候

より多神の國常立尊國狹植尊豊斟滄尊より延喜神

名式小外山神社本國帳小從三位外山天神と云々

具徳山妙藏寺... 南外山村にあり日蓮宗契田本遠寺...

片山神社... 牛山村あり延喜神名式に片山神社本國帳小從三位片山天神と云々

潤應山竜徳寺... 一之久田村にあり天台宗也因密院去開創年月洋々...

潤應山竜徳寺... 罪と云んげ一聞かて去去ける...

相神もあちの扱(一)として  
例祭八月廿日有り

坂庭神社 坂庭村ありて 延喜神名式に山田郡坂庭神社本國帳に従

三位坂庭天神とあるに  
てて古村の小牧の西の方面にむくの山田郡の

三位坂庭天神とあるに  
長くうらひ北と春日部南と山田と伊奴今稻大乃伎今木のありて郡界とありて  
夫よりわの味淡外山牟都志吟六志賀田吟麻多氣給大等今多武帳和名抄に春日部の  
うちに入より夫よりや北のさかひありて坂庭村の武帳の山田郡とてにひびくと  
流りて春日部の坂庭と山田の坂庭と別地なりとよりいなり今坂庭とて村名外  
ありて村民のいひ傳ありにありて

多氣神社 大氣村にありて 社傳に祭神伊弉册尊なりとより延喜神

名式に春日部郡多氣神社本國帳小従三位多氣天神とあり  
た官社なり 多氣諸本に多氣地多氣れど伊弉の郡名とよりタケとソハ  
て元 未社 早玉社 舟財天社 例祭 八月廿日 神主 加藤

尾張神社 小汁村にありて 延喜神名式に山田郡尾張神社本國帳小従

三位尾張天神とのにひ友社なり尾張氏の祖神天香語山命と  
大已貴命と合已ありとより舊事紀の天孫本紀も新撰姓氏録

等に尾張氏の本源の神とのに此香語山命と曩祖とありハ尾  
張とより國号の起まる主郷されどは社と建らる大社とて世に  
くましくも連年の兵乱小衰微して今も小祠とありて  
ワにびり祭器と作る土器田とて地も砂とて又鏡田直會油  
田ありて字も砂とて又社の南のうに政所の舊址も存せり

栗田三所地神社 同村にあり 本國帳に從三位栗田三所地神とありて舊社なり社説

命の三前とありて神とありて三所の号ありて毎年八月十日とありて尾張神社の  
祭日に依むりて古社の三月の修造ありて今此社也に三月堂のま砂とて彼時法に  
たる多きなり

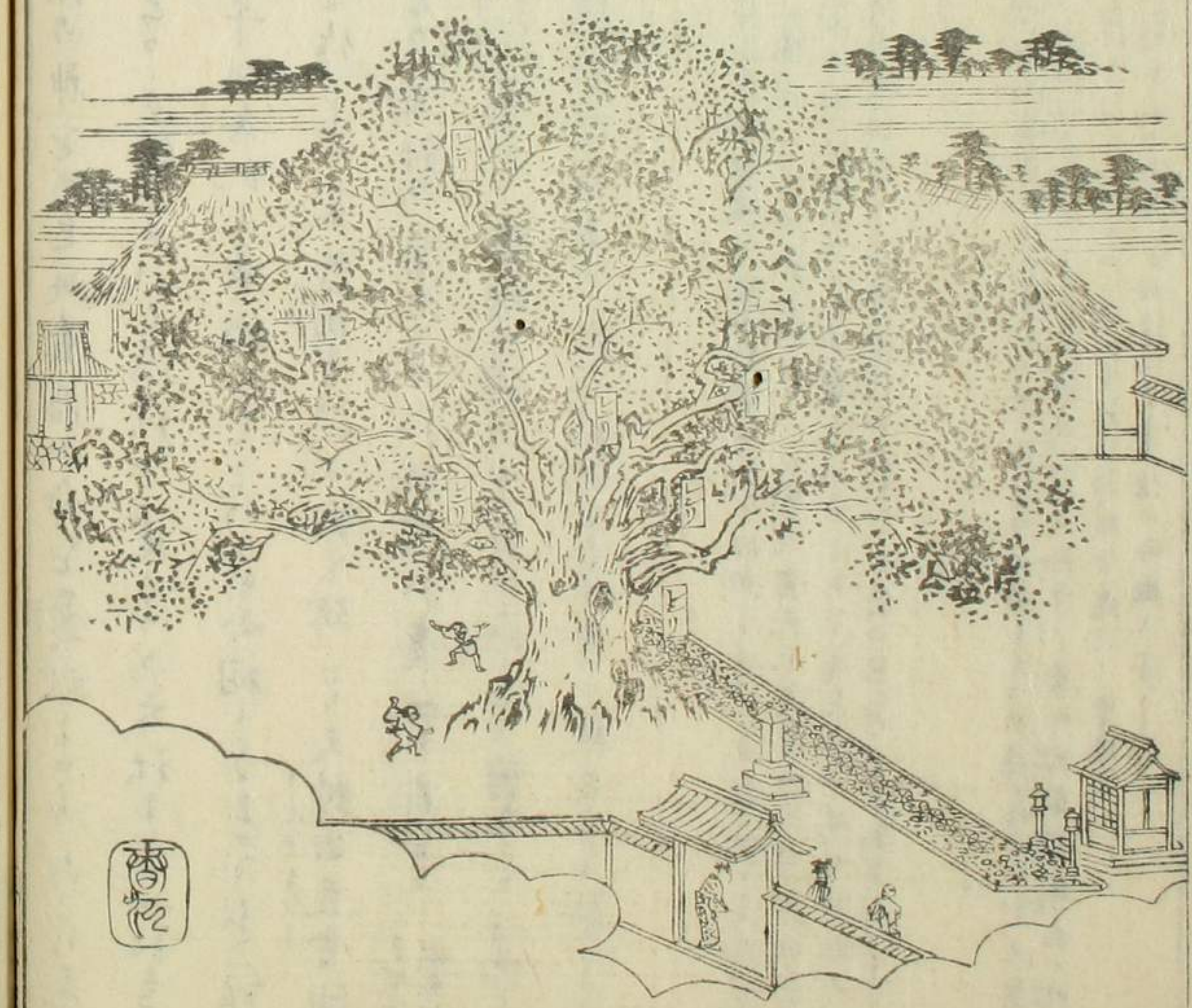
栗崎氏祕方保童圖 小汁村栗崎氏ありて 秘傳の祕方ありて

栗崎氏祕方保童圖 代一子お侍の祕方ありて 秘傳の祕方ありて  
妙業とありて栗崎氏の志ありて道ありてのち社に神とて造るを法と  
五建一ありて秘傳半法の秘ありて又いふ所を秘傳とて書附の西願とあり

神主 江崎氏

六連理の冬青

小計村本行山かきま  
つ日蓮宗の寺にありて  
高木の同山日澄上人此  
寺にありて大樹を  
種にまき居りて連理の  
てを所あり 其外中枝の  
属曲まき けりて奇樹  
と云ふ



木津川

丹波郡木津村也 木津川のほとり大木とありて南へ流す此の四五里がわきを  
とてこの川に流すは木津村の川と云うなり川に入ると清く水は味よく

小木里

木津川の西にありて小牧山の麓に在りてむろ西行法師ゆかりに寓居の地なりと云  
ありてにむろ西行法師ゆかりに寓居の地なりと云

宇津宮明神社

小計村小計の東に在りて大已貴命と奉りて永元元年織田家相成りて下世國  
中津宮の社と云うなり其地は宇津宮といふなり其地は宇津宮といふなり其地は宇津宮といふなり

船津里

船津村と云むなり船津の里と云うなり船津の里と云うなり船津の里と云うなり  
改りしと云うなり今船津の里と云うなり船津の里と云うなり船津の里と云うなり

藤島山賢林寺

藤島村にありて天台宗  
建しく戒深法師開基の灵刹なりと云うなり累年の兵乱衰微及び

堂宇も廢し什室も他所散亡せしと云うなり元龜元年庚午年戒藏院豪  
賢中興しや舊貫に復せり中島郡新安賀村國照寺に在りて  
銅磬と云ふなり其銘に藤島賢林寺勸進僧公朝天福二年甲午

二月十五日と彫付しつもの頃より彼寺に藏せしや今ハ知つがし  
元亨秋書曰釋戒深尾州賢林寺住侶也五十年餘不出寺門日夜讀法華又感求舍利一日  
庭上現舍利有音如雷色明白深試以鐵鎚擊鐵砧上俱陷而不碎又投水不沉深欲喜供養  
刻佛像安其中命終時向此像端坐結印拈阿彌陀而寂數日後身不爛壞跌坐  
儼然州人哀惜建廟闕之と云々本朝高僧傳も此人の傳をのせしり 本尊 土面  
を聖徳太子の作として天辨うりぬむ  
三十三所の一所として多分多し

青松山正眼寺 三河村のり曹洞宗 能登國總持寺末 中岳郡 下津村のりて禪宗近

國の總録に次應永元甲戌年當本の領主青生直正 寺傳に直正ハ

男直正の曾孫なりと云々年歴もたがひまゝなりと云々張州名勝志に青生尾張守直  
政源尊氏親族尾陽侯修理入道家貞子尾張守尊常斯波武衛是也と云々のに於て  
尊常と諸系圖ハ高経と云々當國守護武衛家の元祖なりと云々當方に位牌ありて正  
眼寺殿源朝臣前尾州太守青松直政大居士と云々其裏書に尊氏次男直正子  
青生尾張守直政と云々の後人 後小松院の勅許を得て草創し中岳郡

下津の郷金剛山傳法寺の廢跡と再興して堂塔伽藍と營き青生  
山 後青松山  
と改む 正眼寺と名づけ通幻寂靈禪師と開山し天鷹和尚

を住侶と次天先和尚ハ三代の任職あり傳法寺村 あちのりてハ  
下津々の内なり 水潦の害ありて住侶住りの煩ひ多うりけし元禄二己巳年今の

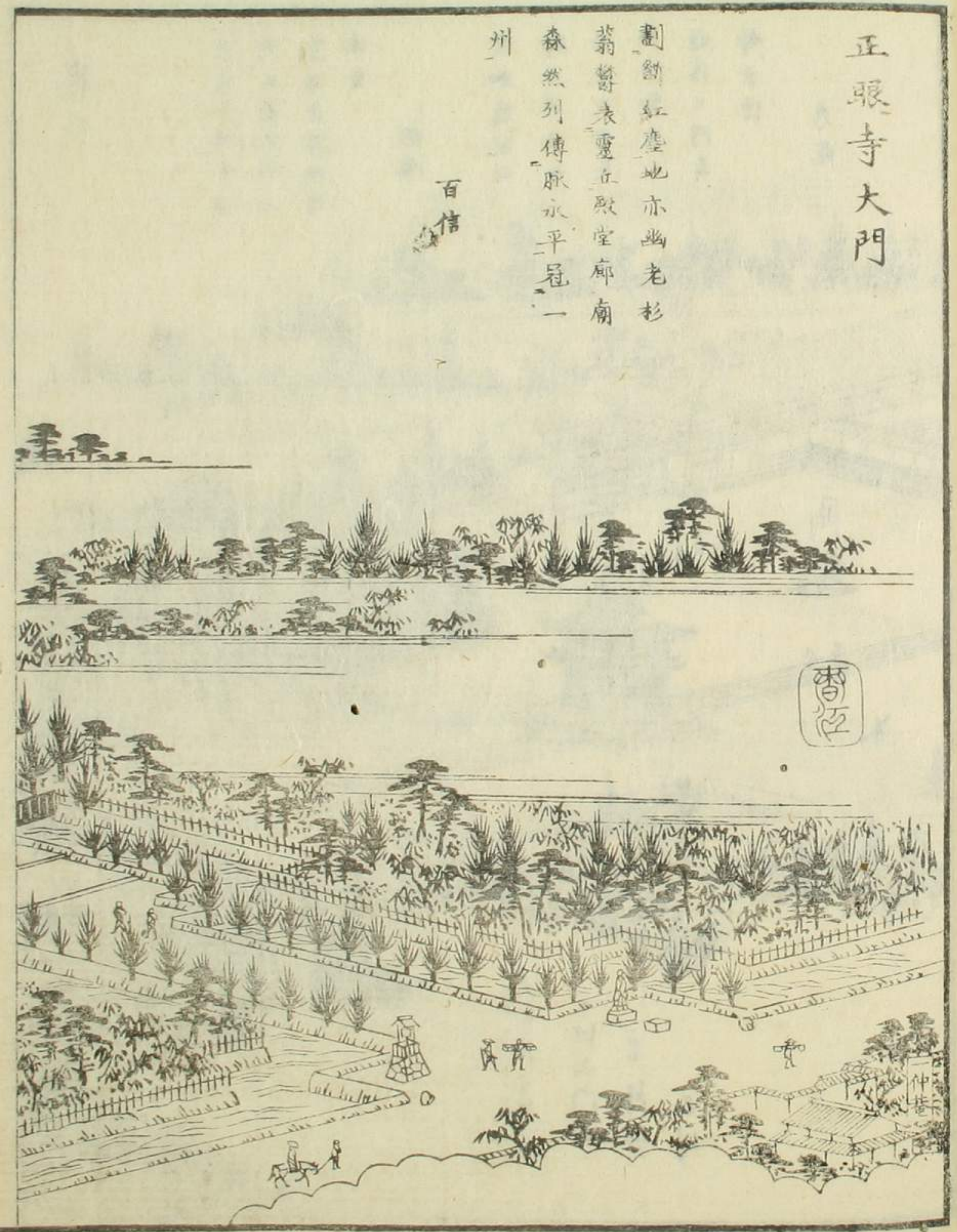
地ハ後日天齋禪師ハ加賀國の人俗姓ハ藤原氏大職冠二十一世  
の裔孫實親の後うりて幼年して出家し通幻和尚ハ後日同  
家の玄旨と究じ五十七歳して東國赴歷のついでに當本にあり  
うり領主青生氏道德と名付しと云々のありて當方と建えありたり  
かくて應永十九己辰年四月青生直政卒し其翌年正月二日天  
齋和尚も寂し是道元禪師五世の法嗣通幻寂靈の分子なり  
其頃ハ寺境十八町四面ありと云々三世天先和尚ハ大徳して學  
力衆小勝とある又雲奥寺に手跡多く跡とり其後長七  
壬寅年 性高院君天澤和尚ハ命じて大殿を新造し其夫  
より天澤の法嗣樹林和尚五百羅漢の像と造り山門と修造次  
かくて元和年中天山和尚山門と改造し殿堂と修補し又門前  
小大路と稱し三百六十間がなりと云々並松と裁て萬松閣ハ  
青生山と改て青松山とす 國祖君と云々當方に素縁し終日

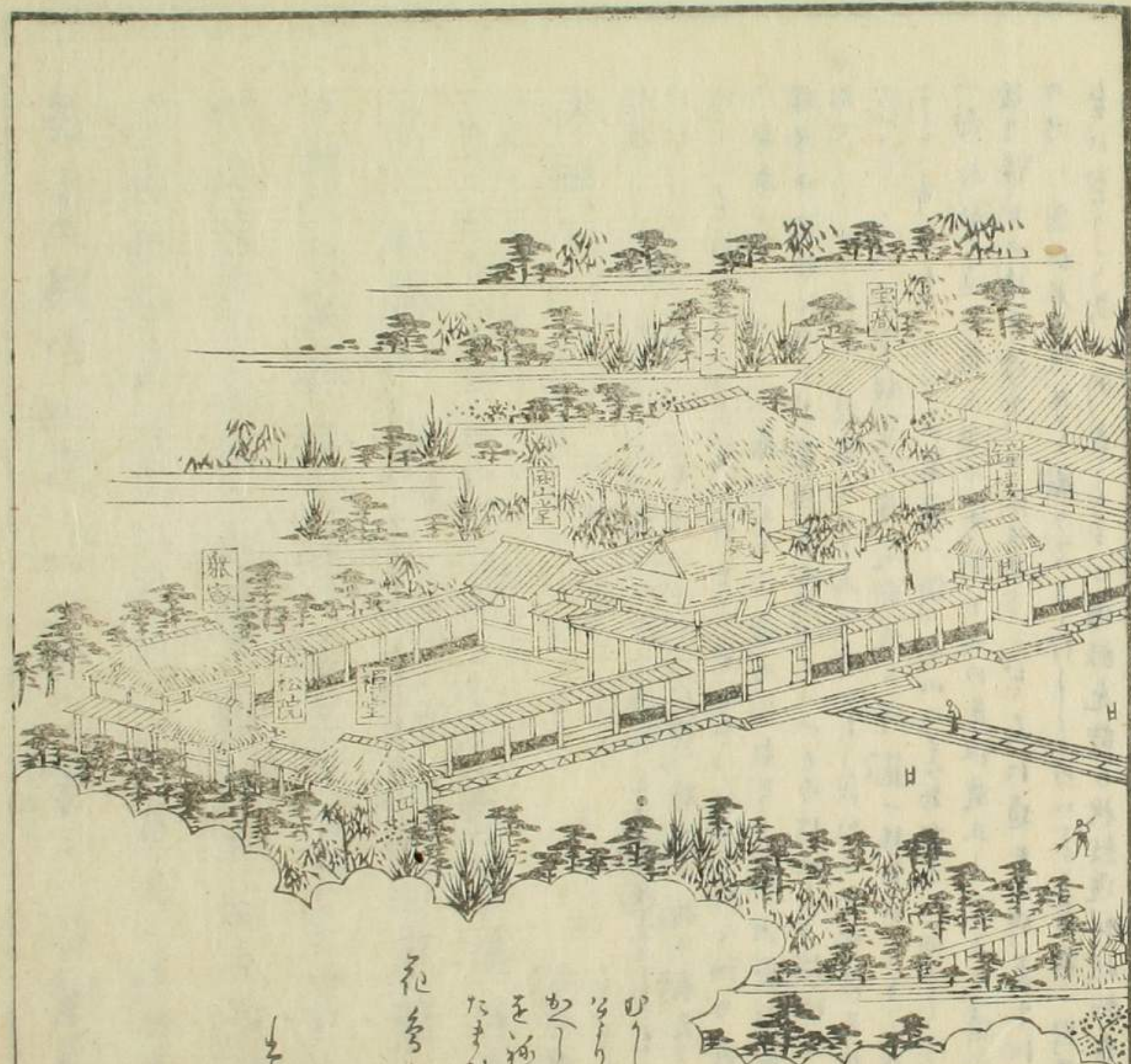
和尚と談笑し、其饗宴の土芋と皮のまぐさ奉りし  
 公御鷹馬將の途中、下津の正眼寺となりて、名に  
 尚の道德と慕ひ四方より来渴者多し、齋堂を  
 軌則とす、にたりけし、新に造作を加へ、と廣大  
 永平寺の良頓禪師、旧例あり、状と下して、僧綱  
 七年と終り、正保二乙酉年八月十八日、寂と臨終の時、其身の真  
 像小題す、上々紫衣、鷄寒上樹、下々紙子、鴨寒下水、との高致  
 のび、恩陵も、大徳のすえり、正保四丁亥年九月廿八日  
 永平寺の良頓禪師、旧例あり、状と下して、僧綱、且あると

正眼寺大門

劃割紅塵地亦幽老杉  
 蕭蕭表靈立殿堂廊廟  
 森然列傳脈永平冠一  
 州

百信





花寺小園也  
 かつき  
 のりた所乃  
 かしらり  
 利恭

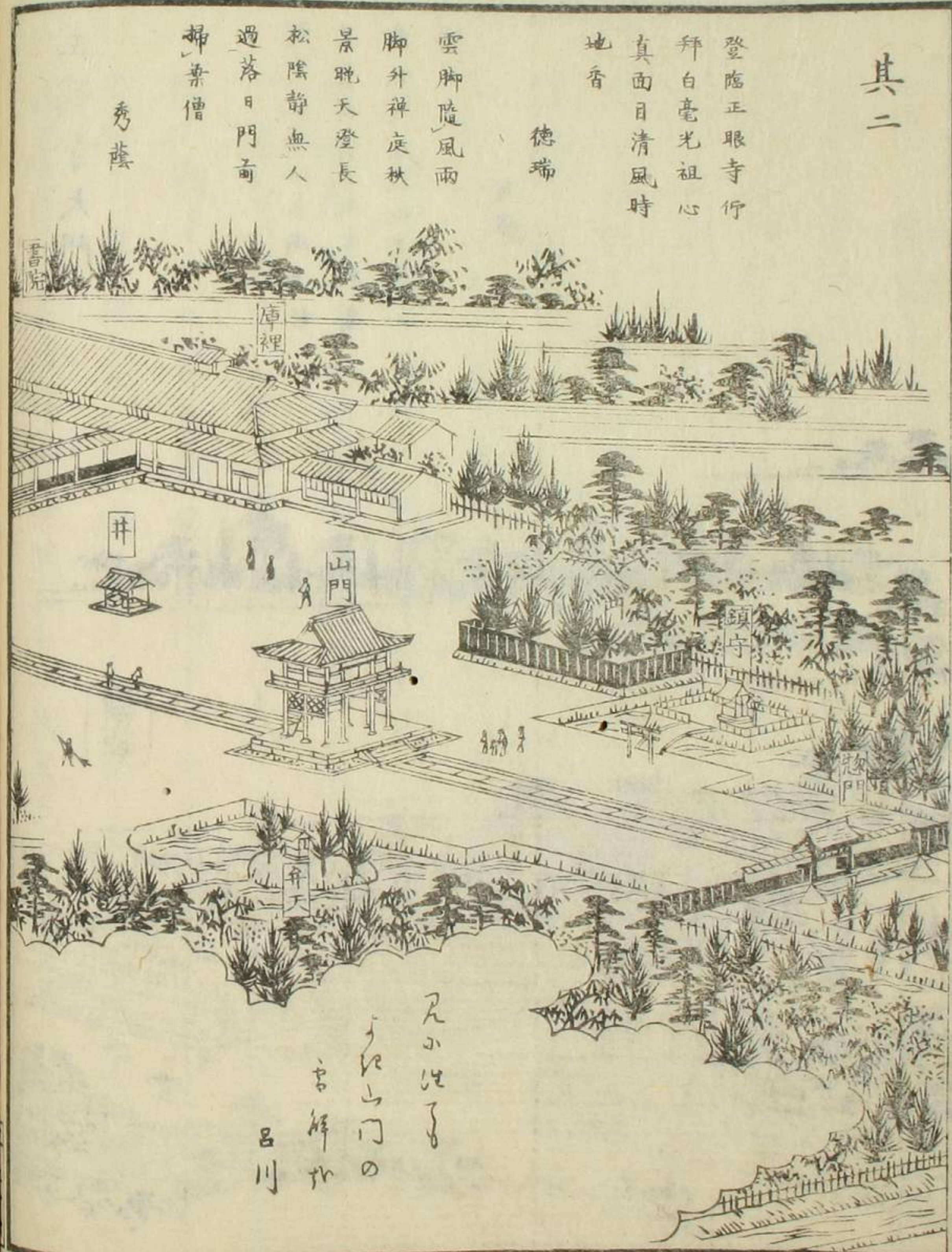
其二

登臨正眼寺行  
 拜白毫光祖心  
 真面目清風時  
 地香

德瑞

雲脚隨風兩  
 脚外祥庭秋  
 景晚天登長  
 松陰靜無人  
 過落日門前  
 掃葉僧

秀蔭



尺小池了

山門の

吉解

呂川

尚玉の録所洞宗一切の事と掌らじ翌年入滅す終り小僧  
て南陽嫩壽和尚と後任と次慶安二巳丑年嫩壽雲真寺の  
嫩泰和尚と本末の論起り僧録訴詔公裁に及びしが終に尚  
小利とほ雲真寺と永く尚ちの末寺とあり是尚ちの面目分

○佛殿 應永元年の善劍山門方丈寺同  
三年の建立浴室廻廊等同十年の修造大澤  
西保四年十月落成 銘小見し

大鎮守 白山権現其外伊勢高宮とあり  
日本大小の神祇を合せあり

寺寶 副海檀金の近生佛長二寸八分  
永年中下津川の五輪が倒より

引揚り天佛あり黄金の鑰石あり足分んより鉄槌あり  
けれいありて是に寄附せしむり胸間に槌の痕あり  
みりいも信のあり有りて作せし宝教をつくり  
の垂筆舎にのり同縁とあり諸人におせむ  
祿年中朝鮮征伐の時貴志善右衛門とありの彼地より鑑  
附りしは彩画の精密凡工の画く所ふあり  
ふりしは成正覚観音の像定朝作の竹篋一握唐竹とあり  
くく奇品あり九糸袈裟一領八間山の室に納りし  
一面赤部道正菴ト頌の寄附ト頌の先祖道正とあり  
後り禪相の後も後師に給仕せしとあり道正の碑  
のあり 國祖君一燒芽と盛りてし  
もにありてあり例式あり僧録免許の狀教通制札教扁  
觀音妙藏梵網經二卷

天光和尚の筆ありて應永庚子四月廿一日書写の愛書あり  
音名ありて天光和尚の筆あり維摩詰像雪舟筆の花鳥画古法眼元信筆又出山  
釈迦妙音辨財天像も元信筆とあり唐画の山水花鳥佛像の古幅多く断例記  
正眼卓得集等の古記録信長公信雄公とあり其外の澁州制札ホ筆とあり

寺領 津田左近冠跡一任巻と後佛像とあり己が他家とあり  
を盛松院の周圍とあり信長公に懸祈せしあり  
安堵とありしあり信長公父の老を信長公に懸祈せしあり  
九日あり同十八年の秋又散失日と田中兵部大補吉政秀次公の命とあり  
進一文祿年中秀吉公の願の朱印とあり性高院君神朱印とあり  
より今に 塔頭 二仲菴 二代忌 二月二日の曹洞諸山の大衆集會とあり  
近持あり 雁漢とあり

小牧驛 名古屋より本宿迄一む馬継と善師登出四と後伏見宿  
通次町登を農高町をり杯休泊の旅店多し正事記に昔  
小牧山の南の麓 今元小牧  
一街道ともつけ給並松と植すそ今の小牧宿とあり

小牧山 小牧沢の西にあり一名と飛車山とあり  
系の虎に福立しとあり

望小坳山  
在千春獨立小坳山  
塚田大峯  
今摘眼中

似合しき亦此る多わて三日の月 車池

### 小牧山城址

小牧山の上小柄尾陽雜記古城志等云村より乾の方  
少りて四方三三路西の方より戦標の置りたる也  
永禄六年信長公清

須より移りて志らく信長所と但食物活に小牧越とわたりは時

### の幸あり

参考尾張古城跡記に里人記曰永禄六年癸亥七月より小牧山要害に取立南に池  
田勝入辰巳に丹羽幸秀其外諸屋敷宅をわたり作付同九月四日清洲より

浄後り同七年八月約自小牧山小おそ勢掃して大軍を陣ひ岐阜瑞香山織田真紀

曰築城於小牧山山麓通川水使運漕甚便則士臣甚喜遷從不日

而土木畢功此蓋公經畧也小口城並小牧山相距一里計城内士

卒恐小牧城成而迫出城退保犬山城云云安土創業録に尾州小

牧山のみ城と築き小川城成統一ける時信長京都より連發所

召巴と下され況候のまより百散下り作付とて左ぬの連なり所

塙茂元岡田見柁富藤本の北中おどりの者にら作後り今や連

致所差を復たして信長公より二百貫文家中より百貫文又おけり

福らりして召巴も尾州小川に引けし召巴も則召巴小對面しり新城

の祝儀に幾白とて一宮召巴の幾白に朝戸わりの麓に柳橋

くれ信長とてすまひ召巴は及びより幾白に手あり新城の

祝儀小幸通を呼わりしてに幸もわんにあけしとて不吉なり

と居長にたり淨氣を變じて宮ひとて召巴と吾面目其夜

迎のりけるしぞゆけるらん

召巴が富士見道記其時の日記に文中に  
たると本府海西郡新清原を往て  
小牧にありしにありて面目ありて款迎ふ  
去運程の事ふは召巴小牧とて連なりし

少いもつぎつぎの城よりゆきのむら  
に召巴が朝三万の幾白とていひと杉函林が  
ふとつぎつぎの城よりゆきのむら今あゆみ  
巴の碑ありは山  
の園よりなり

山の麓の小牧村間村村中村名これ其時の城下に居て

士農工商の居地ありしを永禄七年九月美濃の厚見郡稻葉山

の城と責取移りてい後廢城のめありしが天正十二年秀吉公と

信雄とてありしありて長久手の合戦に及びし時此古城と



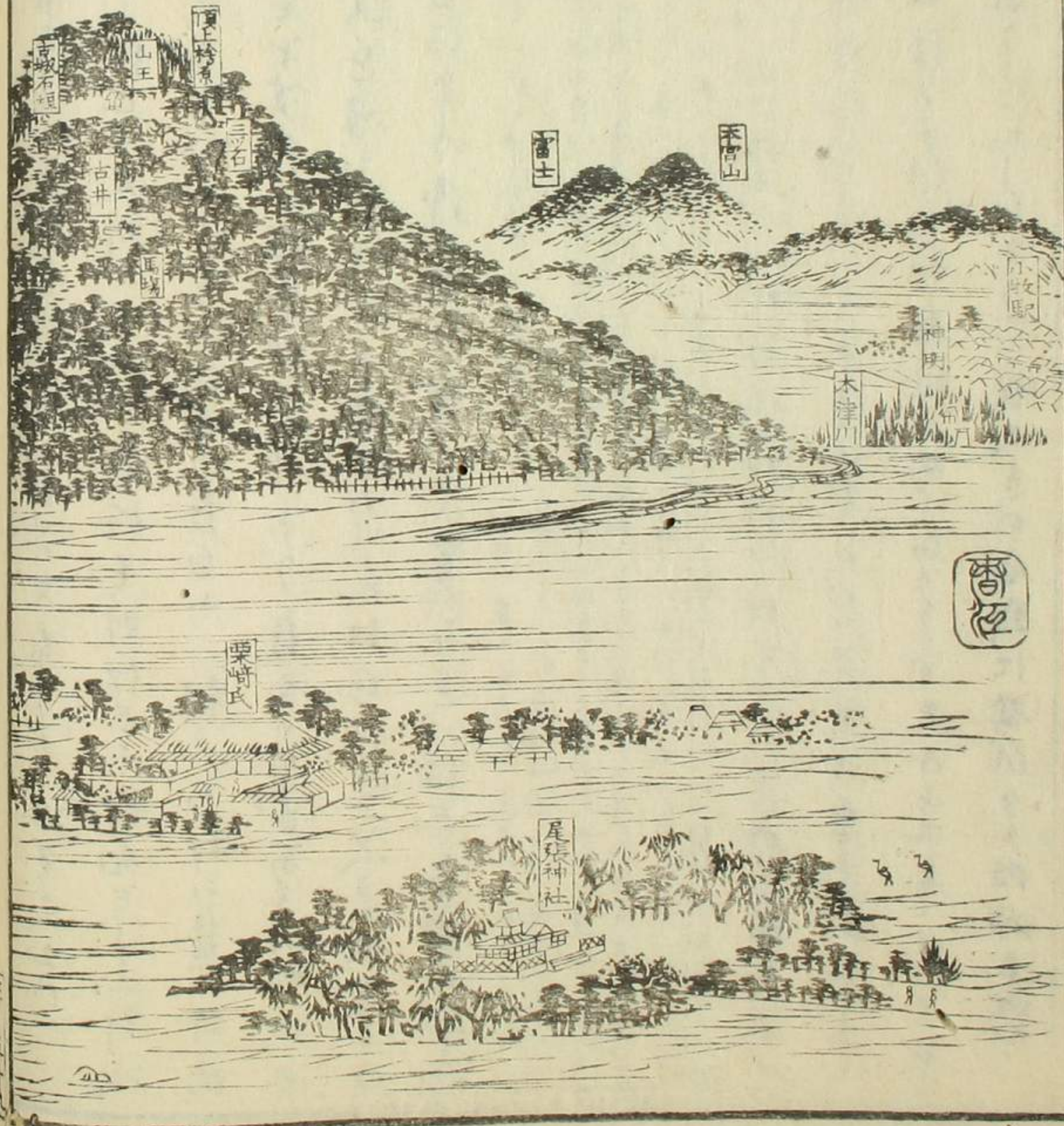
小牧山  
尾張神社

智黠雖工本  
不經豈如神  
算有儀聖儼  
然牙帳留芳  
蹟一凸孤山  
萬古青

高木當友

牧野真成小  
牧山萬旗東  
去樹如烟而  
降泰誓無人  
記唯屬樵歌  
百幾年

服部牧山



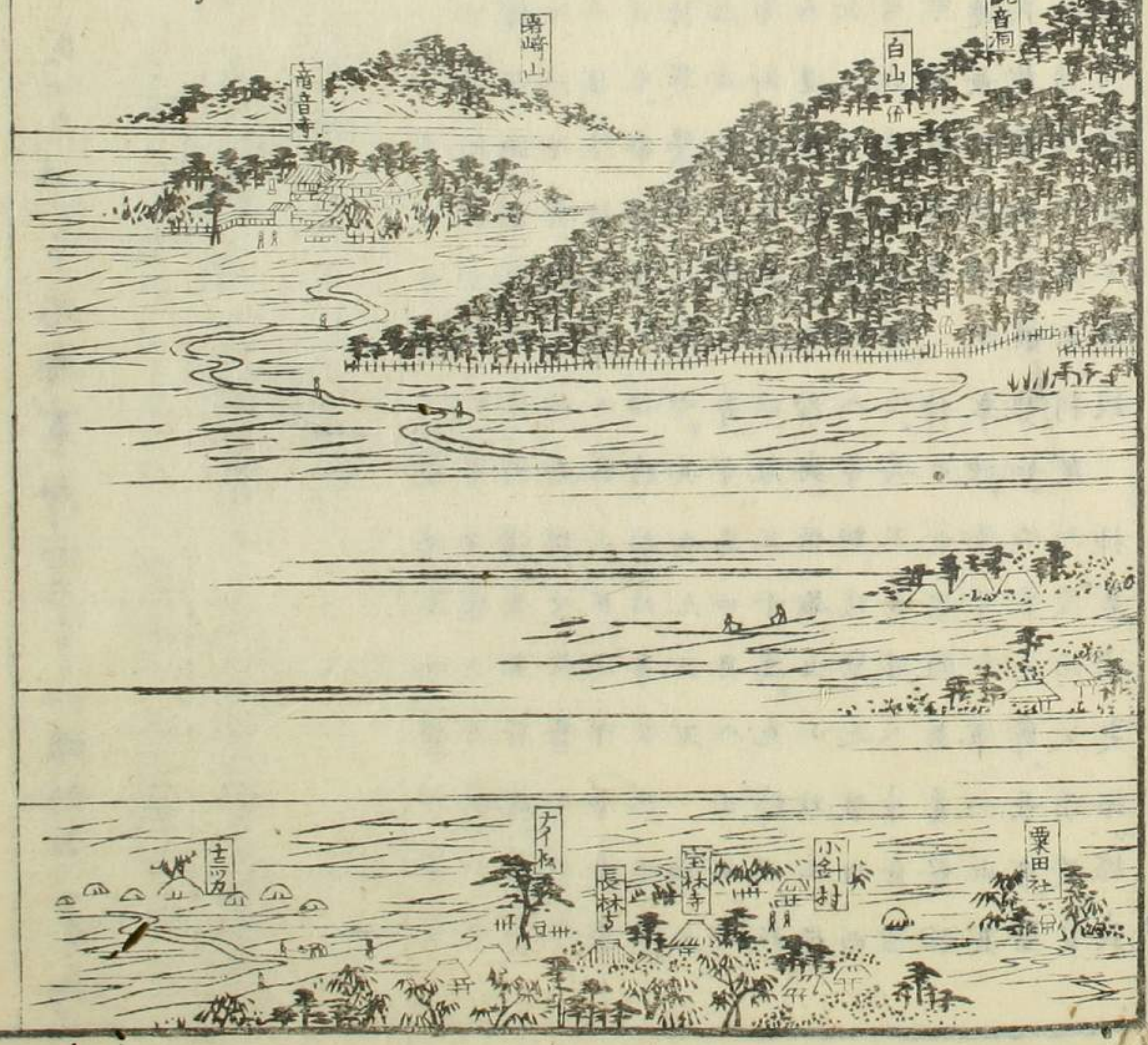
香煙

一舉義兵壽域開猶看  
旆色止雲隈川通南海  
如流練山在平田若覆  
秋綠樹相交常靄群  
峰遠阻獨雀鬼千秋萬  
古甘棠德長對兩城是  
盛哉

江崎惟孝

龍音寺

家にしんあまの  
まことつみまはる  
けつさつそん  
啓



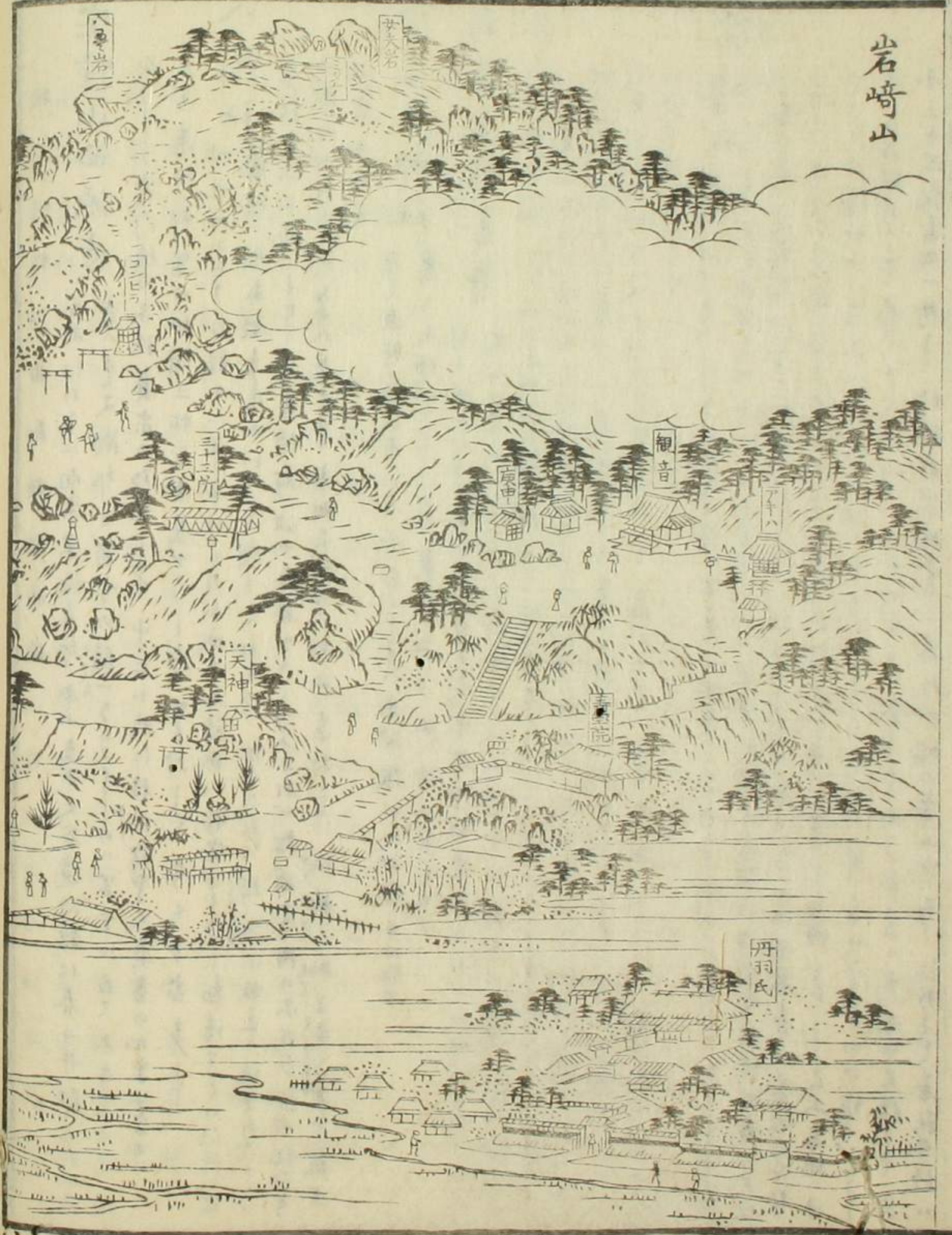
神君の御本陣と定りし一が其御軍沖心のまに勝利ありし御  
 吉例よありし御山ありし 國祖君とよりの御代に其地とよひ  
 まし今も御山のうち雜人の入事と禁じし御軍の事蹟  
 忌諱多し碑文に漢くしてに漢り

諸馬後銳成旋間陣使聽池秀自信衆與夫小  
 軍伏折列施道之使大之田吉將雜入織小  
 道尸神剛與進迹須留勝酒入能八清洲欲雄者  
 一兵之勝長君至之康井督諸退而援請信隆東  
 戰土兵遂可揚久暹神火軍屯樂田曠日相小神其  
 而崩機長勤旗于矣三康川敷正等守其持放山拒信長臣皆屬秀十  
 斬勝競可力督戰高陽出入等與信雄出之小先秀之陣營交許之  
 首入放指督戰高陽出入等與信雄出之小先秀之陣營交許之  
 餘不銃士神其等與信雄出之小先秀之陣營交許之  
 級利勢卒神其等與信雄出之小先秀之陣營交許之  
 衆如欲君其等與信雄出之小先秀之陣營交許之  
 神大雨衝之兵意後軍出之小先秀之陣營交許之  
 君潰而五右瞻勝軍出之小先秀之陣營交許之  
 頃而擊軍氣奮倉惶而  
 與振子長可出其

信雄入小幡凱旋小等已敗岷岷秀吉驕而將之出軍  
 馳至龍泉寺肯而勝馬秀吉自敗岷岷秀吉驕而將之出軍  
 既而聽易神君於樂田遠引兵退息以詰朝擊之乃止  
 良將也班師於大義萬勇王有見於天伏惟古受  
 命創業之君其於大義萬勇王有見於天伏惟古受  
 武濟昆陽而敢敵是也夫秀耐唐太宗也天伏惟古受  
 破精銳之宋金剛徒也夫秀耐唐太宗也天伏惟古受  
 攀其雄者翼難也夫秀耐唐太宗也天伏惟古受  
 援其義大勇而遠賢於漢唐之英主天啓之萬有千  
 矣非人聖子而後受命唐之英主天啓之萬有千  
 洪基方今神哉聖子而後受命唐之英主天啓之萬有千  
 者神哉聖子而後受命唐之英主天啓之萬有千  
 北里神君之曾孫繩命綿業乃克續從麟趾之萬有千  
 己今歲元祿傳祿一之孫勝區也願思不一月神望小  
 叙其事以孫傳祿一之孫勝區也願思不一月神望小  
 文王且獻銘萬代之守之謂也臣健不拜首而承  
 記之且獻銘萬代之守之謂也臣健不拜首而承  
 惟昆三威維魏之王其今三神哉聖子而後受命唐之英主  
 非陽軍起邦藩屏山曰  
 乃柏百氣蜀上太代一之孫繩命綿業乃克續從麟趾之萬有千  
 代壁万吐險直守之結成寅也願思不一月神望小  
 天讓胸中虹蓬臣健不拜首而承  
 歷仁勝良赴蓬臣健不拜首而承  
 世懷入平々島揚波臣健不拜首而承  
 具豺授失策夫臣健不拜首而承  
 瞻虎首策夫臣健不拜首而承  
 于義秀桓膽膺吹擊空  
 秦制吉楚折英擊空  
 于蛟卻折英擊空  
 嵩竜



岩崎山



登岩崎山別人

菅克峯

社説詩載  
空山吹管倚崔嵬白石  
青松映綠苔花落鳥啼  
春欲暮離情難盡掌中  
杯



杜人多、能合、山内、宮居

の山、つひ、所、云々あり

丹羽氏家傳妙劑

丹羽氏の家傳、秘方、丹羽氏の中、留飲、舟、勞、黃、腫、病、  
の薬、つひ、所、云々あり

二重堀岩跡

二重堀村にあり、天正十三年、秀吉公、小牧山、小牧、  
の戦、岩跡、四月廿一日、敗軍、  
か、津、子、田、に、あり、の、友、を、信、明、を、た、迎、名、は、若、に、より、て、  
よ、ん、若、と、多、く、  
去、き、八、長、近、青、塚、の、岩、を、武、蔵、長、可、を、入、て、  
田、縣、神、社、に、あり、

田縣神社

延喜神名式、丹羽郡、田縣神社、本國帳に、丹羽郡、從、  
三位、田方、天神、と、あり、  
豊饒と守り、また、女神、あり、  
里、人、の、住、居、此、社、より、三、町、ぐ、り、西、  
の、方、れ、田、面、の、字、に、荒、田、と、呼、ぶ、地、あり、  
稻、種、命、の、糸、に、  
其、本、貫、の、地、あ、ん、も、

小りやわらん例祭

正月十五日、男、並、形、わ、ハ、セ、リ、人、形、と、造、り、  
主、惠、郷、上、末、下、末、の、二、村、と、  
郷、々、り、神、風、抄、の、尾、張、國、未、仲、厨、と、今、の、文、字、と、

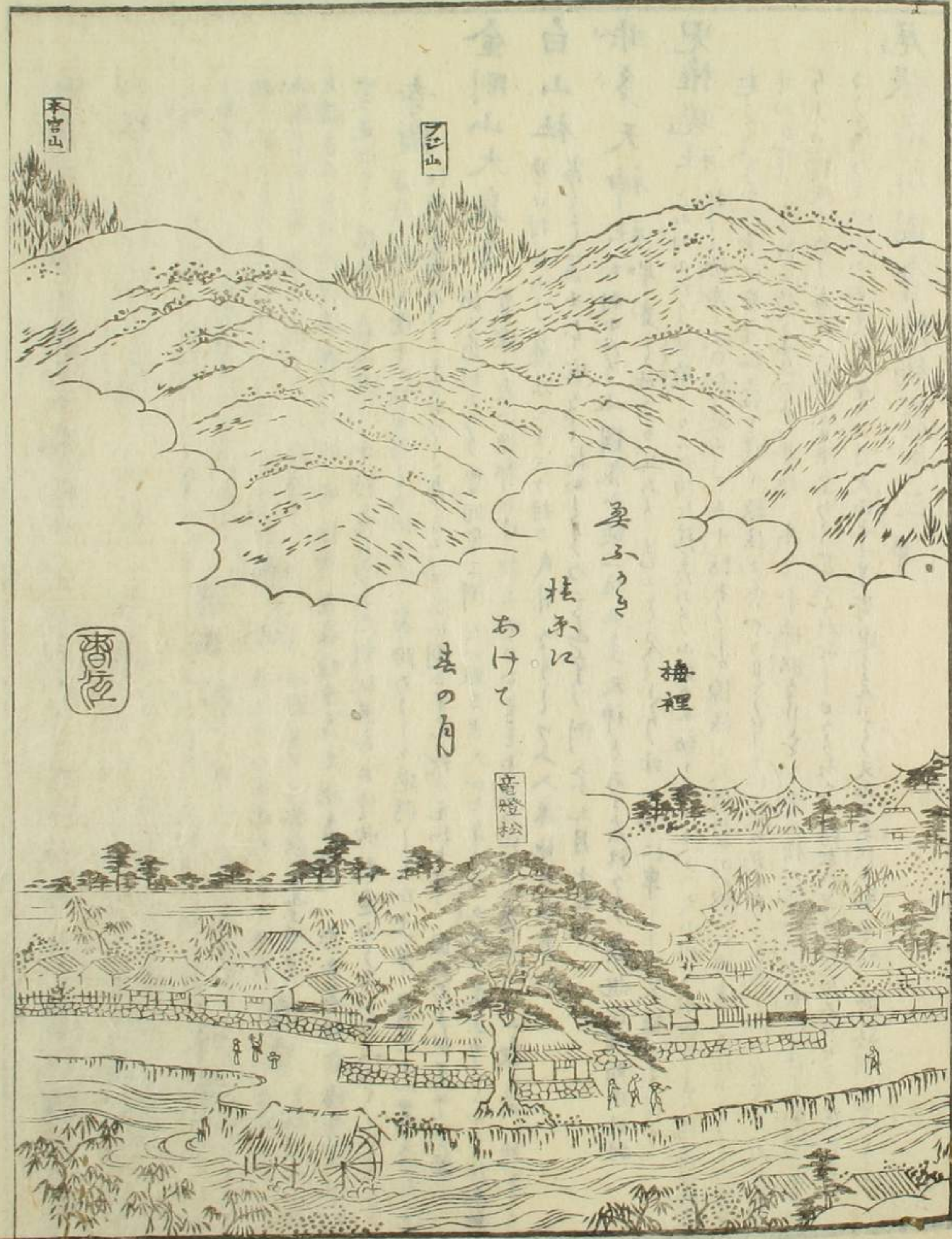
愛藤山蓮光院小松寺

小松寺村にあり、真言宗、  
天、平、年、中、行、基、菩、薩、は、山、  
の、半、腹、一、字、と、創、建、  
世、音、白、衣、の、姿、  
實、乃、與、流、邊、加、戸、  
咲、加、賀、留、藤、  
と、開、き、居、り、  
兼、安、三、癸、己、年、内、大、臣、平、重、盛、國、毎、一、字、の、道、場、と、建、て、家、門、永、  
久、の、祈、禱、を、修、  
寺、傳、ふ、り、  
焼、失、  
ゆ、り、来、て、佛、閣、と、再、建、  
少、の、  
丹、羽、長、秀、の、吹、拳、と、

主惠郷

上、末、下、末、の、二、村、と、  
郷、々、り、神、風、抄、の、尾、張、國、未、仲、厨、と、今、の、文、字、と、

の、半、腹、一、字、と、創、建、  
世、音、白、衣、の、姿、  
實、乃、與、流、邊、加、戸、  
咲、加、賀、留、藤、  
と、開、き、居、り、  
兼、安、三、癸、己、年、内、大、臣、平、重、盛、國、毎、一、字、の、道、場、と、建、て、家、門、永、  
久、の、祈、禱、を、修、  
寺、傳、ふ、り、  
焼、失、  
ゆ、り、来、て、佛、閣、と、再、建、  
少、の、  
丹、羽、長、秀、の、吹、拳、と、



本吉山

山

要ふくま

桂木に

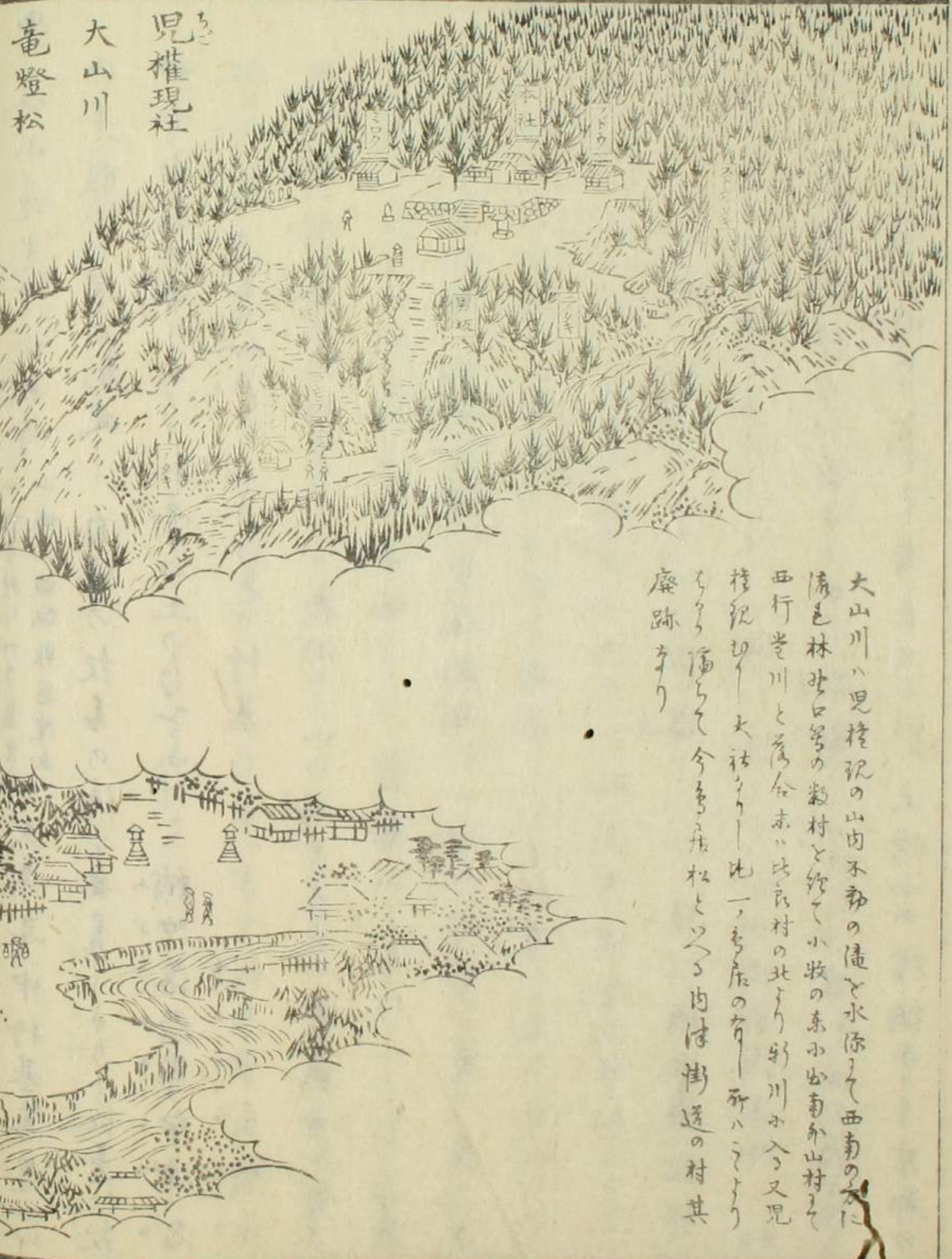
あけて

去の月

梅裡

香燈

香燈松



見権現社  
大山川  
竜燈松

大山川ハ見権現の山内不動の滝と水添く西東の山に  
傍に林野の村とゆる小牧の東に山南の山村にて  
西行堂川と名合ふ此の村の北より新川が入る又見  
権現切大社より此一、多座の有り新ハより  
もろ、備ら今も庄松とつる内は街道の村其  
廢跡あり

町奉行と勤王後小五奉行の一人のあたり其頃法印秀吉に清ひしる

山林のむねも多付じつ云〇本尊 千手觀音の像ハ昔云の作とて大我敷通の家にありと前田云以法印を傳て旧傳の像共し

櫻樹 天竺の古樹とて岳火のまじりてありと云ふ

柳樹 本寺のありてありと云ふ

塔洞 古三尊の空塔ありて岳火のまじりてありと云ふ

寺室 法隆寺の古寺ありと云ふ

寺領 兼安三年 七堂十二坊と長五の所多く寄附ありて退治し天正十一年八月三十二貫文の代を

金剛山大泉寺 他之内村ありて曹洞宗三關村に眼も未天正七年 是五氏の建立なりと云ふ

白山社 此口村にありて源平三十三ヶ村の氏神なりと云ふ

非多天神社 林村にありて本國帳に從三位非多天神とありて友社なりと云ふ

児権現社 大山村にありて峻險なる山の頂に法光ありて山の不動の像と云ふ

尾張名所圖會後編卷之三 甲

